

V 診療業務概要・ 活動報告

～解説～

①概要について

1年間の活動内容等を掲載しています。

②新規登録疾患について

2018年に登録した病名を診療科別に抽出し、ICD-10（国際疾病分類）3桁で集計を行い円グラフで掲載しています。

抽出条件

- (1) 2018年1月1日から 2018年12月31日に受診した患者。
- (2) 診療科別で対象患者に主病名登録した病名（疑いは除外）を抽出。
- (3) ICD-10 3桁で集計、上位を表記し、それ以下はその他と表記。

留意事項

- (1) 複数の病名が登録されている患者については病名ごとに集計（延べ）。
- (2) 比率については小数点第2位 四捨五入。

③活動報告について

この項目は、各々の希望に応じた資料を掲載しています。

V 診療業務概要・活動報告

総合内科

1. 概要

高血圧症、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病は狭心症や心筋梗塞など虚血性心疾患の強力な危険因子である。これまで総合内科ではとくに糖尿病をメインに、内臓脂肪の過剰蓄積・耐糖能障害・高血圧・高中性脂肪血症をあわせもつメタボリックシンドロームや高尿酸血症に関しても、積極的に診療をおこなってきた。

1996年来、総合内科ではながらく糖尿病・耐糖能障害、高血圧症、脂質異常症などの外来診療と糖尿病体験入院をおこなってきた。2010年4月、糖尿病・内分泌内科の新設にともない、糖尿病外来や糖尿病教育入院などの糖尿病診療はおもに糖尿病・内分泌内科にておこなわれている。2010年4月からは、新規を除く糖尿病、高血圧症、脂質異常症などの外来診療を継続するとともに、原因不明の発熱、専門科に振り分けられない初診患者の診療をおこなっている。

総合内科の病床は2010年よりなくなっていたが、総合内科医師の赴任とともに、不明熱の原因検索などの入院のために2018年4月より3床が復活した。

(第二部長 鳥居 俊男)

2. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	7,475人	年間外来新患者数	1,661人
年間入院患者数	628人	年間入院新患者数	33人

呼吸器内科・アレルギー内科

1. 概要

2018年度は、部長1人（菅沼）、副部長3人（竹山、真下、大館）、医員2人（倉橋、飯島）の、専任スタッフ6人で診療を行った。

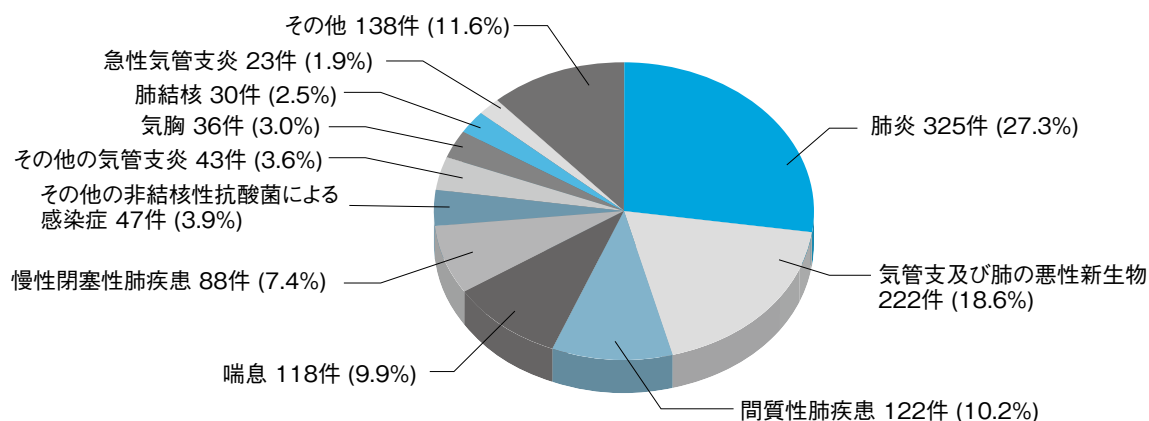
患者中心の医療を心掛け、外来・病棟看護師、薬剤師、リハビリテーション技師と協力して診療に当たっている。また、呼吸器外科医師、放射線科医師とも連携を密にし、治療方針決定のために定期的に合同でカンファレンスを行っている。

日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本アレルギー学会の教育認定施設として、研修医や専攻医の教育に当たるばかりでなく、スタッフ一同もより良い医療ができるよう日々研鑽を積んでいる。また、東三河地区の地域がん診療連携拠点病院の役割を担い、名古屋大学呼吸器内科の関連病院として臨床研究にも努めている。

（部長 菅沼 伸一）

2. 新規登録疾患

総数：1,192件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
肺炎	肺炎,詳細不明	263	J189
	食物及び吐物による肺臓炎	21	J690
気管支及び肺の悪性新生物	気管支及び肺の悪性新生物気管支又は肺,部位不明	176	C349
	気管支及び肺の悪性新生物上葉,気管支又は肺	21	C341
間質性肺疾患	間質性肺疾患,詳細不明	71	J849
	肺線維症を伴うその他の間質性肺疾患	38	J841
喘息	喘息,詳細不明	100	J459
	喘息発作重積状態	18	J46
慢性閉塞性肺疾患	慢性閉塞性肺疾患,詳細不明	57	J449
	気管支拡張症	18	J47
その他の非結核性抗酸菌による感染症	非結核性抗酸菌感染症,詳細不明	45	A319
その他の気管支炎	詳細不明の慢性気管支炎	28	J42
	気管支炎,急性又は慢性と明示されないもの	15	J40
気胸	その他の自然気胸	32	J931
肺結核	肺結核,細菌学的又は組織学的確認の記載がないもの	20	A162
急性気管支炎	急性気管支炎,詳細不明	23	J209

3. 活動報告

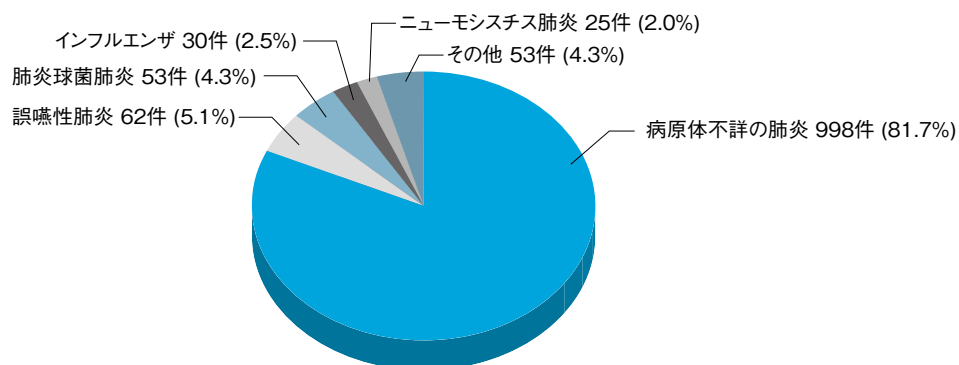
(1) 患者状況

年間外来患者数 26,943人 年間外来新患者数 2,439人

年間入院患者数 27,632人 年間入院新患者数 1,813人

(2) 肺炎別頻度

総数：1,221件



(3) 科指定5疾患

	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	肺炎	1,221	4	間質性肺炎	401
2	肺癌	472	5	慢性閉塞性肺疾患	367
3	気管支喘息	420		計	2,881

消化器内科

1. 概 要

浦野副院長を筆頭とする6人のスタッフ、専攻医8人、後期研修医1～2人で診療に従事している。
山田、山本、坂巻が消化管、浦野、内藤が肝臓、松原が胆道・膵臓を担当し、

- ①消化器癌のX線・内視鏡・US診断
- ②食道・胃・大腸腫瘍に対する、ESDをはじめとする内視鏡的治療
- ③IBDに対する内科的治療
- ④胆道・膵疾患に対するEUS（-FNA）、造影US・EUS、ERCP（-IDUS）の診断成績
- ⑤ERCP後膵炎の予防
- ⑥閉塞性黄疸に対するERCP（経乳頭の内視鏡）下、EUS（超音波内視鏡）下治療
- ⑦ウイルス性肝炎の治療と長期経過
- ⑧肝癌の画像診断と内科的治療-TACE、RFA、リザーバーを用いた化学療法など

を主な研究テーマとしている。

一方、全消化器領域に対応すべく日常診療を行っており、嚥下困難患者に対する内視鏡的胃瘻造設術の依頼にも随時対応している。

この他、食道胃静脈瘤、胃・十二指腸潰瘍、大腸憩室などからの急性消化管出血に対するEIS、EVLやクリッピング止血、内因性肝出血や壊死性膵炎に対するIVR、急性胆道炎に対するERCP、PTBD、PTGBD、EUS下ドレナージ、そして劇症肝炎や重症急性膵炎など重症消化器疾患に対する集中治療を積極的に行い、地域の救命救急医療に貢献している。

学会発表並びに若手医師に対する教育・指導も重要視しており、2018年には日本内科学会東海支部主催第234回東海地方会 優秀演題賞、日本消化器病学会東海支部第128回例会 研/専修医奨励賞を受賞した。

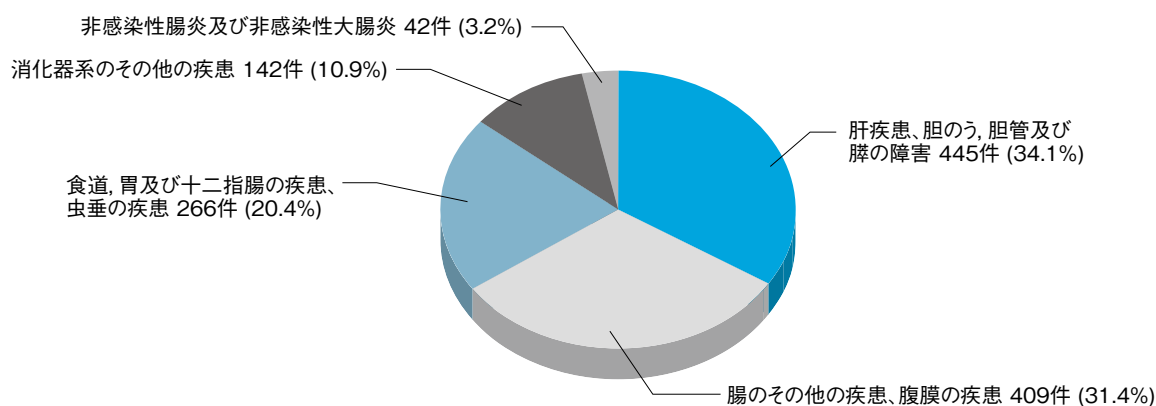
（第一部長 浦野 文博）

（文責 第四部長 松原 浩）

2. 新規登録疾患

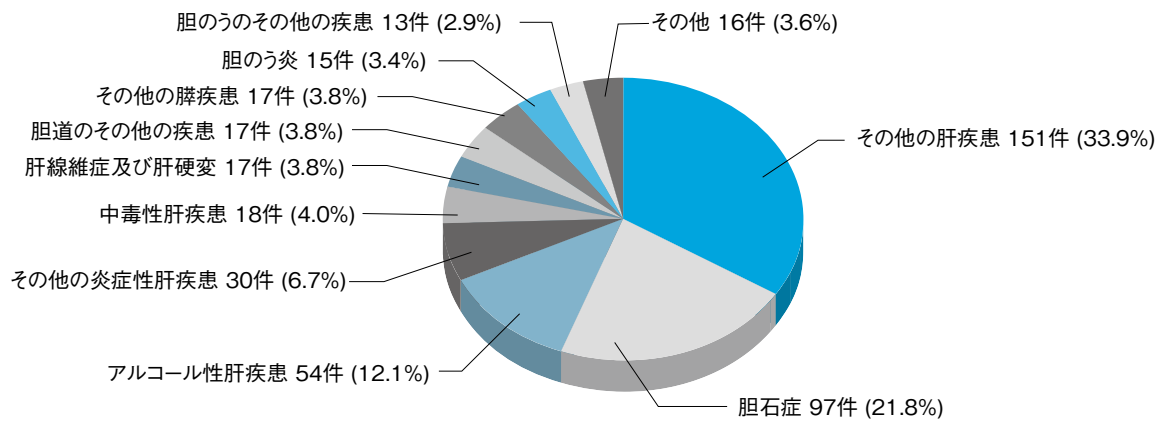
（1）新生物以外

総数：1,304件

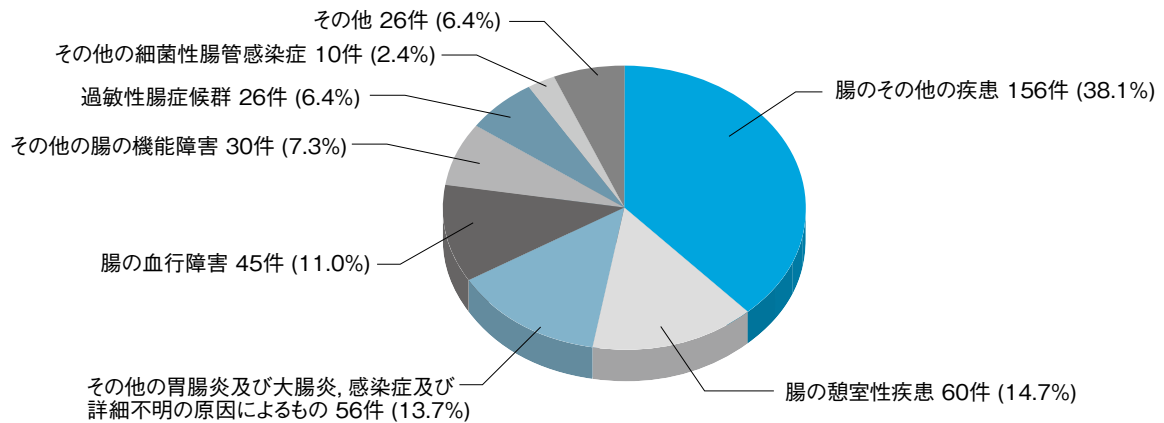


上位3位の詳細

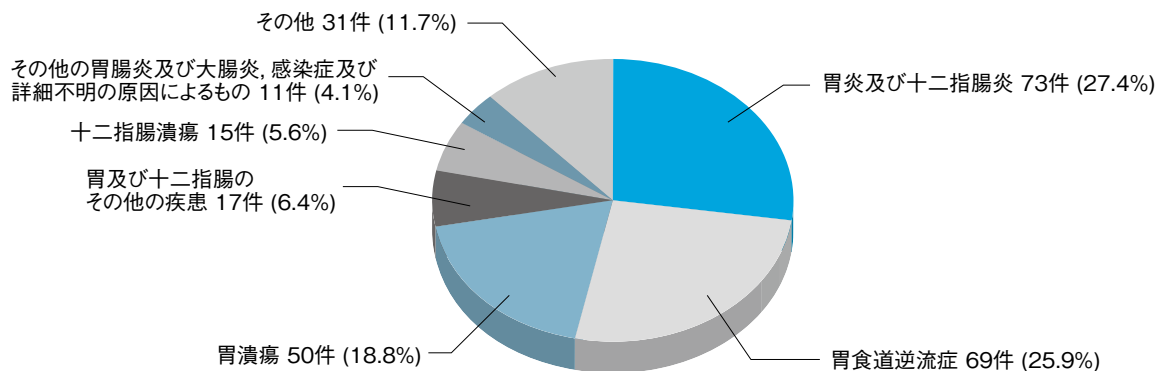
①肝疾患、胆のう、胆管及び膵の障害：445件



②腸のその他の疾患、腹膜の疾患：409件

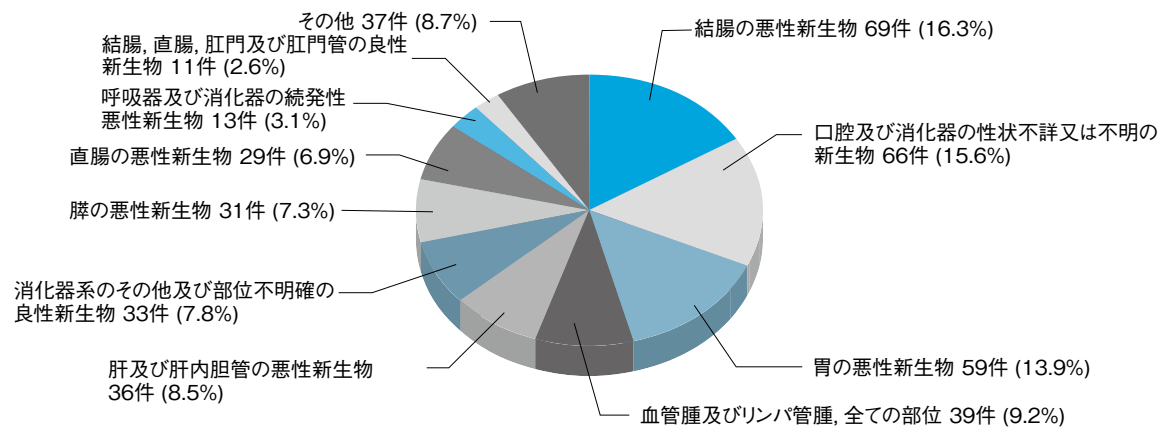


③食道、胃及び十二指腸の疾患、虫垂の疾患：266件



(2) 新生物

総数：423件



3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	49,702人	年間外来新患者数	5,225人
年間入院患者数	32,348人	年間入院新患者数	2,647人

(2) 当科で経験した主な疾患の新規症例数

胃癌	241例
大腸癌	237例
肝細胞癌	75例
脾癌	49例
胆道癌	43例

(3) 主な検査治療実績

胃内視鏡検査	6,847件
大腸内視鏡検査	4,198件
消化管超音波内視鏡検査	98件 (うち穿刺生検 19件)
内視鏡的粘膜下層切開剥離術	食道/胃 111件、大腸 44件
胆膵超音波内視鏡検査	305件 (うち穿刺生検 52件)
内視鏡的逆行性胆管膵管造影	581件
腹部血管造影検査	125件
うち 動脈塞栓術	121件
動注化学療法	12件
リザーバー留置による動注化学療法	3件
ラジオ波焼灼術	39件

循環器内科

1. 概 要

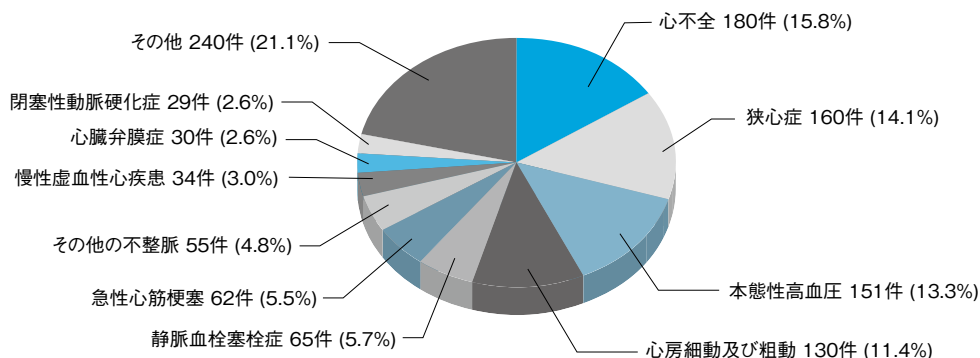
2018年は、心血管/造影カテーテル検査を561件（うち緊急検査147件）に施行した。経皮的冠動脈インターベンションは163例（成功率95.7%）で、その内、血管内超音波を157例に、ステント留置術は149例に施行した。再狭窄防止のための薬剤溶出性バルーンは9件に使用した。観血的虚血評価のため、圧ワイヤー検査を17件に施行した。また、血行動態の悪い症例には、大動脈内ポンピングを13例に施行した。心原性ショック例・心停止例（来院時心肺停止も含む）には、経皮的心肺補助装置を装着した（4例）。一方、不整脈診断の為に心臓電気生理学的検査を51例に、カテーテルアブレーションを36例に施行した。

多列検出器CTによる冠動脈CT検査を164例に施行した（320列多列検出器CTが新たに導入され、より短時間に低被ばくで冠動脈CTの撮影が可能となった）。

（部長 成瀬 賢伸）

2. 新規登録疾患

総数：1,136件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
心不全	うっ血性心不全	118	I500
	心不全, 詳細不明	55	I509
狭心症	狭心症, 詳細不明	68	I209
	その他の型の狭心症	45	I208
本態性高血圧	本態性(原発性)高血圧(症)	151	I10
心房細動及び粗動	発作性心房細動	65	I480
	心房細動及び心房粗動, 詳細不明	60	I489
静脈血栓塞栓症	下肢のその他の深在血管の静脈炎及び血栓(性)静脈炎	65	I802
急性心筋梗塞	下壁の急性貫壁性心筋梗塞	27	I211
	前壁の急性貫壁性心筋梗塞	23	I210
その他の不整脈	心室性早期脱分極	24	I493
	心室細動及び粗動	10	I490
慢性虚血性心疾患	陳旧性心筋梗塞	21	I252
心臓弁膜症	大動脈弁狭窄(症)	21	I350
閉塞性動脈硬化症	全身性及び詳細不明のアテローム硬化(症)	25	I709

3. 活動報告

(1) 患者状況

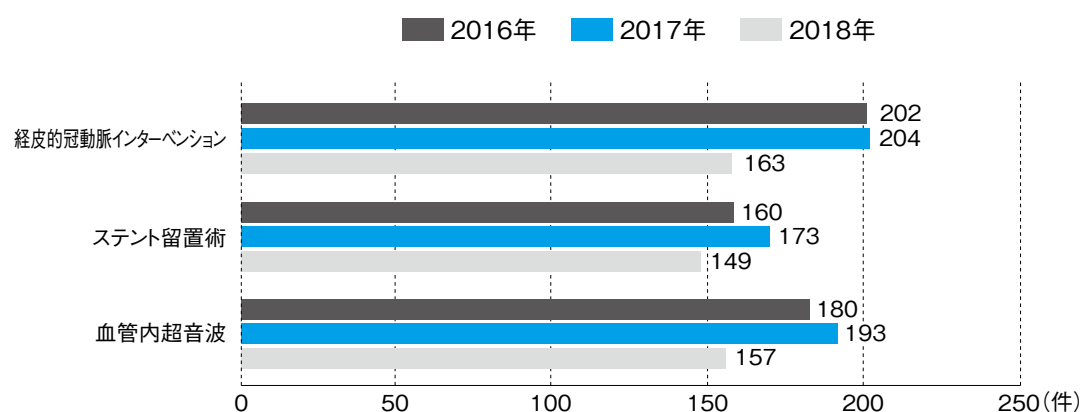
年間外来患者数 17,043人 年間外来新患者数 1,212人
 年間入院患者数 7,649人 年間入院新患者数 793人

(2) 科指定4疾患

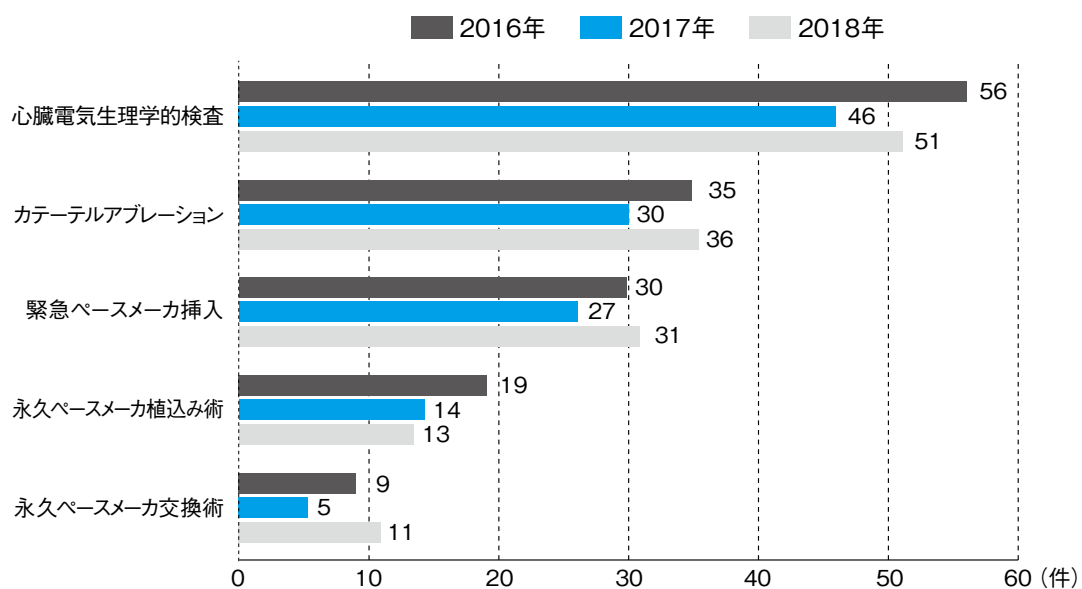
	疾 患 名	件 数 (件)		疾 患 名	件 数 (件)
1	心不全	642	4	肺血栓塞栓症	22
2	狭心症	418		計	1,221
3	急性心筋梗塞	139			

(3) 治療実績

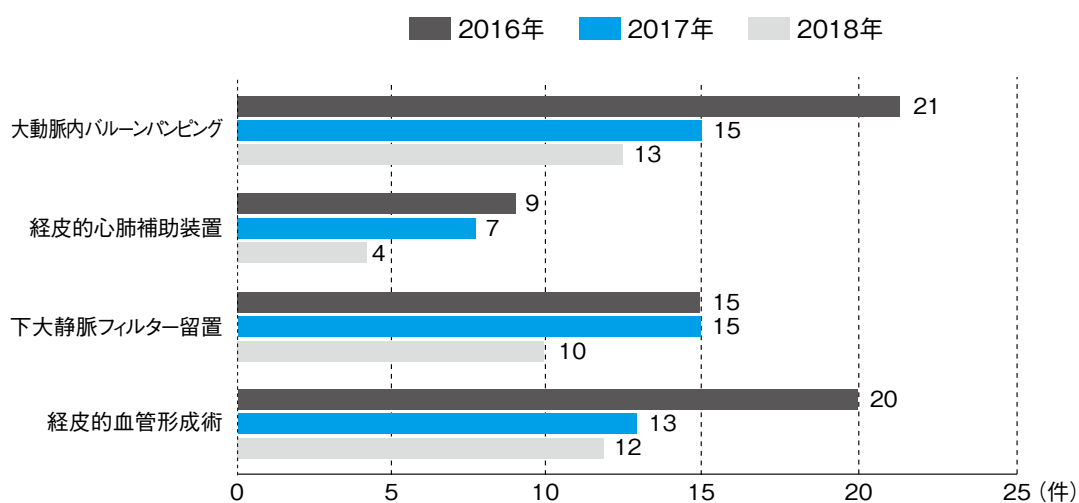
①虚血性心疾患治療



②不整脈治療



③その他の観血的治療



腎臓内科

1.概要

当科の主な診療領域は、腎炎・ネフローゼ症候群・腎不全（腎後性腎不全は除く）等の内科的腎臓病一般の他に、透析を含む血液浄化である。尿路結石・腫瘍・感染症は、取り扱っていない。また、透析患者のシャントトラブルも扱っていない。

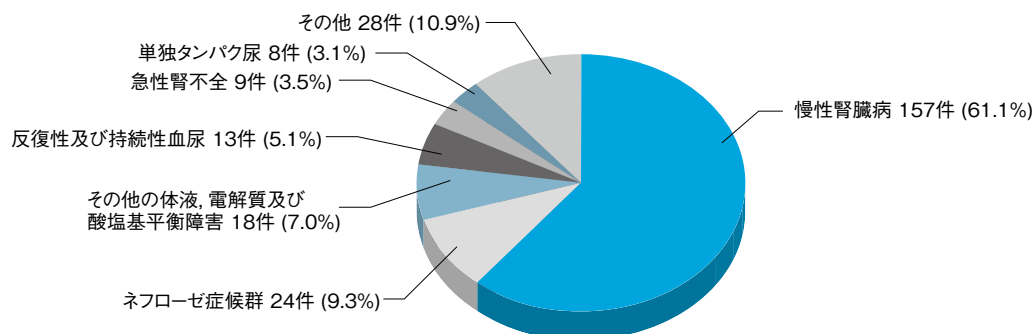
当院は東三河地域の基幹病院であるが、その中で常勤医師数からして最も小さな科の一つであるものの、多種多様な病態の診療に携わっている。実際、急性腎不全（AKI）をはじめとする重症患者の血液浄化の依頼やコンサルトは多く、維持透析患者の合併症や保存期の慢性腎不全（CKD）患者の治療にも関わっている。

腎炎やネフローゼ症候群には、名古屋大学腎臓内科の御支援の下、積極的に腎生検を行い、診断・治療に役立てている。末期腎不全に対しては、スタッフ不足から新規の通院透析患者は受け入れられないものの、移植外科と連携して腎移植には対応可能である。その他に、MEや看護師の協力により、血漿交換・免疫吸着・持続的血液ろ過透析（CHDF）等を病態に応じて施行している。

（部長 山川 大志）

2. 新規登録疾患

総数：257件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
慢性腎臓病	慢性腎臓病, 詳細不明	108	N189
	慢性腎臓病, ステージ 5	24	N185
ネフローゼ症候群	ネフローゼ症候群, 詳細不明	21	N049
その他の体液, 電解質及び酸塩基平衡障害	低浸透圧及び低ナトリウム血症	10	E871
反復性及び持続性血尿	反復性及び持続性血尿, その他	13	N028
急性腎不全	急性腎不全, 詳細不明	5	N179
	尿細管え死を伴う急性腎不全	2	N170
単独タンパク尿	単独タンパク尿	8	R80

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数 9,183人 年間外来新患者数 510人

年間入院患者数 6,128人 年間入院新患者数 431人

(2) 科指定5疾患

	疾 患 名	件 数 (件)		疾 患 名	件 数 (件)
1	慢性腎不全	259	4	IgA腎症	15
2	ネフローゼ症候群	123	5	急速進行性糸球体腎炎	9
3	急性腎不全	74		計	480

糖尿病・内分泌内科

1. 概要

当科の診療内容は、糖尿病と各種内分泌・代謝疾患である。日本糖尿病療養指導士15人他の協力で、糖尿病教育入院の他、療養指導外来、フットケア外来、糖尿病透析予防指導外来を設置している。通常のインスリンポンプ療法（CSII）に加え、SAP（Sensor-Augmented Pump）療法（持続皮下グルコースモニター付きCSII）を行っている。低グルコースでインスリン注入が自動停止する新機種も導入され、低血糖の回避に役立っている。2週間連続で血糖値を記録できる個人用のFlash Glucose Monitoringの利用者も増加している。

日本糖尿病協会の支部として友の会があり、11月の全国糖尿病週間に合わせて例年通り講演会を行った。また院内での啓発活動として、アトリウムでのミニ糖尿病教室とポイントラリー形式の参加型展示も行った。

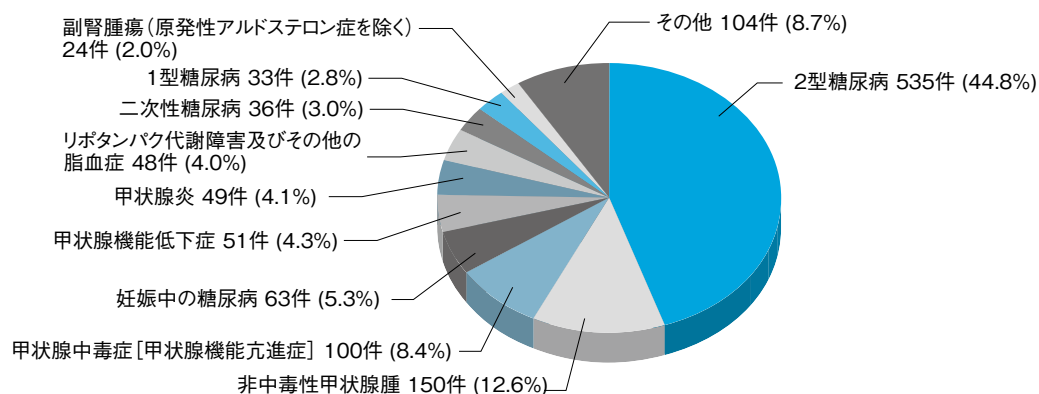
各種内分泌疾患に対しては各種負荷試験、画像診断を元に正確な診断を行い、一般外科、泌尿器科、移植外科、脳神経外科、放射線科などとの密接な連携の元に治療を行っている。放射線科には原発性アルドステロン症に対する選択的副腎静脈サンプリングも依頼している。

人事面では3月に奥地剛之医長が退職し、12月より七原佳洋医師が加入した。

（部長 山守 育雄）

2. 新規登録疾患

総数：1,193件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
2 型糖尿病	2 型糖尿病	416	E11
	2 型糖尿病, 多発合併症を伴うもの	40	E117
非中毒性甲状腺腫	非中毒性甲状腺腫, 詳細不明	126	E049
	非中毒性多結節性甲状腺腫	14	E042
甲状腺中毒症[甲状腺機能亢進症]	びまん性甲状腺腫を伴う甲状腺中毒症	80	E050
	甲状腺中毒症, 詳細不明	17	E059
妊娠中の糖尿病	妊娠中に発生した糖尿病	57	O244
甲状腺機能低下症	甲状腺機能低下症, 詳細不明	51	E039
甲状腺炎	自己免疫性甲状腺炎	44	E063
リポタンパク代謝障害及びその他の脂血症	高脂血症, 詳細不明	44	E785
二次性糖尿病	その他の明示された糖尿病	32	E13
1 型糖尿病	1 型糖尿病	15	E10
副腎腫瘍(原発性アルドステロン症を除く)	内分泌腺の性状不詳又は不明の新生物, 副腎	20	D441

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	19,351人	年間外来新患者数	1,082人
年間入院患者数	3,136人	年間入院新患者数	255人

(2)研究会開催

第32回東海糖尿病治療研究会糖尿病患者教育担当者セミナー

代 表 山守育雄

実行委員長 内田一豊(診療技術局)

副実行委員長 山口三恵子(看護局)

事務局長 手嶋充善(診療技術局)

特別講演1題 シンポジウム1題 糖尿病劇場1題 分科会37演題

2018年9月2日 8時50分～16時30分

愛知産業労働センター・ウインクあいち

参加者 669名

名古屋大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌内科学講座の関連施設を中心に、1987年より毎年、持ち回りで開催されているメディカルスタッフのための研修会である。東三河では1992年の第6回を旧国立豊橋病院が主管して以来、26年ぶりの主管であった。

加藤岳人院長の開会の辞に続き、6会場37演題(当院看護師の1題を含む)による分科会、東京都健康長寿医療センター 荒木厚内科統括部長による特別講演「認知症やADL低下を考慮した高齢者糖尿病の療養指導と治療」(座長 山守育雄)、空野医院 空野武彦院長、ゆたか調剤薬局 佐々木豊管理薬剤師、春日井市民病院 鈴木香里糖尿病看護認定看護師、新城市在宅医療サポートセンター 前沢弘代看護師の4人のシンポジストによるシンポジウム「高齢糖尿病患者を地域で支えるためには」(座長 金田成康、山口三恵子)、名古屋大学大学院医学系研究科地域医療教育学寄附講座・総合診療科 岡崎研太郎講師をファシリテーターとした糖尿病劇場「『雷蔵、薬がなくなる』の巻」が行われた。

14人の当院職員による実行委員会(代表：山守育雄、実行委員長：内田一豊、副実行委員長：山口三恵子、事務局長：手嶋充善、実行委員：石原礼子、金田成康、河合希始、京極多見、榊原沙知、成瀬透、橋本雅子、濱田智博、村山智子、山本晃士)を中心に、医局、診療技術局、看護局、薬局、事務局から総勢52人の当院職員が当日の運営にあたり、滞りなく終了した。なお、本会は日本糖尿病療養指導士認定機構の「日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修会」に認定され、日本糖尿病療養指導士240人に更新単位(6時間で2単位)が認められた。

神経内科

1. 概要

2018年のスタッフは、2017年9月以降は4人体制となっていたが、関連医局である名古屋大学神経内科から上田雅道先生(2018年1月～3月)、同年4月からは横井孝政先生が赴任され、5人体制となった。常勤医5人で診療に当たっているが、入院患者数は年々増加しており、2018年の入院患者数は985人(前年911人、前々年795人)であった。常に神経内科の定床数をオーバーしており、多くの病棟に入院患者が分散しているため、回診に時間を要した。

今年度の主なトピックは、以下のとおりである。

- ①高齢患者の軽症脳梗塞や一過性脳虚血発作も増加傾向が続く。
- ②高齢者のてんかん関連、意識障害関連の入院が目立つ。
- ③慢性炎症性脱髄性多発神経炎の患者、 γ グロブリン維持療法反復入院が多い。
- ④筋萎縮性側索硬化症の患者で、ラジカット導入入院や合併症による入院がやや目立った。
- ⑤家族背景や社会的背景の難しい患者が多く、安定後の療養先について患者や家族への早期説明の実施や、患者総合支援センターによる介入が増えている。
- ⑥年度の終盤にかけて、新たに東病棟5階に神経内科5床増床得られ、患者が少しまとまりやすくなった。

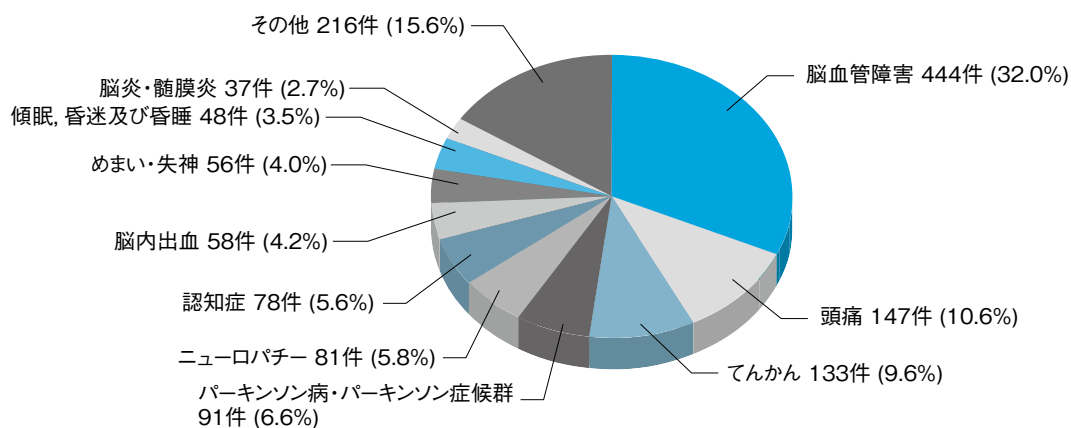
外来診療においては、前部長である空野謙次先生を始め、非常勤医3人の応援を得て診療を行っている。外来の年間受診者総数は、11,929人(2018年度医事統計)で前年の12,284人と比べて300人余減少した。また、初診患者数は1,483人と前年の1,522人に比べ、40人弱減少した。MCR体制に加え、紹介状持参での予約外患者も多く、可能な範囲で対応している。

日本神経学会より、標榜診療科名を「神経内科」から「脳神経内科」に変更することが決定され、当科も変更する方針となった。2018年度中に周知、2019年度以降は「脳神経内科」と標榜する計画とし、事務的な部分も含めて周知に努めた。当科は、1975年の「神経内科」標榜以来、科の特性についてPRに努めてきたが、対応する主な疾患が脳卒中・認知症・頭痛など多岐にわたっていることから、いまだに心療内科や精神神経科と混同されることがある。標榜診療科名を変更することで、患者に当科の診療内容をより広く正しく理解してもらいたい、という願いがある。

(部長 岩井 克成)

2. 新規登録疾患

総数：1,389件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
脳血管障害	脳動脈の血栓症による脳梗塞	214	I633
	脳動脈の塞栓症による脳梗塞	60	I634
頭痛	頭痛	80	R51
	緊張性頭痛	43	G442
てんかん	その他のてんかん	64	G408
	てんかん, 詳細不明	39	G409
パーキンソン病・パーキンソン症候群	パーキンソン病	85	G20
ニューロパチー	多発(性)ニューロパチー, 詳細不明	65	G629
	ギラン・バレー症候群	11	G610
認知症	詳細不明の認知症	35	F03
	アルツハイマー病, 詳細不明	33	G309
脳内出血	(大脳)半球の脳内出血, 皮質下	38	I610
	脳幹の脳内出血	10	I613
めまい・失神	めまい感及びよろめき感	48	R42
傾眠, 昏迷及び昏睡	昏睡, 詳細不明	48	R402
脳炎・髄膜炎	脳炎, 脊髄炎及び脳脊髄炎, 詳細不明	11	G049

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	11,849人	年間外来新患者数	1,466人
年間入院患者数	18,457人	年間入院新患者数	987人

(2) 神経難病6疾患

	疾 患 名	件 数 (件)
1	パーキンソン病・パーキンソン症候群	87
2	多系統萎縮症	4
3	脊髄小脳変性症	11
4	筋萎縮性側索硬化症・球脊髄性筋萎縮症	15
5	重症筋無力症	12
6	多発性硬化症	11
	計	140

血液・腫瘍内科

1. 概要

2018年度は5人のスタッフにて、1日平均約70人の外来と、同様に約45人の入院患者に対する診療を行った。入院患者数はあまり変化がないが、外来患者数は次第に増加している。

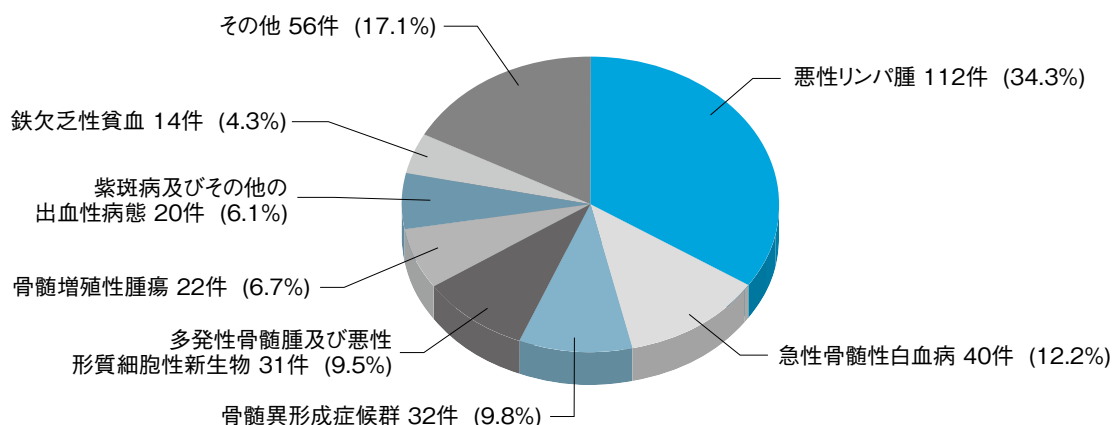
本年度も東三河全域や静岡県西部などから、多くの患者が来院した。疾患のほとんどは血液悪性腫瘍であるが、化学療法で治癒や深い奏功を目指す疾患も多く、若年者のみならず高齢者においても積極的に化学療法を行っている。また、自己および同種造血幹細胞移植においても、しっかり適応を判断したうえ、該当する症例においては積極的に行っている。造血幹細胞移植や高齢者の化学療法などにおいては、治療の合併症が比較的起きやすいが、他領域専門職種とのチーム医療を積極的に行うことで、生活の質を下げずに速やかに外来治療に移行できるよう、本年度も取り組んだ。また、血液良性疾患、凝固疾患なども含め、あらゆる血液疾患に対応できるよう、体制を整えている。

(第一部長 杉浦 勇)

(文責 第二部長 倉橋 信悟)

2. 新規登録疾患

総数：327件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
悪性リンパ腫	びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫	43	C833
	ろ胞性リンパ腫グレードⅡ	13	C821
急性骨髄性白血病	急性骨髄性白血病	40	C920
	慢性骨髄性白血病	13	C921
骨髄異形成症候群	骨髄異形成症候群, 詳細不明	26	D469
多発性骨髄腫及び悪性形質細胞性新生物	多発性骨髄腫	19	C900
	単クローン性異常免疫グロブリン血症	11	D472
骨髄増殖性腫瘍	真正赤血球増加症	12	D45
	本態性(出血性)血小板血症	10	D473
骨髄増殖性腫瘍	特発性血小板減少性紫斑病	20	D693
鉄欠乏性貧血	鉄欠乏性貧血, 詳細不明	14	D509

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	17,627人	年間外来新患者数	518人
年間入院患者数	15,255人	年間入院新患者数	723人

一般外科・小児外科・肛門外科

1. 概要

(1)一般外科・小児外科

2018年の手術総数は1,724件で、2017年の1,725件と変わりなかった。そのうち15歳以下の小児手術は144件、全緊急手術は371件（371/1,724、22%）で小児は2017年（179件）に比べ減少したが、緊急手術は、数も割合も若干増加した（2017年、338件、20%）。うち腹腔鏡手術は112件（112/371、30%）でこの傾向は2017年と変わりなかった。

一般外科・小児外科ユニットにおいて、対象疾患は、虫垂炎やヘルニアといった日常的な疾患から甲状腺（26件）・消化器・乳腺（163件）まで幅広い。腹腔鏡手術は、胃癌手術38件（38/110、35%、昨年28%）、大腸癌手術102件（102/270、38%、昨年33%）、肝臓手術（部分切除のみ）11件（11/21、52%；昨年23件、58%）に対し行われた。例年通り虫垂や成人鼠径ヘルニアに対しても積極的に腹腔鏡を使用し、2018年には虫垂炎手術78件（78/121、64%、昨年40%）、鼠径ヘルニア手術20件（20/180、11%、昨年16%）であった。緊急例も含めた腹腔鏡手術全体では552件で昨年の532件から増加している。特殊な治療として、肝嚢胞に対する腹腔鏡天蓋切除が6例に行われた。ロボット支援下腹腔鏡手術は、直腸癌で17件、胃癌で16件行った。今年から新たに肥満外科を導入し、肥満症に対して腹腔鏡スリーブ状胃切除術を3件に行った。今後増加していくと思われる。また、今年は副腎腫瘍に対しての内分泌外科手術で、腹腔鏡手術を3件に行った。

乳癌治療において、センチネルリンパ節生検陰性は105件で、例年同様の傾向であった。乳腺専門医と形成外科医による乳房全摘同時再建手術（Tissue expander挿入）は2件（昨年4件）に行われた。

肝切除は38件で、疾患別内訳は、原発性肝癌 20件、転移性肝癌 12件、胆道癌 3件、肝血管腫 2件、肝内結石症1件。膵頭十二指腸切除は26件で、この疾患別内訳は、膵癌 13件、胆嚢・胆管癌 6件、乳頭部癌 2件、十二指腸癌2件、胃癌1件、十二指腸神経内分泌腫瘍1件、慢性膵炎1件。食道悪性腫瘍は10件（1件はGIST（郭清なし））に根治手術が行われ、食道癌は9件で、このうち3領域郭清が3件、2領域郭清が6件であった。

上部消化管潰瘍穿孔は22件経験し、緊急手術は18件、保存治療は4件行われた。腸閉塞入院は173件でうち40件（23%）に手術が施行された。

小児外科手術は名古屋大学小児外科と連携して治療に当たっており、総数は163件で、新生児手術は2件であった。一般外科全体の入院総数は2,276人と昨年の2,310人よりわずかに減少した。平均入院期間は10.4日とこちらは昨年の10.6日より減少し、昨年に引き続き連続して減少し続けている。総合すると2018年は、肥満手術、内分泌外科手術などの新たな腹腔鏡手術への挑戦がみられたが全体としてみた場合、昨年と比べて大きな変化はなかったと判断している。

（第一部長 平松 和洋）

(2)肛門外科

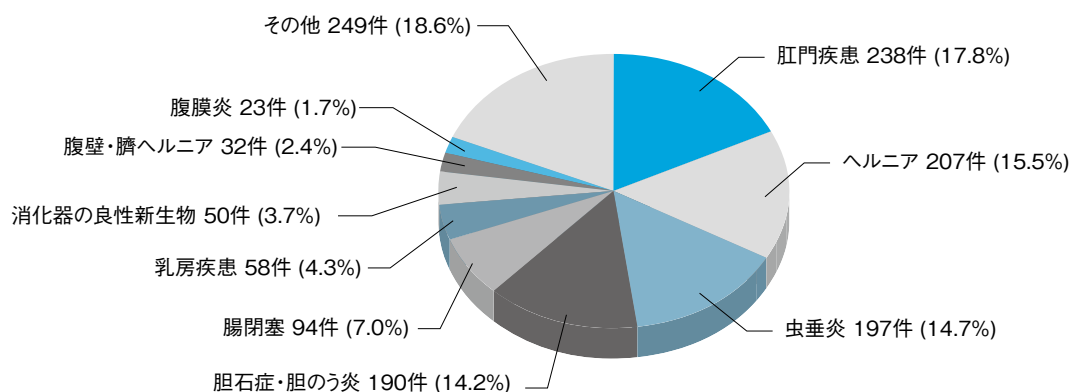
“肛門外科”は当院移転新設に伴い「こうもん科」として単科標榜された。現在は厚生労働省の標榜変更にて『肛門外科』診療だが、診療・治療は一般外科と共同で運営している。外科外来診療における統計では、悪性疾患治療を除くと痔核を筆頭とした肛門疾患、症状にて受診される患者が多い。多くの施設がそうであるように外科が担当している場合もあるが、肛門というデリケートな部分で専門性を必要とするため、やはり専門家での診療・治療を希望される方も多い。当院肛門外科は、近隣の診療施設から併存症を有する患者の紹介も多い。肛門外科標榜での診療日は木曜日の一日だけであるが、常勤で外科診療に携わっている利点から、日々時間が許す限り診察や治療に当たっている。外来診察の際は、患者が安心して受診できるような対応・環境整備を心掛け、診察で患者に不自由・不快な思いを持たないように努力している。多くは良性疾患であり、外来処置や生活指導・薬物療法など保存治療に重きを置き、患者の症状によって手術適応を決めている。近年大腸がんも増加傾向にあり、肛門症状で受診された患者様には大腸検査を受けていただくようにしている。専門外来として“ストーマ外来”を認定看護師とともにやっている。

（部長 柴田 佳久）

2. 新規登録疾患

(1) 悪性新生物以外

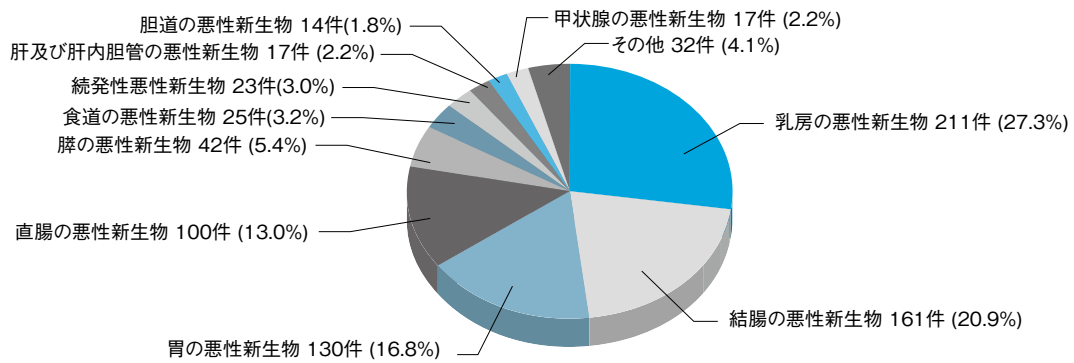
総数：1,338件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
肛門疾患	痔核, 詳細不明	131	K649
	裂肛, 詳細不明	26	K602
ヘルニア	一側性又は患側不明のそけいヘルニア, 閉塞及びえ疽を伴わないもの	189	K409
虫垂炎	急性虫垂炎, その他及び詳細不明	117	K358
	詳細不明の虫垂炎	62	K37
胆石症・胆のう炎	胆のう炎を伴わない胆のう結石	107	K802
	急性胆のう炎	46	K810
腸閉塞	閉塞を伴う腸癒着[索条物]、イレウス, 詳細不明	30	K565、K567
乳房疾患	乳房の良性新生物	58	D24
消化器の良性新生物	口腔及び消化器の性状不詳又は不明の新生物, その他の消化器	11	D377
腹壁・臍ヘルニア	臍ヘルニア, 閉塞及びえ疽を伴わないもの	14	K429
	癒痕ヘルニア, 閉塞及びえ疽を伴わないもの	11	K432
腹膜炎	急性腹膜炎	22	K650

(2) 悪性新生物

総数：772件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
乳房の悪性新生物	乳房の悪性新生物, 乳房, 部位不明	97	C509
	乳房の悪性新生物, 乳房上外側 4 分の 1	47	C504
結腸の悪性新生物	結腸の悪性新生物, S 状結腸	61	C187
	結腸の悪性新生物, 上行結腸	51	C182
胃の悪性新生物	胃の悪性新生物, 胃, 部位不明	96	C169
	胃の悪性新生物, 幽門	13	C164
直腸の悪性新生物	直腸の悪性新生物	100	C20
膵の悪性新生物	膵の悪性新生物, 膵, 部位不明	20	C259
	膵の悪性新生物, 膵頭部	10	C250
食道の悪性新生物	食道の悪性新生物, 食道, 部位不明	9	C159
	食道の悪性新生物, 胸部食道	7	C151
続発性悪性新生物	肝及び肝内胆管の続発性悪性新生物	11	C787
肝及び肝内胆管の悪性新生物	肝及び肝内胆管の悪性新生物, 肝細胞癌	13	C220
胆道の悪性新生物	その他及び部位不明の胆道の悪性新生物, 肝外胆管	12	C240
甲状腺の悪性新生物	甲状腺の悪性新生物	17	C73

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数 38,116人 年間外来新患者数 2,419人
 年間入院患者数 24,212人 年間入院新患者数 2,131人

(2) 2018年1月～2018年12月入院概要（全2,276人、平均入院期間10.4日、未退院4名除く）

疾患名	治療法	患者数 (人)	平均入院 日数(日)
イレウス	手術	40	17.3
	保存療法	133	8.9
外傷	手術	11(1)	23.5
	IVR	1	15
	保存療法	11	7.8
血管系緊急(塞栓・解離など)	手術	0	-
	IVR	2	8
	保存	6	6.5
合併症治療	保存治療	28(1)	13.9
	緊急手術	4	30.8
	予定手術	1	13
	緩和治療	1	24
抗がん剤有害事象	保存療法	48	7.9
	緩和治療	1	39
その他	保存治療	39	8.7
	予定手術	22	3.18
	緊急手術	3	10
	保存治療	2	20.0
その他/悪性	化学療法	1	43
	放射線治療	1	51
	予定手術	14	11.6
甲状腺/良性	手術	17	4.4
甲状腺/悪性	手術	11	6.7
内分泌	予定手術	3	4.7
非新生児	手術	121	3.1
	保存療法	13	2.2
腹腔内癌再発	手術	6	18.3
	保存・緩和療法	9	10.6
腹膜炎	手術	28(1)	22.9
	保存療法	16	9.7
ヘルニア	手術	178	3.1
	保存療法	7	3.9
痔核・痔瘻	手術	16	4.2
	保存療法	3	11.3
虫垂	手術	120	5.4
	保存療法	25	7.5
胃十二指腸/良性	緊急手術	18	23.6
	保存治療	5	7.8
肥満症	予定手術	3	12

疾患名	治療法	患者数 (人)	平均入院 日数(日)
胃十二指腸/悪性	手術	129	14.0
	化学療法	7	5.6
	IVR	2	26.0
	緩和療法	5	23.2
	保存療法	36	12.3
肝胆膵脾	手術	280	8.9
	保存療法	44	12.4
	緩和療法	3	16.7
	化学療法	0	0.0
小・大腸/悪性	放射線療法・IVR	3	25.3
	手術	287(1)	14.6
	化学療法	3	2.3
	保存療法	119	13.5
	緩和療法	9	13.2
小・大腸/良性	放射線療法・IVR	2	32.0
	手術	40	18.0
	保存療法	10	9.7
	手術	12	29.8
食道/悪性	保存療法	19	21.9
	化学/放治	14	27.3
	緩和療法	0	0.0
	手術	12	3.9
乳腺/その他	保存療法	0	0
	手術	150	6.8
乳腺/悪性	保存療法	44	14.3
	緩和療法	5	17.8
	化学/放治	5	28
	手術	12	29.8

() : 未退院の数

(3) 一般外科・小児外科手術数(2018年) 1,724例

総数	1,724	(オ)小腸・大腸	367
全身麻酔	1,387	a良性疾患	97
脊髄麻酔	79	(a)小腸切除	24(1)
局部麻酔	258	(b)腸瘻造設	3
①一般外科	1,580	(c)腸瘻閉鎖	16
(ア)甲状腺		(d)腸吻合	1
a良性疾患	15	(e)結腸直腸切除	25(11)
(a)部分切除	0	(f)大腸亜全摘	0
(b)葉切、亜全摘、全摘	15	(g)癒着剥離	26(1)
b悪性疾患	11	(h)経肛門/経仙骨	0
(a)部分切除、亜全摘、他	3	(i)単開腹/その他	2(2)
(b)全摘	7	b悪性疾患	270
(c)その他	1	(a)腸瘻造設	28(1)
(イ)乳腺	163	(b)腸吻合	0
a良性疾患	13	(c)小腸切除	5
(a)摘出	5	(d)結腸切除	152(65)
(b)腺管区域切除	8	(e)直腸切除(高位、低位)	62(17、ロボット15)
b悪性疾患	150	(f)直腸切断	13(1、ロボット2)
(a)定型乳切	0	(g)経肛門/仙骨的切除	0
(b)非定型乳切(Bt+Ax)	32	(h)骨盤内臓全摘	7
(c)Bt±SLNB	66	(i)大腸亜全摘	0
(d)乳房温存手術±SLNB	49	(j)単開腹/その他	0
(ウ)食道	10	(カ)虫垂炎(虫垂/回盲部切除)	123(73)
a良性疾患	0	(キ)肝/胆/膵/脾	283
b悪性疾患	10	(a)肝部分切除	21(11)
(a)胸部食道切除	10	(b)肝区域/葉切除	17(1)
(b)その他	0	(c)胆嚢床切除	1
(エ)胃・十二指腸	153	(d)肝嚢胞手術	5(5)
a良性疾患	28	(e)開腹胆嚢摘出術	21
(a)胃切除、胃全摘	1	(f)腹腔鏡下胆嚢摘出術	171
(b)体網充填	24	(g)開腹胆管切開術	2
(c)スリーブ状胃切除	3(3)	(h)胆管消化管吻合	0
b悪性疾患	125	(i)胆管切除	2
(a)幽門側胃切除	75(19、ロボット14)	(j)膵頭十二指腸切除(PD)	0
(b)胃全摘	26(3、ロボット2)	(k)亜全胃温存PD	23
(c)噴門側胃切除	1	(l)膵尾部切除	7(1)
(d)胃腸吻合	3	(m)膵全摘	2
(e)楔状切除/十二指腸切除	15(7、LECS3)	(n)膵部分切除	1
(f)PD	1	(o)膵管空腸吻合	0
(g)試験開腹/その他	4	(p)脾摘	4(2)
		(q)胃腸吻合	0

(r)単開腹/その他	6	②小児外科(全例全身麻酔)	144
(ク)内分泌	3	(ア)新生児手術	2
(a)副甲状腺	0	(イ)鼠径ヘルニア	50(48)
(b)副腎	3(3)	(ウ)虫垂切除	32(21)
(ケ)ヘルニア	197	(エ)精巣固定	12(3)
(a)鼠径大腿	180(19)	(オ)臍形成	14
(b)腹壁・臍・閉鎖孔など	17(3)	(カ)幽門筋切開	3(3)
(コ)痔核痔瘻	19	(キ)その他	31(8)
(サ)局麻手術	122	()はその内の鏡視下手術件数、ロボット支援手術	
(a)摘出、生検	37		
(b)その他	85		
(シ)外傷/医原性	15(1)		
(ス)腹膜炎	42(2)		
(セ)腹腔内癌再発	19(1)		
(ソ)その他	38(1)		

呼吸器外科

1. 概要

心臓と食道、乳がんを除く胸部疾患を対象としている。主対象である肺癌は、死因の第1位で増加の一途をたどっている。ヘビースモーカーの多かった団塊の世代が、肺癌好発年齢の中心を占め、今後しばらく減少する気配は見られない。

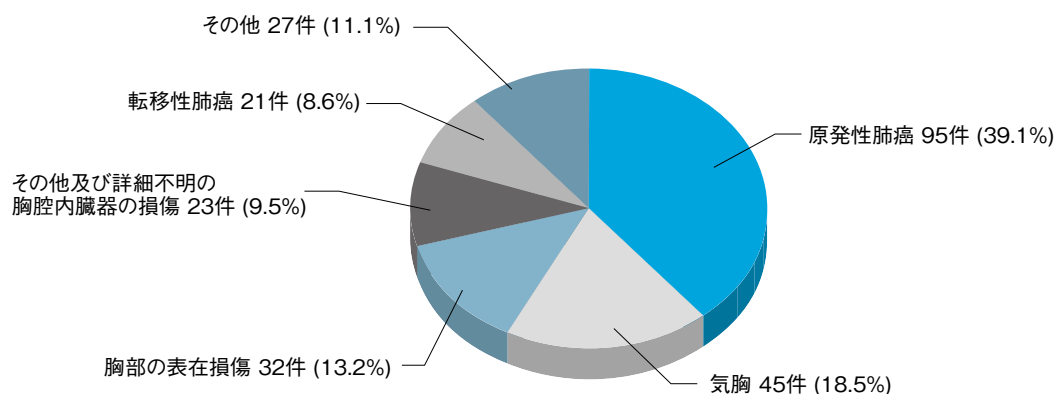
近年では胸腔鏡を用いて開胸創をより小さく、手術侵潤を軽減することで、標準的な肺癌手術でも、手術前日の入院から退院まで5から7日間の治療が可能となっている。残念ながら、定期健診を受けずに進行癌となつてから来院されるケースもあり、この場合はすでにリンパ節や他臓器に転移していることも多く、再発の危険が増すばかりか抗癌剤投与や放射線治療の追加が必要となり、経済面や治療時間においても負担が大きくなる。したがって早期発見のため、無症状のうちに受ける住民健診等による定期的なスクリーニングが極めて重要である。

毎週定期的に、呼吸器内科・放射線科と合同カンファレンスを行って、個々の症例に関して治療方針を検討しており、症例ごと病状に適した治療が行えるよう心がけている。

(部長 成田 久仁夫)

2. 新規登録疾患

総数：243件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
原発性肺癌	気管支及び肺の悪性新生物, 気管支又は肺, 部位不明	93	C349
気胸	その他の自然気胸	32	J931
	その他の気胸	10	J938
胸部の表在損傷	胸部の挫傷	32	S202
その他及び詳細不明の胸腔内臓器の損傷	外傷性血気胸	9	S2720
	外傷性気胸	4	S2700
転移性肺癌	肺の続発性悪性新生物	21	C780

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数 2,625人 年間外来新患者数 338人
 年間入院患者数 2,394人 年間入院新患者数 208人

心臓外科・血管外科

1. 概要

先天性心疾患: NMCにおいて1kgに満たない小さな子たちに救命的な手術を行っている。以前より一貫して将来を見越した胸筋温存による手術を行っており、この術式を取り入れている施設は全国でもごくわずかである。それ以外の症例については他院へお連れして手術を行っている。

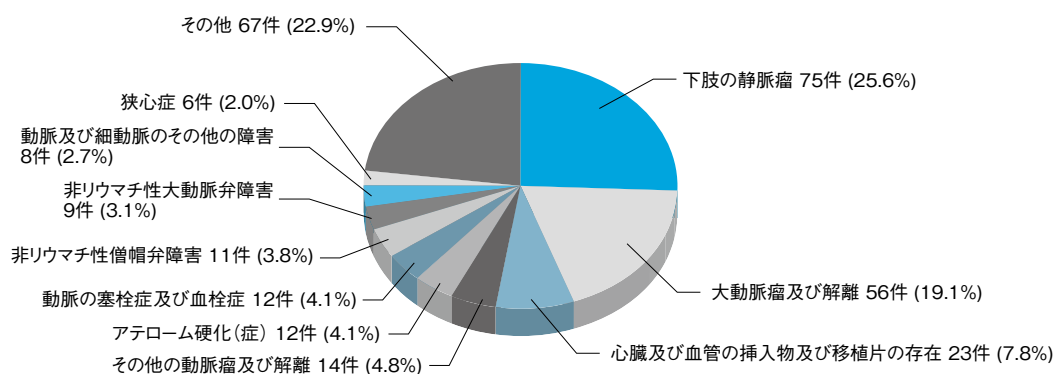
成人心疾患: 症例数が少なく、チームの練度が上がらないのが現状であるが、日々のカンファレンスを充実させ一步一步進んでいる。

血管外科: 下肢静脈瘤に対して血管内焼灼手術を取り入れてから、4年以上が経ち、多数の方々に施行してきたが、静脈瘤の再開通例はなく、海外のデータと比較してもよい成績であると自負している。2019年度から腹部大動脈瘤に対するステント治療が当院で可能となる。より安全で早期回復を目指した手術を行うよう、スタッフともども進めていく所存である。

(部長 中山 雅人)

2. 新規登録疾患

総数：293件



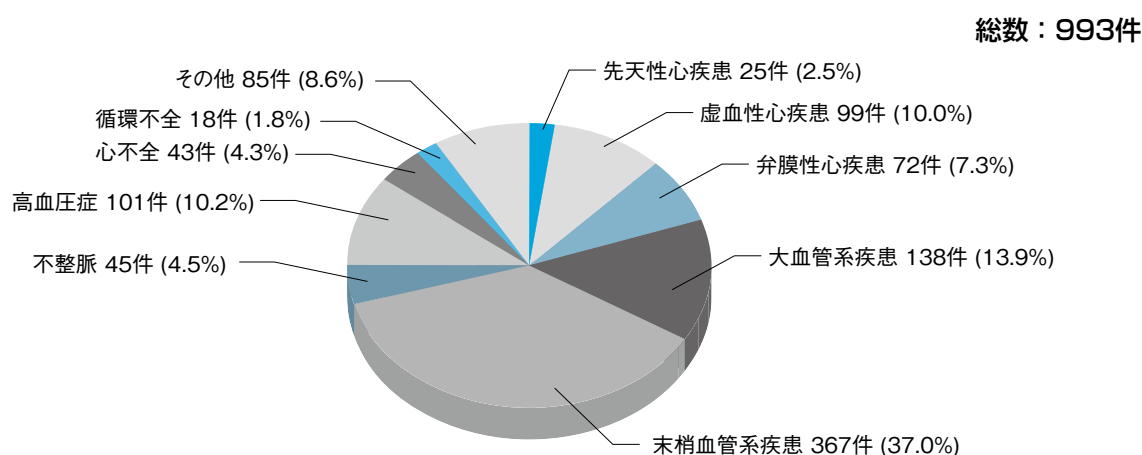
疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
下肢の静脈瘤	潰瘍又は炎症を伴わない下肢の静脈瘤	70	I839
大動脈瘤及び解離	腹部大動脈瘤, 破裂の記載がないもの	33	I714
	大動脈の解離[各部位]	15	I710
心臓及び血管の挿入物及び移植片の存在	その他の心臓及び血管の挿入物及び移植片の存在	18	Z958
その他の動脈瘤及び解離	部位不明の動脈瘤及び解離	9	I729
アテローム硬化(症)	全身性及び詳細不明のアテローム硬化(症)	12	I709
動脈の塞栓症及び血栓症	詳細不明の動脈の塞栓症及び血栓症	9	I749
非リウマチ性僧帽弁障害	僧帽弁閉鎖不全(症)	11	I340
非リウマチ性大動脈弁障害	大動脈弁閉鎖不全(症)	5	I351
動脈及び細動脈のその他の障害	動脈の狭窄	7	I771
狭心症	狭心症, 詳細不明	6	I209

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数 2,965人 年間外来新患者数 169人
 年間入院患者数 2,725人 年間入院新患者数 186人

(2) 疾患別頻度



移植外科

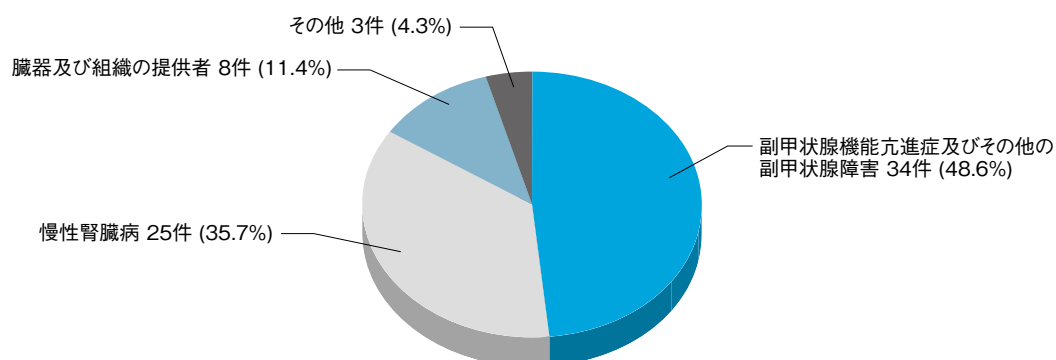
1. 概要

2010年4月より移植外科が標榜されて以来、移植外科医2人体制であったが、2012年5月に大塚聡樹医師（15年間勤務）が異動となり、移植外科医は1人となった。2012年10月からは東三河において唯一の腎移植認定施設となってしまったため、当地域の献腎移植登録患者の待機期間中のフォローアップは当院のみで行っている。また、他院で移植された腎移植患者や肝移植患者の定期通院も受け入れており、東三河だけでなく全国の移植施設との間で病診連携がなされている。生体腎移植目的の紹介患者は年々増加しており、今後、腎移植症例はさらに増えてゆくものと思われる。また、高カルシウム血症に伴い尿路結石や骨折を繰り返す原発性副甲状腺機能亢進症や、長期透析に伴う二次性副甲状腺機能亢進症に対する副甲状腺手術（2018年：23例）も年々増加しており、近隣透析施設との病診連携も密に行われている。

（部長 長坂 隆治）

2. 新規登録疾患

総数：70件



3. 活動報告

(1) 患者状況

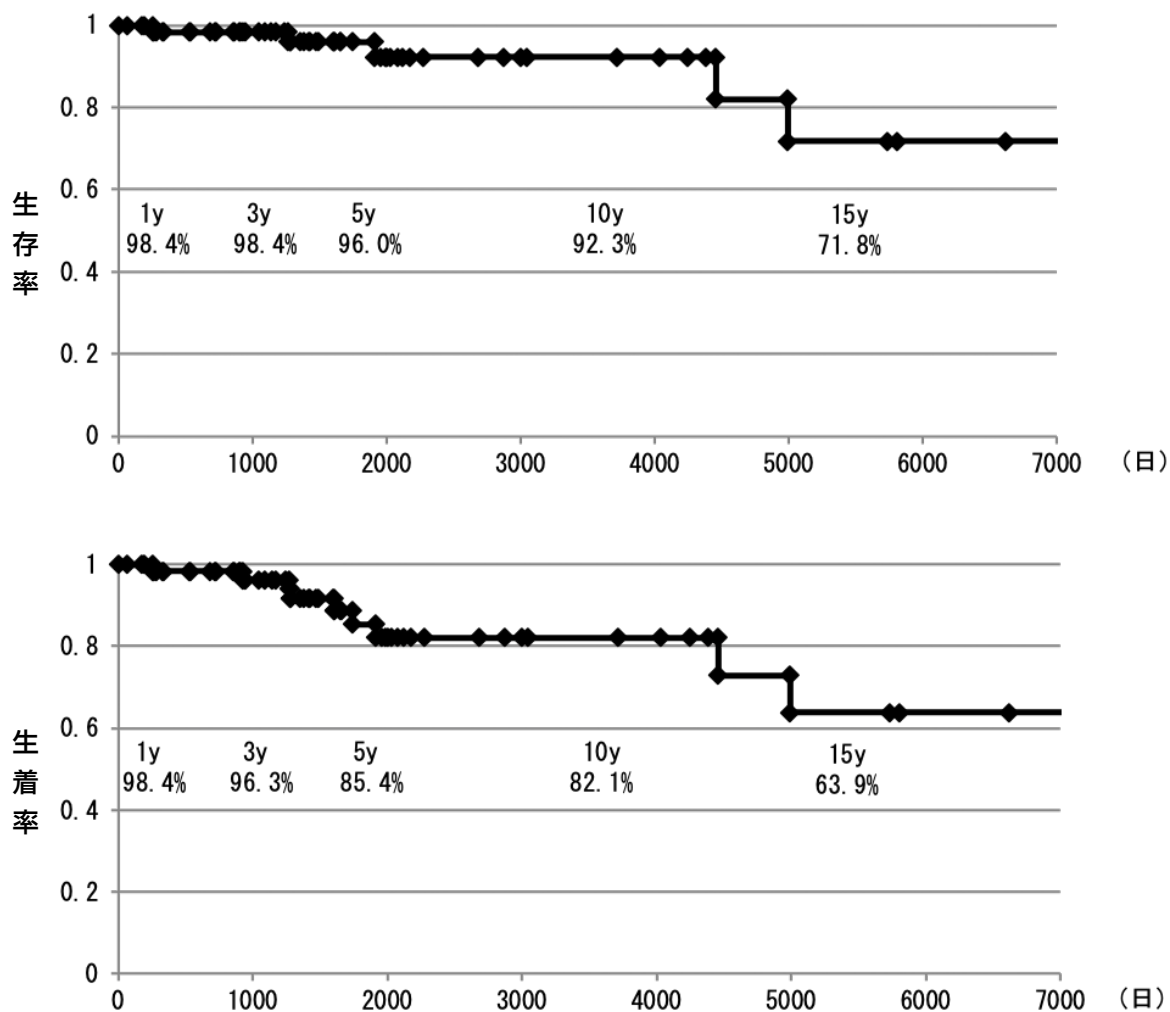
年間外来患者数	1,419人	年間外来新患者数	61人
年間入院患者数	563人	年間入院新患者数	58人

(2) 外来患者の状況

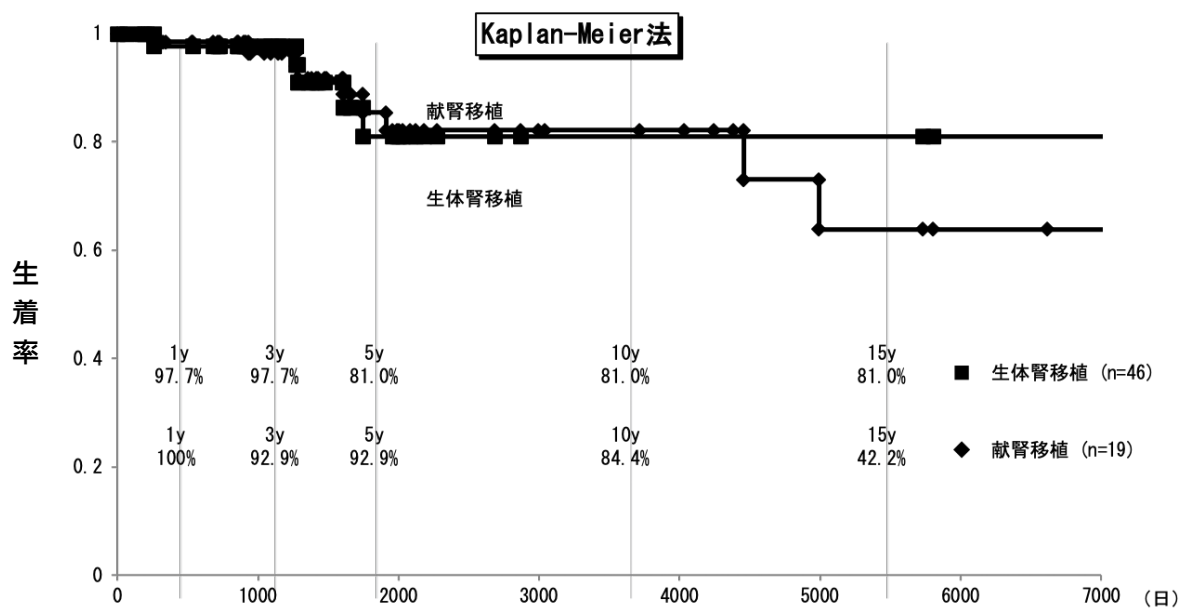
	疾 患 名	件 数 (件)
1	腎移植後	72
2	肝移植後	9
3	脾移植後	1
4	献腎移植登録外来	105
5	副甲状腺手術後	99
6	生体移植ドナー術後（肝臓、腎臓、脾臓）（当院外患者）	11

（2019年3月1日現在）

(3) 当院腎移植症例の生着率と生存率 (2019年3月現在, N=65)



(4) 当院腎移植症例の生着率 (生体腎移植 vs 献腎移植) (2019年3月現在, n=65)



整形外科

1. 概要

2018年12月31日時点の構成は、常勤医(山内健一、古橋範雄、藤田護、三矢聡、三矢未来、福井順、桑原悠太郎)と専攻医(岡田裕也、山田梨紗)である。

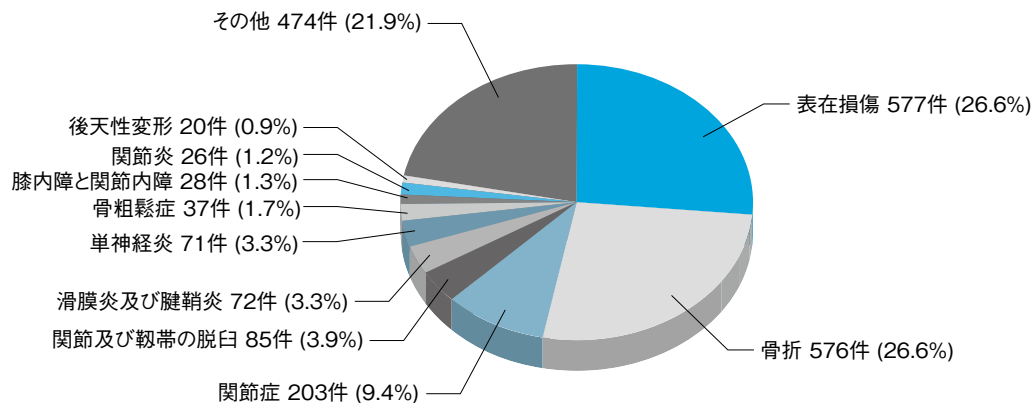
専門外来は股関節(山内)、小児(古橋)、膝・肩関節(藤田)、手(三矢聡)が担当し、月1回第3月曜には骨軟部腫瘍外来(名古屋大学：清水光樹先生)がある。手足の先天異常の手術や切断指の再接着術は三矢聡、膝・肩の鏡視下手術は藤田、人工関節手術は山内と藤田、福井がしている。骨盤骨折に対しても、三矢聡と山内が行っている。大腿骨頸部骨折手術が増え、大腿骨頸部骨折地域連携パスを使用し、市内の回復期病院と連携しているほか、豊橋市こども発達センター「ほいっぷ」に古橋が週1回出張している。

また、名古屋大学整形外科と人事交流し、豊橋整形外科研修セミナーを主催した。東三河整形外科医会、三河関節外科、三河骨軟部腫瘍研究会、名静会の研究会で近隣の医療機関の医師とも交流を深めている。

(第一部長 山内 健一)

2. 新規登録疾患

総数：2,169件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
表在損傷	頸部の表在損傷, 部位不明	137	S109
	下背部及び骨盤部の挫傷	52	S300
骨折	橈骨遠位端骨折	69	S5250
	大腿骨頸部骨折	57	S7200
関節症	膝関節症, 詳細不明	90	M179
	股関節症, 詳細不明	62	M169
関節及び靱帯の脱臼	膝の(前)(後)十字靱帯の捻挫及びストレイン	16	S835
	半月裂傷, 新鮮損傷	15	S832
滑膜炎及び腱鞘炎	ばね指	27	M6534
	滑膜炎及び腱鞘炎, 詳細不明	15	M6599
単神経炎	手根管症候群	40	G560
	尺骨神経の病変	15	G562
骨粗鬆症	骨折の骨癒合不全[偽関節]	9	M8419
	骨粗しょう症, 詳細不明	9	M8199
膝内障と関節内障	膝内障, 詳細不明	8	M2399
	関節拘縮	4	M2452
関節炎	化膿性関節炎, 詳細不明	10	M0096
後天性変形	指の変形	15	M200

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	27,638人	年間外来新患者数	4,278人
年間入院患者数	22,682人	年間入院新患者数	1,248人

(2) 骨折頻度

	部 位	件 数 (件)		部 位	件 数 (件)
1	肩及び上腕	95	5	手首及び手	78
2	大腿骨	122	6	足（足首を除く）	35
3	前腕	107	7	その他	63
4	下腿（足首を含む）	76		計	576

(3) 手術実績

①手術症例件数 1,218件

②麻酔別症例件数（重複あり）

名 称	件 数(件)
全身麻酔	223
腰椎麻酔	501
伝達麻酔	495
局所麻酔	344
その他	91
計	1,654

③分野別症例件数（重複あり）

（ア）関節外科

a 人工関節

名 称	件 数(件)
人工股関節	79
人工骨頭股関節	33
人工膝関節	36
人工肩関節	1
計	149

b 関節形成術

名 称	件 数(件)
股関節	3
膝関節	2
肩関節	4
足関節	2
計	11

c 関節鏡視下手術

名 称	件 数(件)
手関節	45
膝関節	41
肩関節	8
足関節	3
計	97

a+b+c 257件

（イ）手の外科

名 称	件 数(件)
肘・前腕	122
手指	153
手関節	49
マイクロサージャリー	17
足趾、多合指(趾)	11
計	352

（ウ）骨軟部外傷

名 称	件 数(件)
骨盤	7
大腿骨近位部	158
大腿	11
膝	26
下腿	85
足関節－足	40
鎖骨－上腕	63
抜釘	183
計	573

（エ）切断術(手指を除く) 31件

（オ）骨髄炎・感染症 54件

（カ）腫瘍 35件

（キ）その他 82件

計 1,384件

リウマチ科

1. 概要

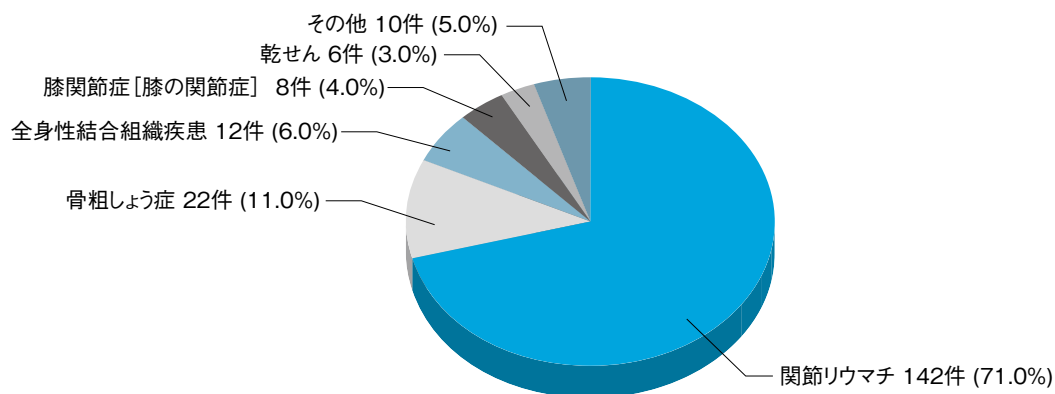
当科は内科的治療を基本とし、整形外科より発展したため外科的治療も行っている。当科の診療の4本柱について記す。2018年は平野、服部（1-3月）、紀平（4-12月）の2人のリウマチ科常勤医を中心に、研修中の整形外科若手医師の助けも借りて診療に当たっていた。

- ① 関節リウマチ（RA）の薬物治療：MTXを中心とした古典的抗リウマチ薬を早期から使用し、効果不十分例には生物学的製剤やJAK阻害剤を導入し関節破壊の防止に努めている。新薬の治験も行っている。
- ② 各種リウマチ性疾患（強直性脊椎炎、乾癬性関節炎、リウマチ性多発筋痛症、SAPHO症候群）：比較的珍しい疾患群であるが対応し、疾患ごとの適切な治療を行っている。
- ③ 骨粗鬆症の診療：古典的薬剤に加え、新規薬剤（テリパラチド、デノスマブ）が出現し、パラダイムシフトが起こっている。骨折診療の潮流は治療から予防に向かっている。
- ④ RAの外科的治療：長期罹病RA患者には外科的治療が必要であり、薬物治療とのコンビネーションこそが最高の結果をもたらす。人工関節置換術、関節固定術、関節形成術を行っている。

（部長 平野 裕司）

2. 新規登録疾患

総数：200件



3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	12,653人	年間外来新患者数	230人
年間入院患者数	834人	年間入院新患者数	41人

(2) 実績

関節リウマチ患者背景		
症例数(例)		998
新患者数(各年)(人)		88
性別	男(人)	236
	女(人)	762
	女性率(%)	76.4
平均年齢(歳)		66.3
平均罹病期間(年)		13.5
罹病期間分類(%)	2年以下	14.8
	3年～9年	30.5
	10年以上	54.7
Stage(%)	I	26.7
	II	8.4
	III	28.1
	IV	36.8
Class(%)	1	44.8
	2	43.8
	3	10.6
	4	0.9
RF陽性率(%)		77.7
ACPA陽性率(%)		79.0

関節リウマチ薬物治療	
MTX投与者(例)	621
MTX投与率(%)	62.2
投与例の平均MTX投与量(mg/w)	7.8
GST投与者(例)	21
GST投与率(%)	2.1
SASP投与者(例)	179
SASP投与率(%)	17.9
TAC投与者(例)	161
TAC投与率(%)	16.1
IGU投与者(例)	136
IGU投与率(%)	13.6
BUC投与者(例)	15
BUC投与率(%)	1.5
PSL投与率(%)	15.5
投与例の平均PSL投与量(mg/day)	4.5
生物学的製剤経験者(例)	381
生物学的製剤経験率(%)	38.2

手術件数	
合計手術件数(件)	25
人工膝関節全置換術(件)	12
人工膝関節単顆置換術(件)	2
人工股関節置換術(件)	2
足趾形成術(件)	1
RA手関節手術(件)	3
足関節固定術(件)	0
その他(件)	5

関節リウマチ患者の骨粗鬆症治療		
骨粗鬆症治療の施行(例)	あり	426
	なし	572
ビタミンD製剤(例)	エディロール	206
	α カルシドール	45
	ロカルトロール	0
	デノタス	48
ビスフォスフォネート製剤(例)	アクトネル	84
	ボノテオ	142
	ボナロンゼリー	11
	ボンビバ	10
	リクラスト	37
SERM(例)	エビスタ	12
	ビビアント	10
PTH製剤(例)	テリボン	0
	フォルテオ(投与中)	2
	フォルテオ(延べ数)	79
抗RANKL抗体(例)	プラリア(投与中)	70
	プラリア(延べ数)	82
その他(例)	グラケー	1

関節リウマチ以外の患者の骨粗鬆症診療	
閉経後骨粗鬆症(例)	62
ステロイド性骨粗鬆症(例)	36
性腺機能不全による骨粗鬆症(例)	8
妊娠後骨粗鬆症(例)	3
男性骨粗鬆症(例)	2
計	111

関節リウマチ臨床成績		
平均CRP(mg/dl)		0.63
平均DAS28(ESR)		2.75
DAS28(ESR)疾患活動性分類(%)	High	4.2
	Moderate	25.6
	Low	21.8
	Remission	48.3
平均SDAI		5.2
SDAI疾患活動性分類(%)	High	2.0
	Moderate	10.8
	Low	36.2
	Remission	51.0
Boolean4(%)		39.4
平均mHAQ		0.330
mHAQ<0.5(%)		73.9

関節リウマチ患者の通院中断		
死亡(例)		22
連絡無く通院中断(例)		21
他医紹介	通院困難(例)	16
	関節リウマチ以外の病気の転院に伴って(例)	5
	遠方への転居(例)	6
	患者希望で紹介(転居通院困難以外)(例)	12
関節リウマチから他疾患に診断変更(例)		2
寛解などで終了(例)		4
その他・分類不能(例)		3
計		91

脊椎外科

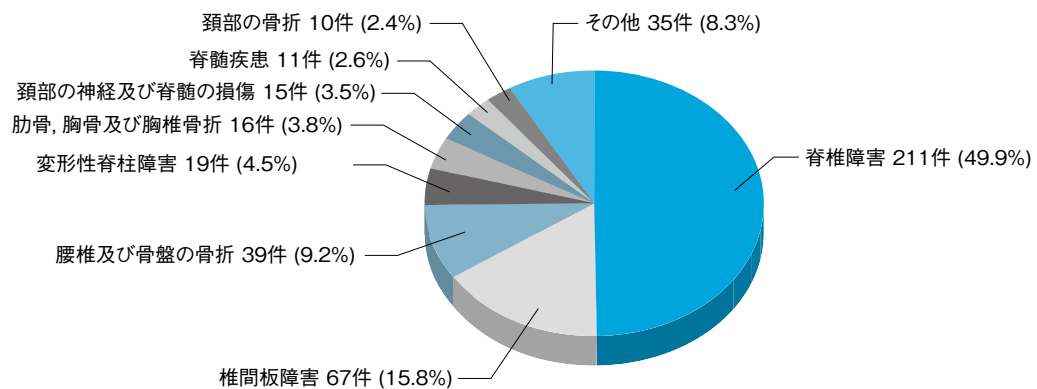
1. 概要

脊椎外科は2005年4月1日より院内標榜科として新設された。現在、脊椎外科医は吉原永武（部長）、岡田裕也の2人であり、整形外科スタッフの協力を得ながら診療を行っている。年間200件程の手術治療を行っているが、頸髄症、脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアが脊椎外科における3大疾患であり、手術例のほとんどを占める。稀な疾患においては、名古屋大学整形外科脊椎グループと連携をとりながら、治療を行っている。2014年から手術室にO-arm CTとナビゲーション機器を導入し、より安全性を向上させた手術が可能となっている。近年、高齢化に伴う骨粗鬆症性脊椎圧迫骨折に対するセメント治療（BKP）が全国的に行われるようになり、当院でも導入を始めた。全身麻酔が必要であるため、手術枠の問題で、まだ数は少ないが、今後積極的に行っていく治療になると考える。

（部長 吉原 永武）

2. 新規登録疾患

総数：423件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
脊椎障害	脊柱管狭窄(症)	91	M4806
	その他の脊椎症	59	M4782
椎間板障害	その他の明示された椎間板ヘルニア	61	M512
腰椎及び骨盤の骨折	腰椎骨折	36	S3200
変形性脊柱障害	脊椎すべり症	12	M4316
肋骨、胸骨及び胸椎骨折	胸椎骨折	14	S2200
頸部の神経及び脊髄の損傷	脊髄のその他及び詳細不明の損傷	15	S141
脊髄疾患	脊髄疾患, 詳細不明	9	G959
頸部の骨折	頸部の骨折, 部位不明	5	S1290

3. 活動報告

(1) 主な対象疾患

腰椎椎間板ヘルニア 腰部脊柱管狭窄症 頸椎症性頸髄症 腰椎こり症・分離症 頸椎椎間板ヘルニア 後縦靱帯骨化症・黄色靱帯骨化症・黄色靱帯石灰化症 リウマチ脊椎 透析脊椎 脊髄腫瘍・脊椎腫瘍 脊椎感染症 脊椎外傷 その他

(2) 手術実績

術 式	件数(件)
頸椎椎弓形成術	41
頸椎椎間孔拡大術	3
頸椎前方除圧固定	5
頸椎後方固定術	14
胸椎除圧固定	1
胸椎椎弓切除	10
椎間板ヘルニア摘出	19
椎弓切除(腰椎除圧術)	54
脊椎固定術	50
胸腰椎前方固定	6
胸腰椎後方固定	17
胸腰椎前方後方同時固定	1
脊椎脊髄腫瘍	7
その他	11
計	239

脳神経外科

1. 概要

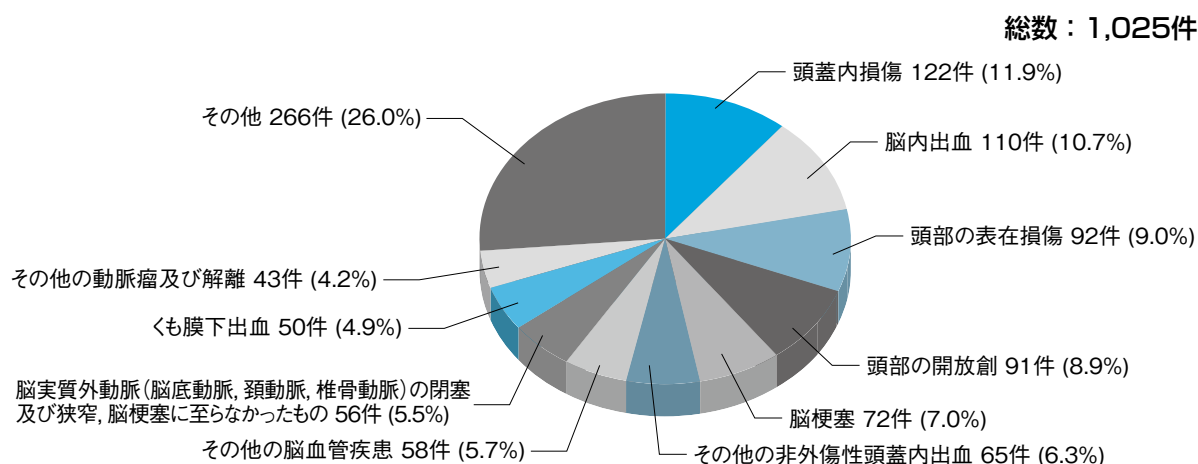
当科では現在7人の常勤医がおり、各専門領域に医師を配置して、新生児から超高齢者まで脳神経外科疾患のほぼ全ての領域を対象に、可能な限り当院にて治療が完結できるよう努めている。高侵襲な手術から、血管内治療や神経内視鏡手術などの低侵襲かつ最先端の治療も行っているが、その中で近年最も飛躍した治療に、急性期脳梗塞に対するカテーテル血栓除去術がある。従来にはない治療効果が得られ、年々その治療症例数は増加をたどり、これに合わせるように間もなく全国規模で脳卒中センターが設立していく計画になっている。当院もその施設基準の取得に向けて準備をしているが、最終的には神経内科の先生方と協力して脳卒中ケアユニットを備えた高度な脳卒中専門施設として機能できるよう整備していきたい。一方、脳卒中の急性期治療後には「穂の国脳卒中地域連携パス」を活用して回復期および維持期施設との円滑な地域連携を図っている。

2019年4月からは、増築された新手術棟にてhybrid手術室が稼働する。脳卒中のみならず脳腫瘍なども含め、より難易度の高い疾患に対応できるようになった。さらなる治療成績の向上に努めたい。少子高齢化時代の中で、スタッフ一同、地域の皆様に広く親しまれ、さらに信頼される病院を目指す所存である。

(第一部長 雄山 博文)

(文責 第二部長 若林 健一)

2. 新規登録疾患



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
頭蓋内損傷	外傷性硬膜下出血	45	S065
	外傷性くも膜下出血	20	S066
脳内出血	(大脳)半球の脳内出血, 皮質下	85	I610
	脳内出血, 詳細不明	10	I619
頭部の表在損傷	頭皮の表在損傷	91	S000
頭部の開放創	頭皮の開放創	75	S010
	眼瞼及び眼球周囲部の開放創	13	S011
脳梗塞	脳梗塞, 詳細不明	33	I639
	脳動脈の塞栓症による脳梗塞	13	I634
その他の非外傷性頭蓋内出血	硬膜下出血(急性)(非外傷性)	65	I620
その他の脳血管疾患	脳動脈瘤, 非破裂性	38	I671
脳実質外動脈(脳底動脈, 頸動脈, 椎骨動脈)の閉塞及び狭窄, 脳梗塞に至らなかったもの	頸動脈の閉塞及び狭窄	50	I652
くも膜下出血	頸動脈サイフォン及び頸動脈分岐部からのくも膜下出血	15	I600
	中大脳動脈からのくも膜下出血	10	I601
その他の動脈瘤及び解離	頸動脈瘤及び解離	31	I720
	椎骨動脈の動脈瘤及び解離	10	I726

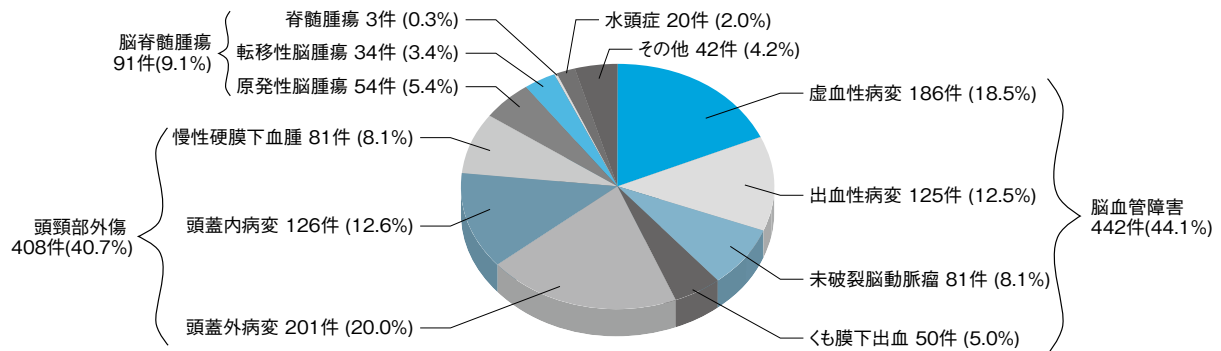
3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	12,520人	年間外来新患者数	1,963人
年間入院患者数	14,909人	年間入院新患者数	792人

(2) 疾患群別に見た症例数

総数：1,003件



(3) 血管内手術件数

術 式	件数(件)
経皮的血管形成術	26
急性期再開通療法	28
脳動脈瘤塞栓術	28
硬膜静脈瘻塞栓術	5
脳動静脈奇形塞栓術	2
その他の血管内手術	24
計	113

小児科

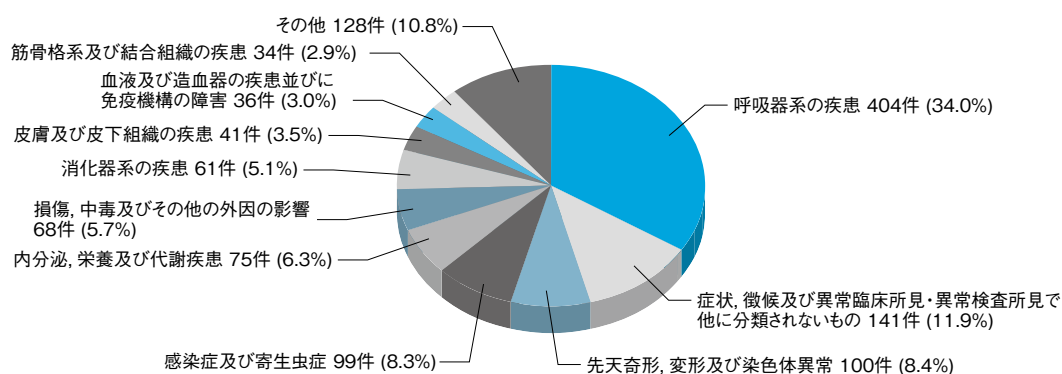
1. 概要

当小児科病棟スタッフは皆、東三河地域の最後の砦を担うという誇りと緊張感を持って日夜対応している。サブスペシャリティとしてはアレルギー疾患、神経疾患、循環器疾患、腎疾患、内分泌疾患、血液腫瘍疾患をカバーし、高度特殊医療を除けば各分野ともに専門施設と比べても引けを取らない医療レベルを提供できている。また、患者には最善の医療を提供すべく、各分野で対応困難な症例については惜しみなく専門施設との連携をとって対応している。このような体制を維持する意義は、極力地域で医療が完結することが患者家族への最高のサービスの一つとなることにある。特に長期入院を必要とする場合、月に何度も専門外来にかかる必要がある場合には切実な問題である。一方で、周囲の一次医療、二次医療、休日夜間診療所の業務、健診医療の充実に支えられてこそ当院が二次、三次医療に集中することが可能であるということも忘れてはならない。

(第二部長 伊藤 剛)

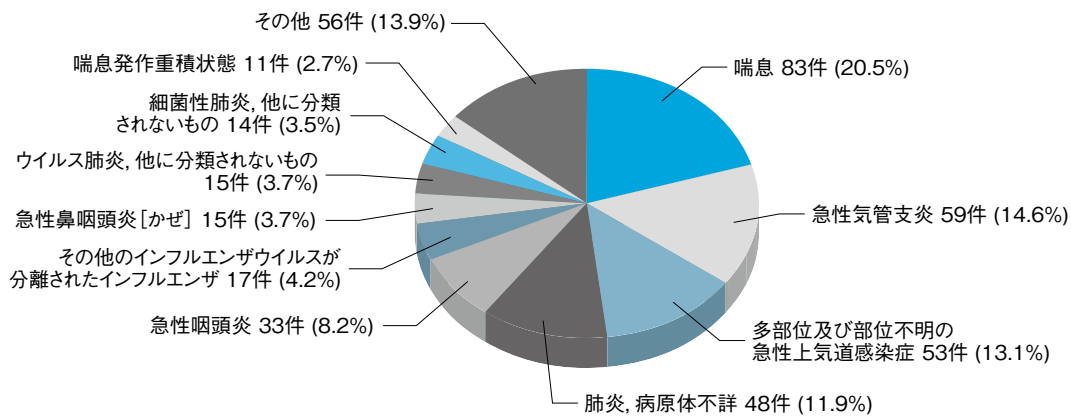
2. 新規登録疾患

総数：1,187件

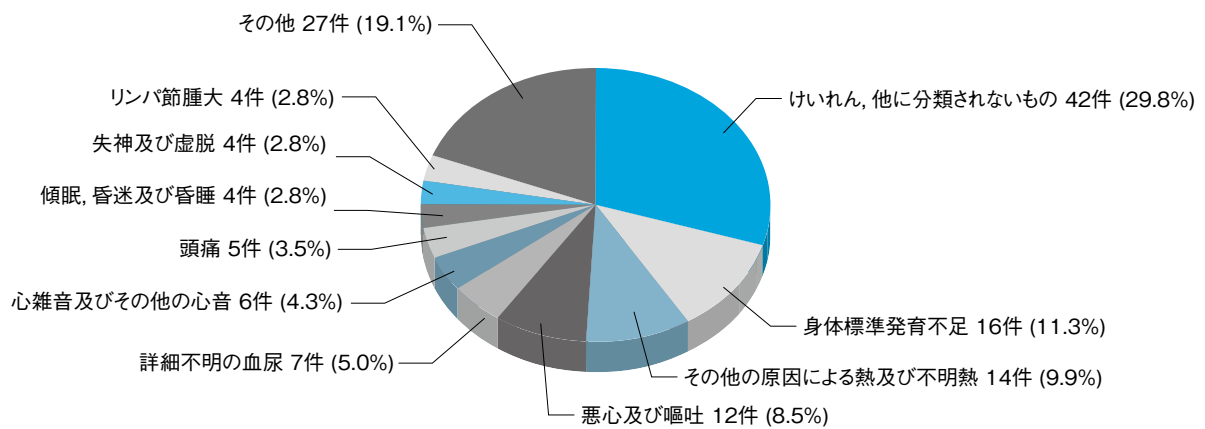


上位3位の詳細

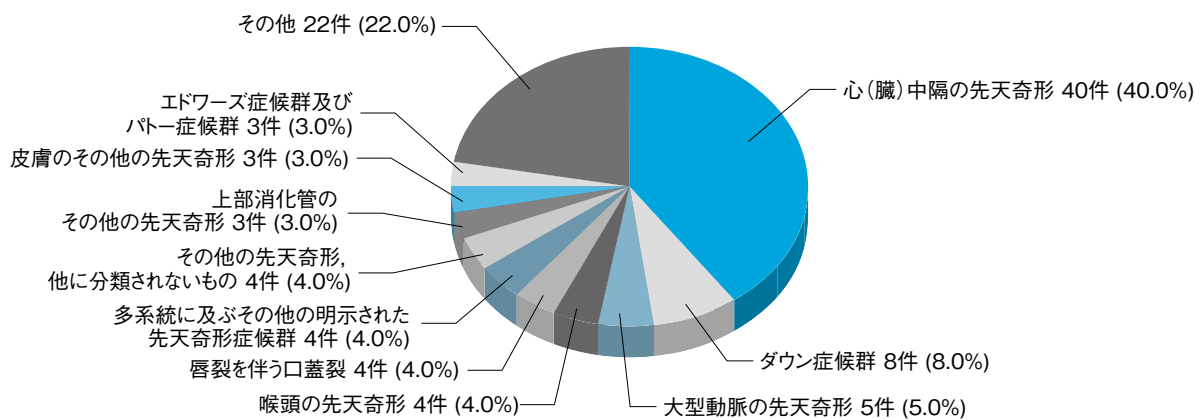
(1) 呼吸器系の疾患：404件



(2) 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの：141件



(3) 先天奇形、変形及び染色体異常：100件

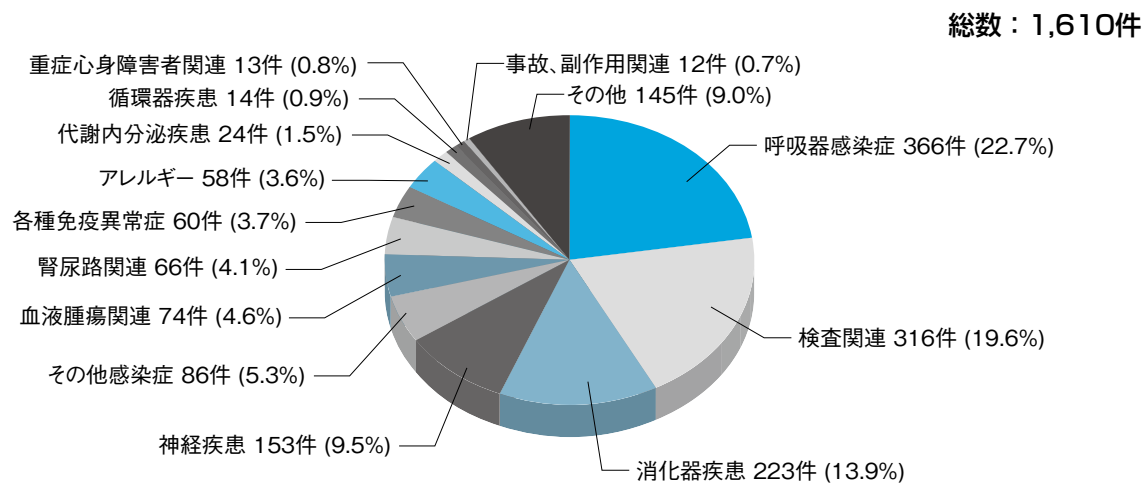


3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	29,143人	年間外来新患者数	2,810人
年間入院患者数	19,075人	年間入院新患者数	1,987人

(2) 入院患者疾患別頻度



小児科（新生児部門）

1. 概要

豊橋市民病院新生児医療センターは、東三河地区唯一の総合周産期母子医療センターに指定されている。

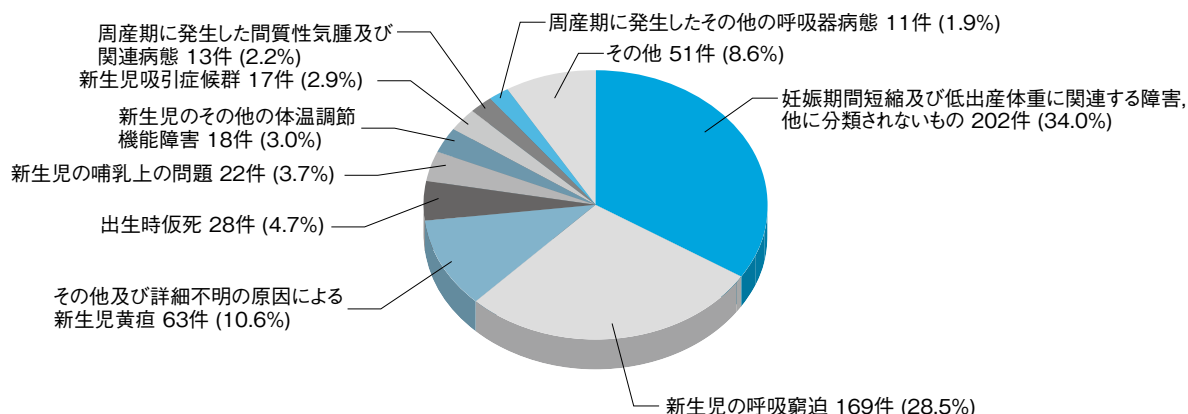
2018年の入院数は508例で内355例は院内出生であった。153例の院外出生例においては医師が救急車に同乗して搬送しており、診察依頼があった全ての新生児に24時間体制で高度な医療を迅速に提供している。一部の外科的治療が必要な例は他施設への搬送を要する例もあるが、その場合も医師が同乗し責任をもって搬送にあたっている。2018年の死亡例は5例であった。新生児期の医療面のみではなく、患児発達支援や、両親の心のサポートを医師、看護師、理学療法士、臨床心理士、医療ソーシャルワーカーが共同して提供している。近隣産科医院への出張を含めた新生児蘇生講習会を定期開催し、地域の周産期医療レベルの向上にも努めている。

当センターは周産期（新生児）専門医の基幹研修施設に指定されており、若手医師の教育、専門医の育成にも尽力している。

（第二部長 杉浦 崇浩）

2. 新規登録疾患

総件数：594件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
妊娠期間短縮及び低出産体重に関連する障害, 他に分類されないもの	その他の低出産体重(児)のうち, 出産体重1500グラム-2499グラムの児	102	P071b
	その他の早産児	73	P073
新生児の呼吸窮迫	新生児一過性頻呼吸	143	P221
	新生児呼吸窮迫症候群	25	P220
その他及び詳細不明の原因による新生児黄疸	新生児黄疸, 詳細不明	63	P599
出生時仮死	重度出生時仮死	18	P210
新生児の哺乳上の問題	新生児嘔吐	13	P920
新生児のその他の体温調節機能障害	新生児の体温調節機能障害, 詳細不明	18	P819
新生児吸引症候群	新生児の胎便吸引	17	P240
周産期に発生した間質性気腫及び関連病態	周産期に発生した気胸	13	P251
周産期に発生したその他の呼吸器病態	新生児のその他の無呼吸	9	P284
	新生児のその他の明示された呼吸器病態	2	P288

産婦人科

1. 概要

周産期部門では産後2週間健診や産後ケア事業を開始し、助産師とともに昨今問題となっている妊産婦のメンタルヘルスの問題に力を入れた。地域の出生数の減少に伴い、近隣の一次施設を含めると地域の分娩について余力が出てきたと判断し分娩制限を解除した。地域の分娩数の低下にもかかわらず、当院での分娩数、母体搬送数は昨年からはほぼ横ばいとなっており、ハイリスク症例については当院への集約化が進んでいると考えられた。

婦人科手術については、ロボット手術の保険適応が拡大され症例数が増加した。またロボット手術を行うために必要な症例見学施設として当院が全国で4番目の施設認定を受け、多くの見学者を受け入れた（詳細は女性内視鏡外科の頁を参照）。化学療法も新たな分子標的薬が適応となり、予後改善に伴い化学療法の施行回数の増加が見込まれる。

子宮筋腫、子宮内膜症をはじめとした良性疾患については挙児希望のある患者については、総合生殖センターと連携し生殖～周産期へと一貫した治療を目指し、患者のQOLやファミリープランニングを念頭に治療選択に患者自身の積極的関与を促す方法を取り入れている。

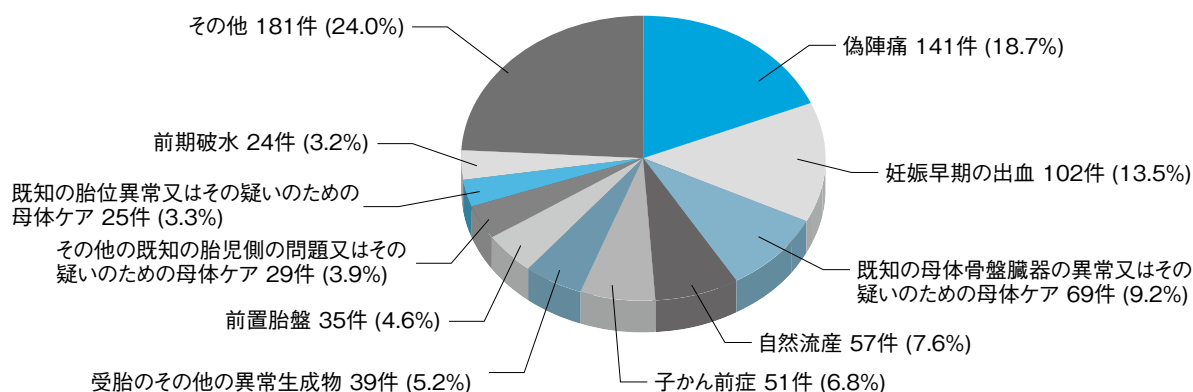
産婦人科（生殖医療含む）医師は2019年4月現在16人、うち産婦人科専攻医6人。4月より新専門医制度に伴う専攻医の交流が始まったが、当院の特徴である周産期、腫瘍、生殖、女性ヘルスケアの産婦人科主要4分野プラス内視鏡について充実した研修体制を提供することで専攻医にとって魅力あるプログラムを提供していきたい。

（第二部長 岡田 真由美）

2. 新規登録疾患

(1) 産科（分娩を除く）

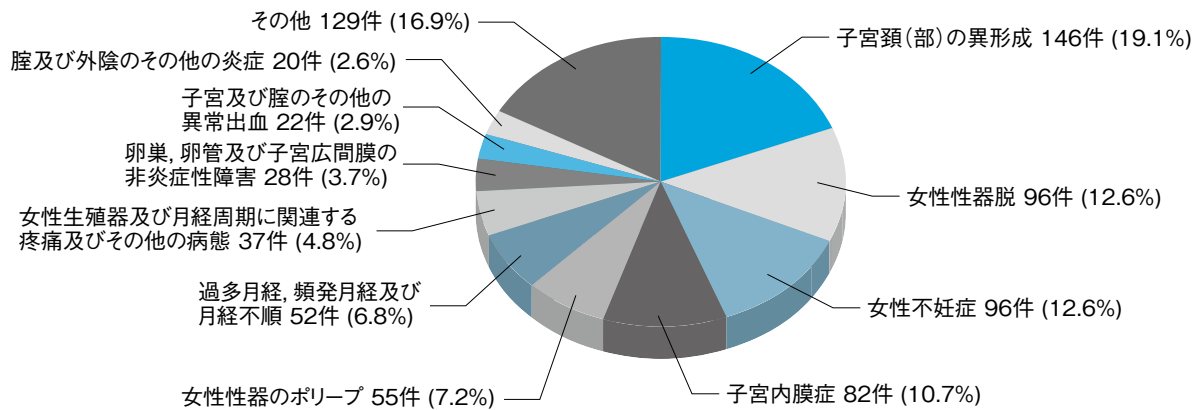
総数：753件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
偽陣痛	妊娠満37週未満の偽陣痛	141	O470
妊娠早期の出血	切迫流産	101	O200
既知の母体骨盤臓器の異常又はその疑いのための母体ケア	既往手術による子宮瘢痕による母体ケア	63	O342
自然流産	自然流産, 完全流産又は詳細不明の流産, 合併症を伴わないもの	46	O039
	自然流産, 不完全流産, 合併症を伴わないもの	11	O034
子かん前症	重症子かん前症	26	O141
	子かん前症, 詳細不明	19	O149
受胎のその他の異常生成物	稽留流産	39	O021
前置胎盤	出血を伴う前置胎盤	35	O441
その他の既知の胎児側の問題又はその疑いのための母体ケア	その他の同種免疫のための母体ケア	15	O361
既知の胎位異常又はその疑いのための母体ケア	骨盤位のための母体ケア	23	O321
前期破水	前期破水, 詳細不明	24	O429

(2) 婦人科

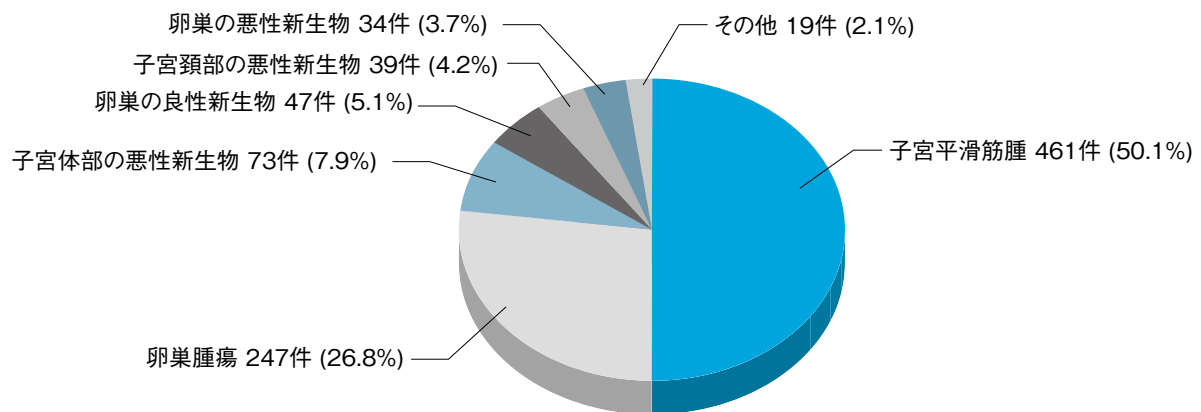
総数：763件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
子宮頸(部)の異形成	子宮頸(部)の異形成, 詳細不明	101	N879
	高度子宮頸(部)の異形成,他に分類されないもの	33	N872
女性性器脱	子宮脱, 詳細不明	36	N814
	膀胱瘤	20	N811
女性不妊症	女性不妊症, 詳細不明	96	N979
子宮内膜症	子宮の子宮内膜症	31	N800
	子宮内膜症, 詳細不明	29	N809
女性性器のポリープ	子宮頸(部)ポリープ	33	N841
	子宮体(部)ポリープ	20	N840
過多月経,頻発月経及び月経不順	不規則周期を伴う過多月経及び頻発月経	23	N921
	規則的周期を伴う過多月経及び頻発月経	18	N920
女性生殖器及び月経周期に関連する疼痛及びその他の病態	月経困難症, 詳細不明	34	N946
卵巣, 卵管及び子宮広間膜の非炎症性障害	卵巣, 卵管及び広間膜のその他の非炎症性障害	20	N838
子宮及び膣のその他の異常出血	子宮及び膣の異常出血, 詳細不明	22	N939
膣及び外陰のその他の炎症	急性膣炎	17	N760

(3) 新生物

総数：920件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
子宮平滑筋腫	子宮平滑筋腫, 部位不明	449	D259
	粘膜下子宮平滑筋腫	12	D250
卵巣腫瘍	女性生殖器の性状不詳又は不明の新生物, 卵巣	247	D391
子宮体部の悪性新生物	子宮体部の悪性新生物, 子宮体部, 部位不明	57	C549
	子宮体部の悪性新生物, 子宮内膜	15	C541
卵巣の良性新生物	卵巣の良性新生物	47	D27
子宮頸部の悪性新生物	子宮頸部の悪性新生物, 子宮頸(部), 部位不明	39	C539
卵巣の悪性新生物	卵巣の悪性新生物	34	C56

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	41,241人	年間外来新患者数	2,528人
年間入院患者数	19,741人	年間入院新患者数	2,454人

(2) 実績

分娩統計(2018.1-12) (件)

正常	413
バースセンター正常	7
選択の帝王切開	219
緊急帝王切開	153
超緊急帝王切開	11
死産緊急帝王切開	2
鉗子分娩	4
吸引分娩	30
死産	2
未受診正常	1
自宅分娩	4
車中分娩	1
双胎選択帝王切開	25
双胎緊急帝王切開	13
品胎二児IUID・正常分娩	1
品胎選択帝王切開	1
計	887
中期中絶	18
中期流産	9
中期中絶D&C	1
中期流産D&C	1
中期中絶帝王切開	2
双胎流産	1
計	32
母体搬送	199

産婦人科悪性腫瘍治療症例数(2018.1-12) (件)

◎子宮頸部CIN2	計7例
①円錐切除	4
②TLH	2
③ロボット支援下TLH	1
◎子宮頸部CIN3	計78例
①円錐切除	49
②レーザー蒸散	1
③TLH	20
④ロボット支援下TLH	8
◎子宮頸癌	計40例
①子宮頸癌初回手術	26
I A1期	1
I A期	1
I B1期	13
I B2期	1
II A1期	2
II A2期	1
II B期	1
AIS	6
②CCRT(同時化学放射線療法 放射線科と共同治療)	7
I B2期	1
II A2期	1
II B期	1
III B期	1
IV A期	1
IV B期	2
③放射線療法(主に放射線科で治療)	6
IV A期	2
IV B期	4
④円錐切除	1
I A1期	1
◎子宮体癌(癌肉腫含む)	計69例
①子宮体癌初回手術	68
1A期	38
1B期	10
II 期	4
III A	4

ⅢB期	1
ⅢC1期	4
ⅢC2期	3
ⅣB期	4
②放射線療法	1
ⅠA期	1
◎子宮内膜異型増殖症手術	計2例
◎卵巣癌(悪性腫瘍)	計36例
①手術	35
ⅠA期	2
ⅠC1期	6
ⅠC2期	3
ⅠC3期	4
ⅡB期	5
ⅢA期	3
ⅢB期	5
ⅢC期	4
ⅣA期	2
ⅣB期	1
②化学療法	1
ⅣB期	1
◎卵巣境界悪性腫瘍手術	計12例
ⅠA期	4
ⅠB期	1
ⅠC1期	6
ⅠC2期	1
◎子宮肉腫化学療法	計1例
ⅡB期	1
◎STUMP	計1例
◎腹膜癌-	計2例
◎胞状奇胎手術-	計1例
◎転移性卵巣癌	計5例

化学療法

卵巣癌	66人	のべ435コース
子宮体癌	44人	のべ220コース
子宮頸癌	50人	のべ219コース
腹膜癌	6人	のべ47コース
卵管癌	1人	のべ10コース
子宮肉腫	2人	のべ12コース
外陰癌	1人	のべ2コース
侵入奇胎	1人	のべ3コース

計 171人に対してのべ948コース施行

産婦人科当直帯救急患者数(夜間休日)(2018.1-12)(件)

経陰分娩	339
緊急帝王切開(超緊急帝王切開含む)	96
その他手術	25

救急外来患者数再診

8:30～17:00(休日のみ)	159
17:00～0:00	249
0:00～8:30	116
計	524

救急外来患者初診

(カッコ内は本来他の施設で診察すべき患者数)

8:30～17:00(休日のみ)	83(7)
17:00～0:00	244(22)
0:00～8:30	116(7)
計	443(36)

救急外来患者総数 967

手術総件数(2018.1-12)

産科

帝王切開術	402
前置胎盤を伴う帝王切開術	23
分娩後子宮全摘術	3
会陰部裂傷縫合・腔壁血腫除去術	4
子宮頸管縫縮術	5
その他	2

開腹術(良性)

単純子宮全摘出術(腔上部含む)	54
筋腫核出術	19
子宮付属器切除術	46
その他	6

開腹術(悪性)

子宮悪性腫瘍手術	23
うち広汎子宮全摘術	6
うち拡大子宮全摘術	3
子宮付属器悪性腫瘍手術	36
その他(試験開腹術含む)	6

経腔的・外陰部手術

腔式子宮全摘術(前後会陰形成術含む)	7
経腔的子宮筋腫核出術	2
円錐切除術(蒸散含む)	63
子宮内膜全面搔把術	15
子宮内容除去術(流産手術)	21
子宮内容除去術(人工妊娠中絶術)	13
胞状奇胎娩出術	8
その他	22

内視鏡手術

子宮鏡手術	6
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術	38
うち子宮頸癌	20
うち子宮体癌	18
うち広汎子宮全摘術	14
うち拡大子宮全摘術	15
腹腔鏡下子宮全摘術(良性)	146
腹腔鏡下子宮筋腫核出術	32
腹腔鏡下子宮付属器手術	160
腹腔鏡下仙骨腔固定術	22
腹腔鏡下手術その他	13

ロボット支援下手術	51
うち良性疾患	26
うち子宮頸癌	1
うち子宮体癌	24
うち広汎子宮全摘	1
うち拡大子宮全摘	11
計	1,248

(3) 研究会開催

1. 第11回がんのリンパ浮腫研究会

開催者：河井通泰 豊橋市民病院後援

一般演題6題 クリニカルレクチャー1題 特別講演1題

参加者 103人

豊橋市民病院講堂 13:00～16:35 2017/11/25

婦人科癌、乳癌の手術後に発症する上下肢のリンパ浮腫における診断と治療に関する研究会である。今年で11回目であり東三河地方で開催されるのは初めて。愛知、岐阜、三重3県の産婦人科、外科血管外科、形成外科の医師および看護師、理学療法士、セラピストを対象としている。一般演題（演者 当院北見和久医師 当院窪川芽衣医師 当院長尾有佳里医師 当院森弘幸理学療法士 名古屋大学内堀貴文医師）、クリニカルレクチャー（演者 当院女性内視鏡外科 梅村康太郎 長 ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社共催）、特別講演（演者 広田内科クリニック 廣田彰男理事長 中外製薬株式会社共催）が発表された。企業展示も5社（株式会社メディックス 株式会社リムフィックス 九州メディカルサービス株式会社 テルモ株式会社 ナック商会株式会社）の協力が得られ講堂後方で展示を行った。リンパ浮腫に関する熱心な討論がされた。当院の医師、理学療法士、看護師、事務が総勢11人（河井通泰、高野みずき、北見和久、吉原基、森嶋直人、神谷猛、森谷景子、村山智子、加藤浩二、金子剛士、塩野谷順子）で準備した。当日会は滞りなく進み無事閉会した。患者のために今後役立つと思われた有意義な研究会であった。

2. 第21回 愛知県分婉監視研究会 当番世話人：岡田真由美

一般演題3題

特別講演1題

名古屋大学医学部基礎研究棟4F 第4講義室 18:00～19:50 2018/6/30

参加者250人

愛知産科婦人科学会学術講演会に引き続き開催し、運営及び進行を当院スタッフが担当した。

(4) 学会開催

1. 第107回愛知産科婦人科学会学術講演会

学術集会会長 河井通泰

一般演題28題

参加者 230人

名古屋大学医学部基礎研究棟4F 第4講義室 14:00～17:26 2018/6/30

座長は豊橋市民病院スタッフが担当した。第Ⅰ群：河井通泰、第Ⅱ群：梅村康太、第Ⅲ群：安藤寿夫、第Ⅳ群：岡田真由美、第Ⅴ群：河合要介 28演題すべてにおいて活発な討論がなされて有意義な学会であった。

産婦人科（生殖医療）

1. 概要

当院が先駆けとなり運用開始したタイムラプス胚培養も12年目を迎えた。2018年には胚(受精卵)発育の連続画像情報(動画)を基に、コンピュータが74の特性を分析して点数評価する新機種を導入した。この新機種1台の処理可能症例数の限界から、2018年は一時的な患者制限も余儀なくされたが、2019年度には2台目も運用開始となり、胚培養士による胚評価も加えたユニークなレポートをお渡しするなど、令和時代にふさわしい新規タイムラプスARTが本格的に動き出す。

当院では、様々な最新医療技術を用いてもすんなり妊娠していただけない患者さんの共通点を探しだしていき、粘り強く成功に導く努力を毎年重ねてきた。健康長寿に向けて、生活習慣の質的向上が最近重視されてきている。生活習慣は、妊娠分娩やその後の母子の健康状態にも大きく影響を与えるため、生殖医療の成功においても鍵を握っている。当院では食事、運動、睡眠、心理的ストレスの4つのテーマで生活習慣を見直してもらい、何人の子どもを望み、最後の子どもを西暦何年・何歳で出産するかの目標を明確にし、そこから逆算して治療プランを立てるファミリープランニングを意識した生殖医療を最新技術と両輪で推進している。

(部長 安藤 寿夫)

2. 活動報告

(1) 生殖補助医療

2018年	刺激周期数	体外受精数	内、顕微授精	新鮮胚移植	妊娠	融解胚移植	妊娠
1月	13	10	5	2	1	13	5
2月	24	22	12	11	2	5	3
3月	12	12	6	5	1	3	1
4月	12	11	8	8	0	7	3
5月	11	9	7	1	0	4	1
6月	19	16	7	6	1	4	0
7月	13	11	9	5	0	9	2
8月	19	18	13	10	3	7	6
9月	12	10	5	5	1	3	2
10月	16	14	6	6	1	8	4
11月	18	18	13	10	2	4	2
12月	15	13	9	1	0	6	3
計	184	164	100	70	12	73	32
妊娠率					17.1%		43.8%

単胚移植率100%。多胎は0例。異所性妊娠1例。

生殖医療の成績データは、症例背景など医療機関により異なる要素が多いことから、他の医療機関との単純な比較をすべきではないと付記することが、米国では義務付けられている。

(2) 不妊症妊娠例(カッコ内は多胎妊娠例)

区分	件数(件)
体外受精-新鮮胚移植	13(0)
融解胚移植	34(0)
排卵誘発	9(1)
人工授精	3(0)
習慣流産	2(0)
タイミング法・その他	18(1)
計(重複例を除く)	68(1)

生殖医療の成績データは、症例背景など医療機関により異なる要素が多いことから、他の医療機関との単純な比較をすべきではないと付記することが、米国では義務付けられています。

女性内視鏡外科

1. 概要

産婦人科における手術治療のうち、主に腹腔鏡と子宮鏡に関わる手術を担当している。東三河においては、以前より開腹術が中心であったが、多くの良性疾患に対して腹腔鏡下手術を行うことが可能となった。この手術は傷も小さく、早期退院、社会復帰が可能な手術で患者にとって負担が少ない手術法であり、2017年度には、約400件の鏡視下手術を行った。入院期間は腹腔鏡下手術で5日前後、子宮鏡下手術では3日間である。良性疾患だけでなく、悪性腫瘍疾患に対しても積極的に本術式を導入し、子宮体癌や子宮頸癌に対しても本方法で手術を行っている。2014年度には、子宮頸癌における腹腔鏡下広汎子宮全摘術を愛知県で初めて先進医療として導入、2017年度には子宮体癌における腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術を先進医療として全国3番目に開始し最先端の治療を行っている。また、ロボット支援下手術も積極的に開始し、より低侵襲で安全な治療を行っている。今後は東三河だけでなく、他の地域での啓蒙活動にも力を入れ、さらなる低侵襲化手術の普及を進める。

(部長 梅村 康太)

耳鼻いんこう科

1. 概要

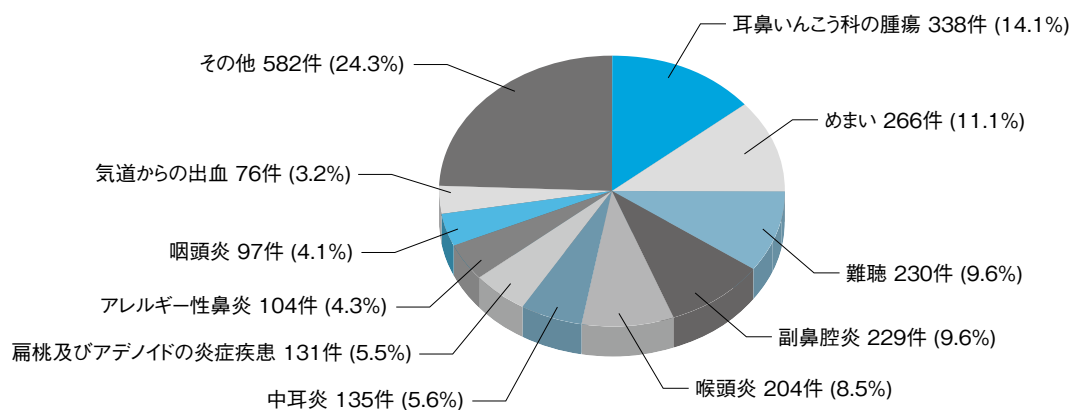
中耳炎、めまい、難聴、顔面神経麻痺に対して投薬治療を行い、改善を認めない場合は当院にて外科的治療を行っている。また、耳鳴り専門外来を設置し、専門的な治療を行っている。

アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、鼻中隔湾曲症に対して、患者の病態や希望にあった治療(手術療法や投薬治療)を行った。慢性扁桃炎や睡眠時無呼吸症候群に対して、口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術を行った。また鼻出血、急性扁桃炎、喉頭蓋炎等の救急疾患については、重症度に合わせて入院治療を行った。咽頭・喉頭・甲状腺・唾液腺等の良性腫瘍に対しては、適応を定めて手術療法を行った。悪性腫瘍に対しては、それぞれの患者の状況に合わせて、根治と機能温存のバランスを取り、手術療法、化学療法、放射線療法の3者を組み合わせて治療を行った。再建を必要とする様な症例も積極的に当院で行った。

(部長 小澤 泰次郎)

2. 新規登録疾患

総数：2,392件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
耳鼻いんこう科の腫瘍	口腔及び消化器の性状不詳又は不明の新生物, 口唇, 口腔及び咽頭	90	D370
	内分泌腺の性状不詳又は不明の新生物, 甲状腺	66	D440
めまい	その他の末梢性めまい	212	H813
	メニエール病	36	H810
難聴	感音難聴, 詳細不明	109	H905
	老人性難聴	36	H911
副鼻腔炎	慢性副鼻腔炎, 詳細不明	216	J329
喉頭炎	慢性喉頭炎	204	J370
中耳炎	非化膿性中耳炎, 詳細不明	63	H659
	中耳炎, 詳細不明	62	H669
扁桃及びアデノイドの炎症疾患	急性扁桃炎, 詳細不明	57	J039
	扁桃肥大	45	J351
アレルギー性鼻炎	アレルギー性鼻炎, 詳細不明	102	J304
咽頭炎	急性喉頭咽頭炎	76	J060
	急性咽頭炎, 詳細不明	20	J029
気道からの出血	鼻出血	75	R040

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	24,500人	年間外来新患者数	3,302人
年間入院患者数	8,229人	年間入院新患者数	720人

(2) 入院患者の状況

①主な救急疾患（入院加療を要した）

疾患名	件数(件)
急性扁桃炎・扁桃周囲の腫瘍	46
めまい	34
急性喉頭蓋炎・喉頭炎	17
鼻出血	14
顔面神経麻痺	11
突発性難聴	7
計	129

②主な手術療法（手術室使用）

術式	件数(件)
口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術	173
内視鏡下副鼻腔手術	73
リンパ節摘出術	35
鼓膜チューブ留置術	33
甲状腺腫瘍手術	32
頸部郭清術	32
気管切開術	26
喉頭微細手術	21
耳下腺腫瘍手術	18
咽頭悪性腫瘍手術	14
喉頭全摘術	8
顎下腺摘出術	2
計	467

眼科

1. 概要

白内障手術においては、+1.5D加入眼内レンズを新たに導入し、トーリック眼内レンズ（乱視矯正用眼内レンズ）の使用も増加した。多焦点眼内レンズについては先進医療施設認定を目指して適応拡大予定である。また、日帰り入院白内障手術が新たに開始となった。病棟、入院支援センター、外来等相互協力によりさらなる入院期間の短縮を図る予定である。

緑内障手術についてはMIGSの適応が拡大し、マイクロフックを用いたトラベクトミーを新たに導入した。硝子体手術とともに、低侵襲手術化がすすんだ。

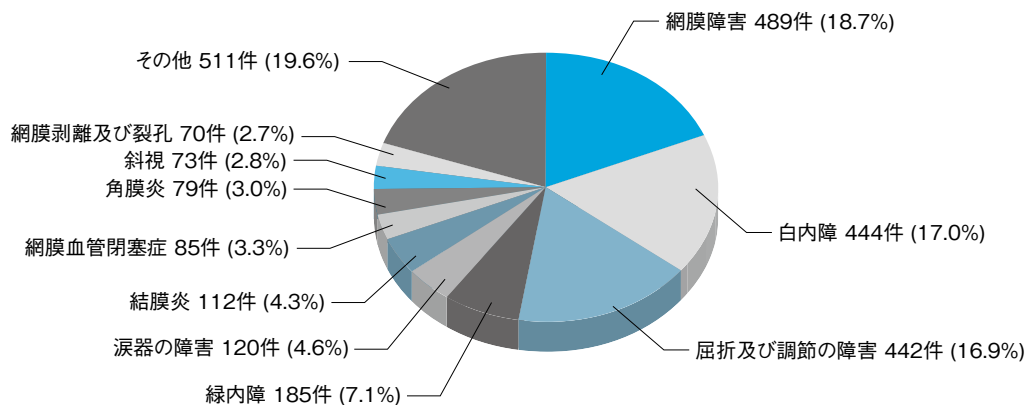
手術室において看護師・臨床工学士と協力して業務の効率化を検討中である。

眼科外来においては、今後、新しいレーザー装置の導入により、従来の網膜光凝固に加え、パターンレーザー・閾値下レーザーも施行可能となる見込みである。

（部長 佐川 宏恵）

2. 新規登録疾患

総数：2,610件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
網膜障害	詳細不明の糖尿病, 眼合併症を伴うもの	219	E143
	黄斑及び後極の変性	142	H353
白内障	乳児, 若年及び初老期白内障	249	H260
	老人性白内障, 詳細不明	84	H259
屈折及び調節の障害	乱視	436	H522
緑内障	緑内障, 詳細不明	126	H409
	緑内障の疑い	21	H400
涙器の障害	涙腺のその他の障害	104	H041
結膜炎	結膜炎, 詳細不明	72	H109
	急性アトピー性結膜炎	36	H101
網膜血管閉塞症	その他の網膜血管閉塞症	77	H348
角膜炎	角膜炎, 詳細不明	29	H169
	角膜潰瘍	20	H160
斜視	間欠性斜視	24	H503
	共同性内斜視	18	H500
網膜剥離及び裂孔	網膜剥離, 網膜裂孔を伴うもの	33	H330
	網膜裂孔, 剥離を伴わないもの	20	H333

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	22,842人	年間外来新患者数	2,089人
年間入院患者数	4,438人	年間入院新患者数	880人

(2) 入院時の疾患内訳

疾患名	件数(件)	疾患名	件数(件)
白内障	587	硝子体黄斑牽引症候群	3
黄斑前膜	72	外傷・眼球破裂	2
緑内障	50	眼窩蜂窩織炎	2
網膜剥離	48	眼内異物	2
硝子体出血・混濁	29	眼内炎	2
糖尿病網膜症	23	眼内レンズ脱臼	2
視神経症	16	無水晶体眼	2
黄斑円孔	11	眼瞼腫瘤	1
増殖硝子体網膜症	9	内反症	1
網膜下出血	7	網膜中心動脈閉塞症	1
斜視	4	計	878
角膜穿孔	4		

(3) 手術・検査数

①外来手術数

術式	件数(件)
硝子体注射・テノン嚢下注射	526
網膜光凝固術(PHC)	244
レーザー後発白内障切開術(YAG)	126
レーザー虹彩切開術(LI)	48
涙点プラグ挿入	14
レーザー線維柱帯形成術(LTP/SLT)	4
睫毛電気分解	3
霰粒腫摘出術	2
計	967

②外来特殊検査件数

術式	件数(件)
光干渉断層撮影(OCT)	9,489
動的量の視野検査	779
静的量の視野検査	653
蛍光眼底撮影	483
眼鏡処方	247
計	11,651

③手術センター手術数

術式	件数(件)
白内障手術	734
硝子体茎顕微鏡下離断術	185
流出路再建術	32
翼状片手術	23
濾過胞再建術	18
縫着レンズ挿入	12
斜視手術	11
増殖性硝子体網膜症手術	11
霰粒腫摘出術	8
硝子体注入・吸引術	7
眼瞼下垂症手術	7
網膜復位術	6
内反症手術	5
結膜縫合術	4
前房、虹彩内異物除去術	4
硝子体切除術	3
角膜・強膜縫合術	2
虹彩整復・瞳孔形成術	2
角膜・強膜異物除去術	1
外反症手術	1
眼窩内腫瘍摘出術	1
眼瞼腫瘍切除術	1
結膜肉芽腫摘除術	1
結膜嚢形成手術	1
網膜冷凍凝固術	1
計	1,081

皮膚科

1. 概要

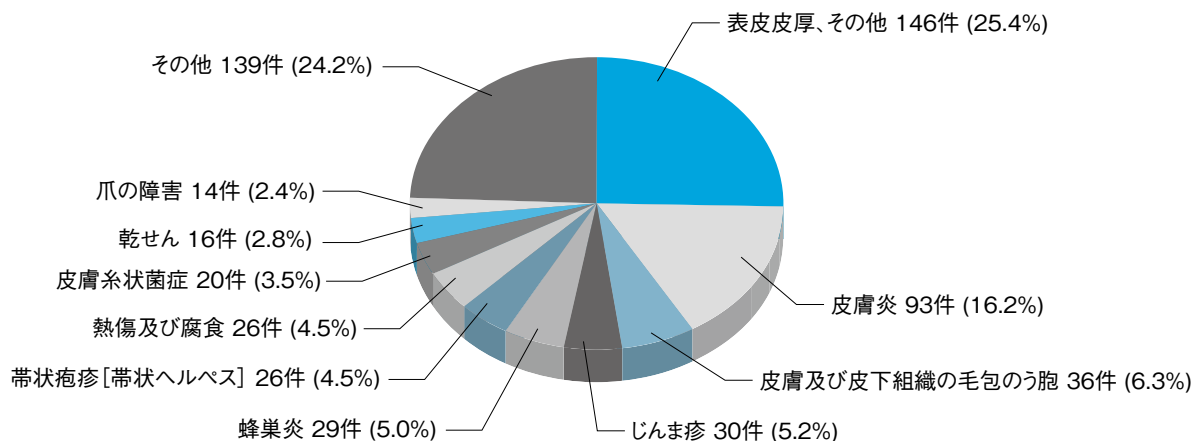
2018年の皮膚科は山田、花村、伊藤、山下の4人体制であった。外来患者数が徐々に増加してきていることと、電子カルテが新システムに移行したことがあり、外来診療時間が伸びている印象がある。入院患者は大きな変化がなかったように思われる。蜂窩織炎や褥瘡感染、带状疱疹などの感染症が多かった。また、例年に比べ重傷熱傷が少なかったように感じた。

(部長 山田 元人)

2. 新規登録疾患

(悪性新生物以外)

総数：575件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
表皮肥厚、その他	皮膚乾燥症	45	L853
	皮膚の慢性潰瘍, 他に分類されないもの	35	L984
皮膚炎	皮膚炎, 詳細不明	21	L309
	薬物及び薬剤による全身の発疹	16	L270
皮膚及び皮下組織の毛包のう胞	表皮のう胞	36	L720
じんま疹	じんま疹, 詳細不明	27	L509
蜂巣炎	蜂巣炎, 詳細不明	26	L039
带状疱疹[带状疱疹]	带状疱疹, 合併症を伴わないもの	24	B029
熱傷及び腐食	第2度熱傷, 部位不明	11	T302
皮膚糸状菌症	足白せん	10	B353
乾せん	尋常性乾せん	15	L400
爪の障害	ボー線	9	L604
	かん入爪(甲)	4	L600

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	26,980人	年間外来新患者数	3,122人
年間入院患者数	5,446人	年間入院新患者数	311人

(2) 悪性新生物

	部 位	件 数 (件)		部 位	件 数 (件)
1	有棘細胞癌	42	4	パジェット病	5
2	基底細胞癌	45	5	その他	24
3	悪性黒色腫	12		計	128

(3) 良性腫瘍、熱傷、膠原病

	部 位	件 数 (件)		部 位	件 数 (件)
1	良性腫瘍	979	5	皮膚筋炎	54
2	熱傷	123	6	全身性エリテマトーデス	20
3	血管炎	41	7	シェーグレン症候群	7
4	全身性強皮症	7		計	1,231

泌尿器科

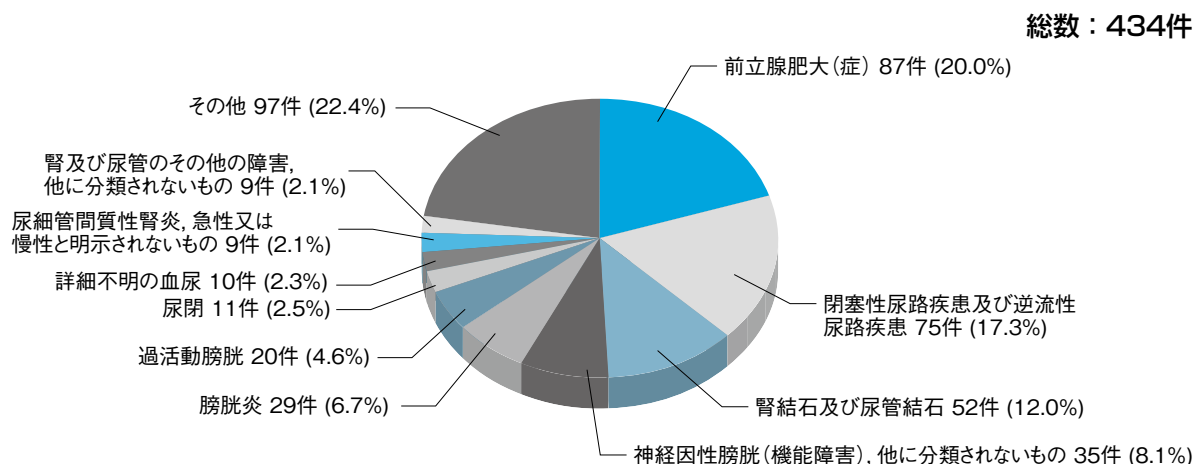
1. 概要

2018年、東三河地区における当院への一極集中状況に大きな変化はなく、相変わらず忙しい日々を送っている。泌尿器悪性腫瘍に対する低侵襲手術は小切開手術、腹腔鏡手術を中心に相変わらず月単位の手術待機をお願いする状況である。ロボット支援手術は、前立腺癌手術の標準手術の地位を確立、腎癌に対する腎部分切除、膀胱癌に対する膀胱全摘術も順調に症例数を伸ばし、当科における日常的な手術の一つとなった。さらに前立腺癌のより正確な診断を求めてMRI-超音波画像融合前立腺生検法が全国で11番目の先進医療として施設認可を受け、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤等の新規薬剤を含むがん化学療法の症例も増加の一途をたどるなど、泌尿器科悪性腫瘍の分野においてよりよい医療を提供する努力を続けている。良性疾患に対しては、排尿ケアチームの活動が徐々に実を結び始め、病院全体の排尿排泄管理意識の向上が見受けられる。結石に対する内視鏡治療など、一般泌尿器科診療を含め、さらなる高みを目指し続けた一年であった。

(部長 長井 辰哉)

2. 新規登録疾患

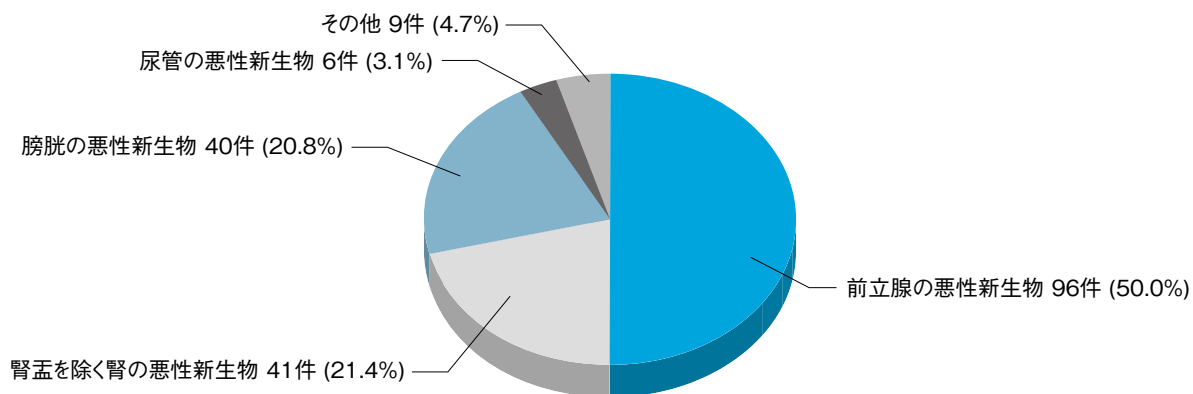
(1) 悪性新生物以外



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
前立腺肥大(症)	前立腺肥大(症)	87	N40
閉塞性尿路疾患及び逆流性 尿路疾患	腎結石性及び尿管結石性閉塞を伴う水腎症	46	N132
	その他及び詳細不明の水腎症	15	N133
腎結石及び尿管結石	尿管結石	34	N201
	腎結石	8	N200
神経因性膀胱(機能障害), 他に分類されないもの	神経因性膀胱(機能障害), 詳細不明	34	N319
膀胱炎	その他の膀胱炎	18	N308
	急性膀胱炎	7	N300
過活動膀胱	過活動膀胱	20	N328
尿閉	尿閉	11	R33
詳細不明の血尿	詳細不明の血尿	10	R31
尿細管間質性腎炎, 急性又は慢性と明示されないもの	尿細管間質性腎炎, 急性又は慢性と明示されないもの	9	N12
腎及び尿管のその他の障害, 他に分類されないもの	腎のう胞, 後天性	9	N281

(2) 悪性新生物

総数：192件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
前立腺の悪性新生物	前立腺の悪性新生物	96	C61
腎盂を除く腎の悪性新生物	腎盂を除く腎の悪性新生物	41	C64
膀胱の悪性新生物	膀胱の悪性新生物, 膀胱, 部位不明	40	C679
尿管の悪性新生物	尿管の悪性新生物	6	C66

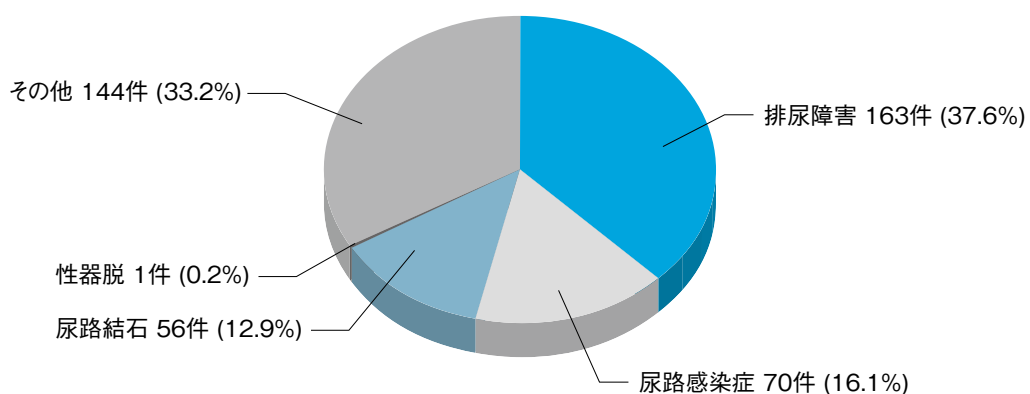
3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	26,196人	年間外来新患者数	1,717人
年間入院患者数	12,533人	年間入院新患者数	1,253人

(2) 悪性新生物以外の疾患別頻度

総数：434件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
排尿障害	前立腺肥大(症)	87	N40
	神経因性膀胱(機能障害), 詳細不明	34	N319
尿路感染症	その他の膀胱炎	18	N308
	尿細管間質性腎炎,急性又は慢性と明示されないもの	9	N12
尿路結石	尿管結石	34	N201
	腎結石	8	N200

放射線科

1. 概要

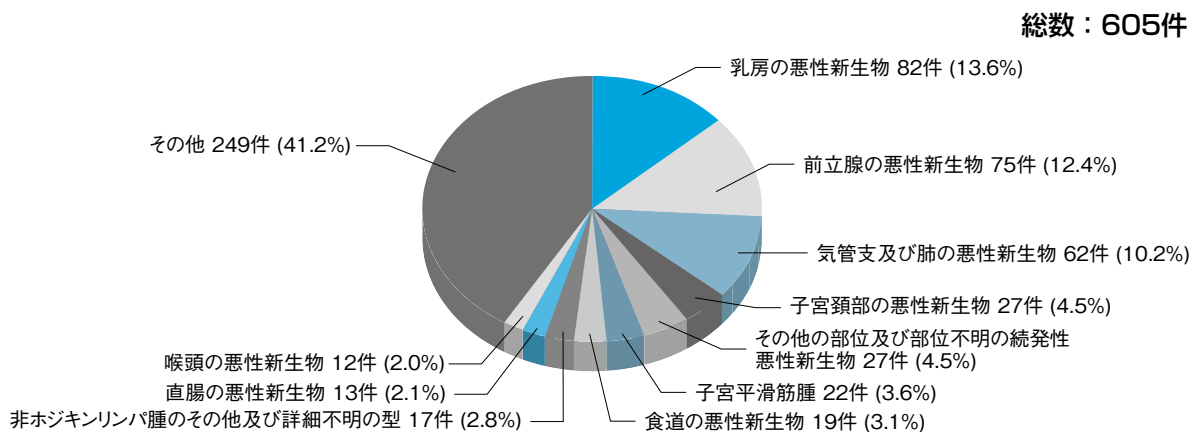
2018年1月には石原部長、高田副部長、中道医長、石口医員、山田医員の5人であったが、6月末に中道医長の異動、7月に島本医員の赴任があり、2018年12月には石原、高田、石口、山田、島本の5人で診療している。画像診断は高田、石口、島本の3人、放射線治療は石原、山田の2人が担当している。

この1年の最大のイベントは2月の読影室移転であった。スペースが広がり、診察室と隣接していることもあり、読影環境は向上している。CTが4台に増えたことなどにより、読影依頼件数も増加している。

この1年間の業務実績は、読影が34,026件（CT 23,430件、MRI 8,441件、アイソトープ 1,012件、PET-CT 1,143件）であった。その他、血管造影・IVR 114件、甲状腺機能亢進症に対するヨード内用療法6件、去勢抵抗性前立腺癌の骨転移に対する塩化ラジウム治療4件、放射線治療の新患469件であった。

（第一部長 石原 俊一）

2. 新規登録疾患



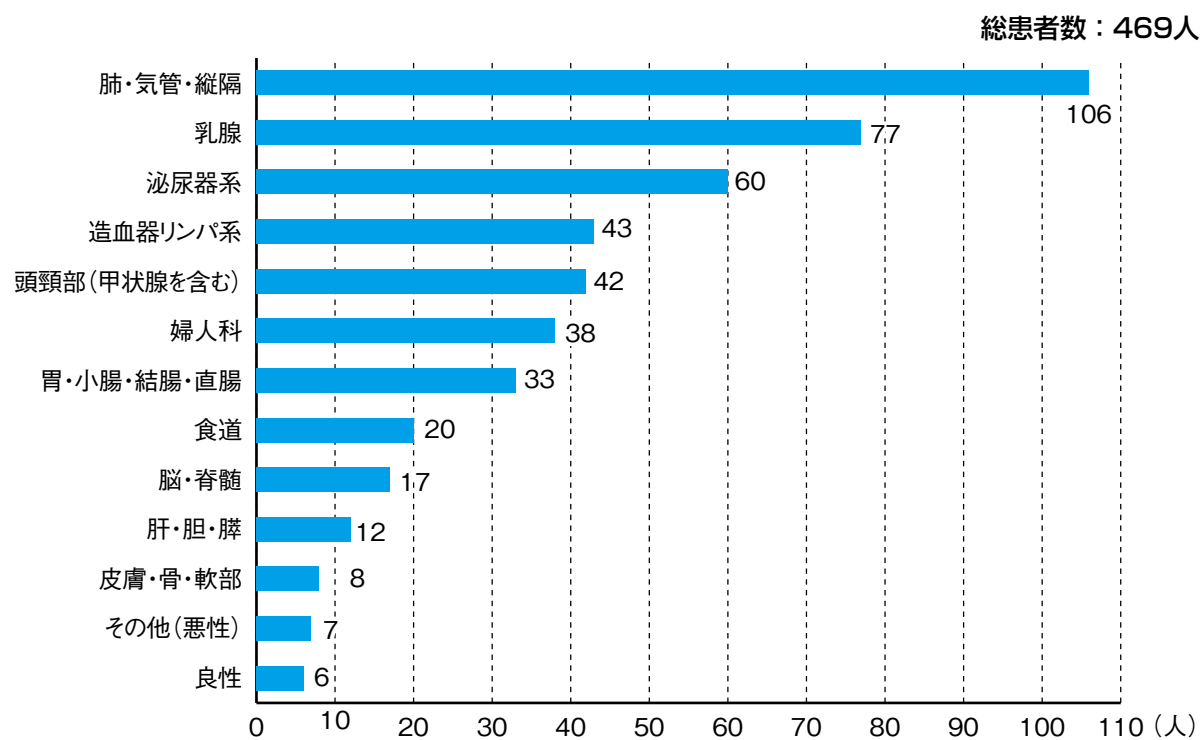
疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
乳房の悪性新生物	乳房の悪性新生物, 乳房, 部位不明	56	C509
	乳房の悪性新生物, 乳房上外側 4 分の 1	12	C504
前立腺の悪性新生物	前立腺の悪性新生物	75	C61
気管支及び肺の悪性新生物	気管支及び肺の悪性新生物, 気管支又は肺, 部位不明	29	C349
	気管支及び肺の悪性新生物, 上葉, 気管支又は肺	17	C341
子宮頸部の悪性新生物	子宮頸部の悪性新生物, 子宮頸(部), 部位不明	27	C539
その他の部位及び部位不明の続発性悪性新生物	骨及び骨髄の続発性悪性新生物	14	C795
	脳及び脳髄膜の続発性悪性新生物	12	C793
子宮平滑筋腫	子宮平滑筋腫, 部位不明	22	D259
食道の悪性新生物	食道の悪性新生物, 胸部食道	15	C151
非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型	非ホジキンリンパ腫, 詳細不明	17	C859
直腸の悪性新生物	直腸の悪性新生物	13	C20
喉頭の悪性新生物	喉頭の悪性新生物, 声門	5	C320
	喉頭の悪性新生物, 喉頭, 部位不明	4	C329

3. 活動報告

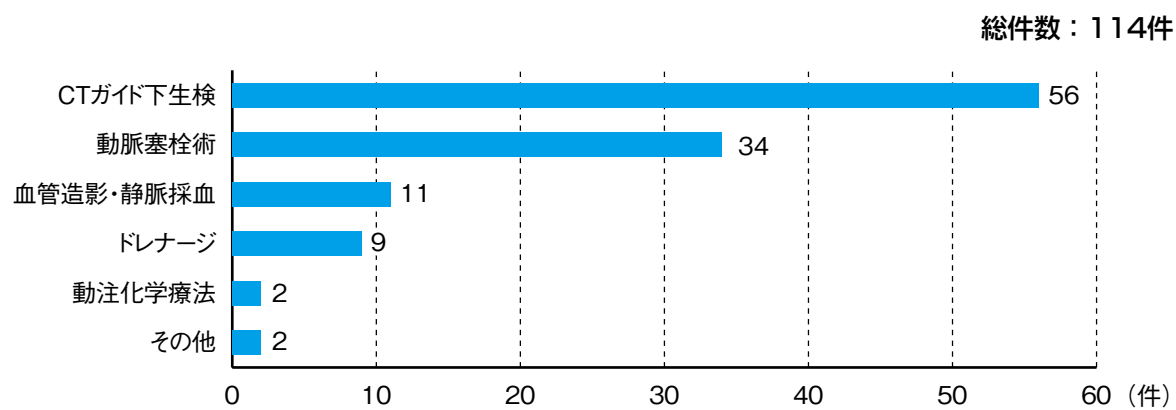
(1) 患者状況

年間外来患者数	14,994人	年間外来新患者数	766人
年間入院患者数	0人	年間入院新患者数	0人

(2) 放射線治療原発部位別患者数



(3) 血管造影・IVR手技別件数



麻酔科（ペインクリニック）

1. 概要

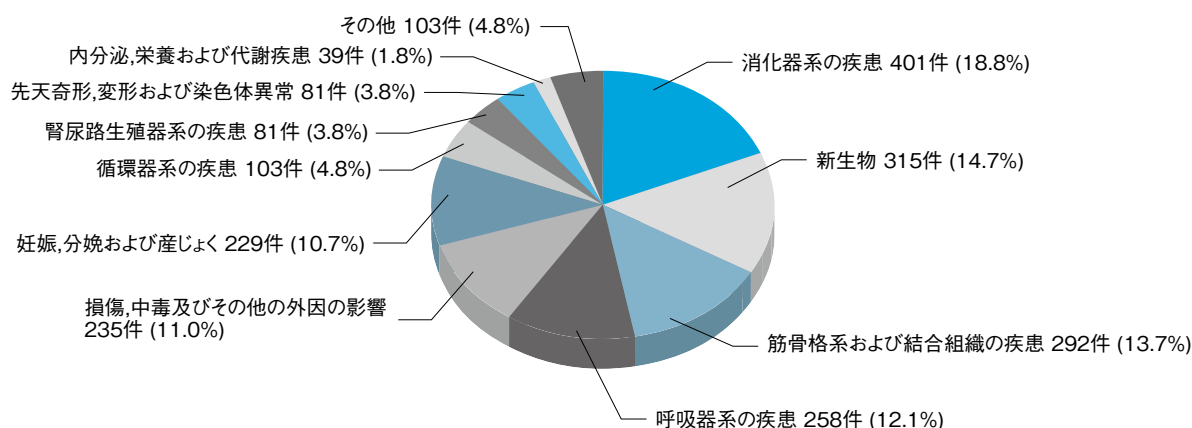
2018年には産休育休取得者が2人いたが、当院への赴任が4月1人と7月1人あり、当院研修医からも1人入局したため、麻酔科担当症例はその分増加した。年間の総手術件数は8,085件であり、全身麻酔件数は3,943件であった。麻酔科管理症例は2,782件であり、そのうち麻酔科管理の全身麻酔は2,545件であった。麻酔科管理の緊急症例は469件あった。各部屋の監視装置を新型に更新することにより、状況把握時間を短縮することができた。デスフルラン気化器が14台に増えた。新しい麻酔関連機器や薬剤を整備でき、全国的にも誇れる麻酔環境が整った。2019年には挿管困難対策機器を更新することで挿管の安全性を高める予定である。また手術室3部屋増設により、1部屋を超緊急手術用の部屋として固定できるため、手術室運営が好転することが期待される。産休育休取得者が1人いて、短時間勤務者が3人に増えるが、4月から他院から専攻医が1人入局するため、麻酔科担当症例は若干増加すると推測される。

（第一部長 寺本 友三）

2. 新規登録疾患

（1）悪性新生物以外

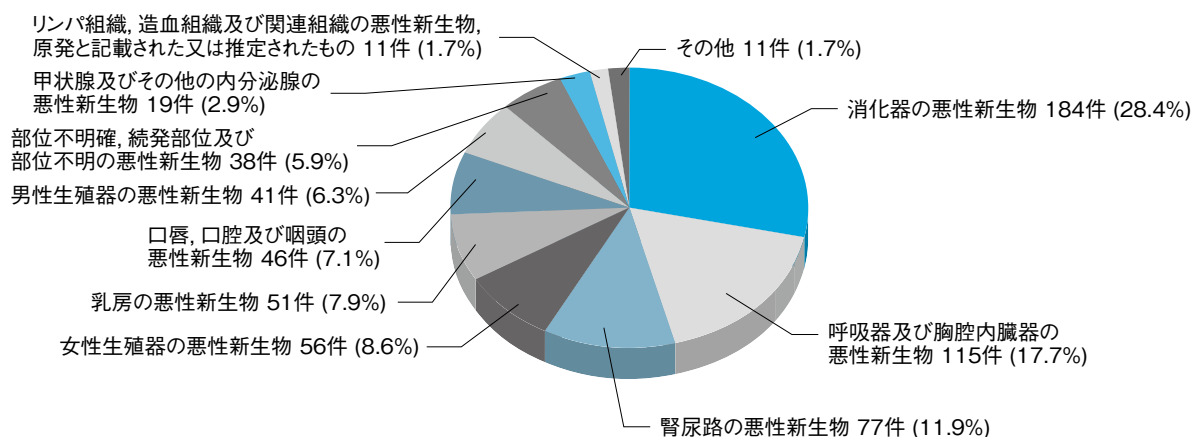
総数：2,137件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
消化器系の疾患	口腔, 唾液腺及び顎の疾患	113	K00-K14
	ヘルニア	83	K40-K46
新生物	良性新生物	167	D10-D36
	性状不詳又は不明の新生物	146	D37-D48
筋骨格系および結合組織の疾患	脊椎障害	137	M40-M54
	関節障害	129	M00-M25
呼吸器系の疾患	上気道のその他の疾患	159	J30-J39
	胸膜のその他の疾患	50	J90-J94
損傷,中毒及びその他の外因の影響	頭部損傷	38	S00-S09
	腹部, 下背部, 腰椎及び骨盤部の損傷	36	S30-S39
妊娠,分娩および産じょく	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題	100	O30-O48
	分娩	56	O80-O84
循環器系の疾患	脳血管疾患	49	I60-I69
	動脈, 細動脈及び毛細血管の疾患	23	I70-I79
腎尿路生殖器系の疾患	女性生殖器の非炎症性障害	46	N80-N98
	腎不全	11	N17-N19
先天奇形,変形および染色体異常	唇裂及び口蓋裂	27	Q35-Q37
	生殖器の先天奇形	12	Q50-Q56
内分泌,栄養および代謝疾患	その他の内分泌腺障害	25	E20-E35

(2) 悪性新生物

総数：649件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
消化器の悪性新生物	直腸の悪性新生物	33	C20
	結腸の悪性新生物, S 状結腸	30	C187
呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物	気管支及び肺の悪性新生物, 下葉, 気管支又は肺	47	C343
	気管支及び肺の悪性新生物, 上葉, 気管支又は肺	43	C341
腎尿路の悪性新生物	腎盂を除く腎の悪性新生物	33	C64
	膀胱の悪性新生物, 膀胱, 部位不明	16	C679
女性生殖器の悪性新生物	子宮体部の悪性新生物, 子宮内膜	20	C541
	卵巣の悪性新生物	16	C56
乳房の悪性新生物	乳房の悪性新生物, 乳房上外側 4 分の 1	17	C504
	乳房の悪性新生物, 乳房上内側 4 分の 1	11	C502
口唇, 口腔及び咽頭の悪性新生物	舌のその他及び部位不明の悪性新生物, 舌, 部位不明	16	C029
男性生殖器の悪性新生物	前立腺の悪性新生物	38	C61
部位不明確, 続発部位及び部位不明の悪性新生物	肺の続発性悪性新生物	17	C780
甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物	甲状腺の悪性新生物	18	C73
リンパ組織, 造血組織及び関連組織の悪性新生物, 原発と記載された又は推定されたもの	非ホジキンリンパ腫, 詳細不明	4	C859

3. 活動報告

(1) 主要備品 (2019年分も含む)

1. 患者監視装置

①Philips社製 セントラルモニタ IntelliVue インフォメーションセンタ 1式 (2017年更新)

②Philips社製IntelliVue MP 70、90 (4台)、MX700 (7台)、MX800 (8台)

2. 手術部門システム Philips社ORSYS 電子カルテと連動 (2017年更新)

術前術後診察機能、同意書作成機能、血中濃度シュミレーター付、縦型24インチタッチパネルモニタ18台、看護端末16台とデータ連係、ステータスモニタ5台、管理端末6台、Web機能によりすべての電子カルテ端末より参照可

3. 超音波診断装置

①心臓麻酔用GE社製 VividS70 1台、Vivid i 1台

②中心静脈穿刺用GE社製 Venue40 Anesthesia 1台

③神経ブロック用ソノサイト社製 S-Nerve 1台

④神経ブロック用GE社製 LOGIQ e Premium 2台

4. 静脈麻酔システム

①テルモ社製ディプリバン専用TCIポンプ 18台

②テルモ社製シリンジポンプ 94台 (架台16式)

5. 挿管支援器具

①ペンタックス社製 エアウェイスコープ 10台

②McGRATH MAC 32台 (手術室以外の主要部署にも配置)

リハビリテーション科

1. 概要

リハビリテーション科の診療は、リハビリテーションセンターと院内各病棟のベッドサイドで行っている。

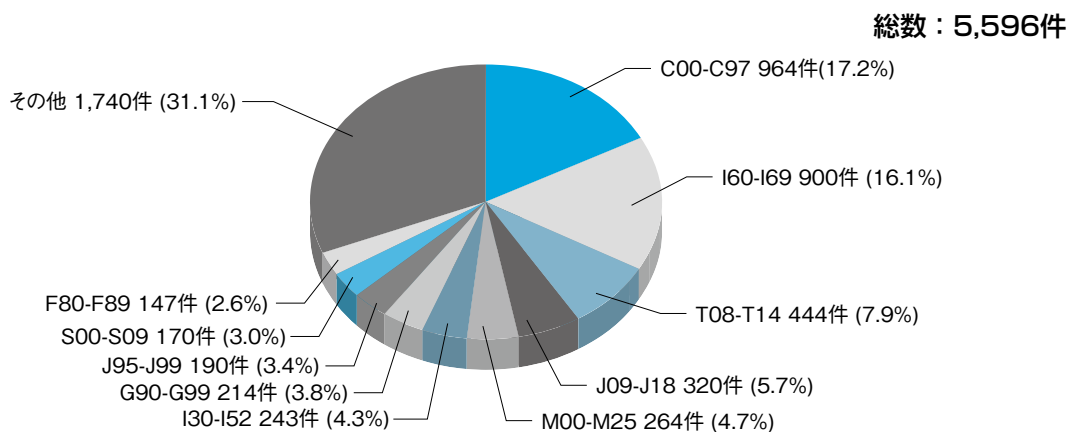
外来診療は、市内の病院・医院では行っていない小児の運動・言語発達遅滞及び神経難病が主な対象疾患である。また、当院入院中のリハビリを外来で継続する場合もある。

入院診療では、脳卒中、頭部外傷、脳神経・脊髄神経疾患の脳血管リハビリ、骨・関節の外傷や疾患への運動器リハビリ、虚血性心疾患や心不全に対する心大血管リハビリ、肺炎・慢性閉塞性肺疾患等の呼吸器リハビリ、嚥下障害への嚥下リハビリを行っている。また、がん治療の入院患者に行う、がん患者リハビリにも対応している。当院の診療は急性期リハビリが中心であり、地域連携パスを通じて回復期リハビリ病棟を持つ病院に転院できるシステムが整えられている。

2018年から一部病棟で入院患者の日常生活活動の維持・向上を目的としたリハビリを、またリンパ浮腫への新たな対応を開始した。

(部長 石川 知志)

2. 新規登録疾患



ICD-10 中間分類項目
C00-C97:悪性新生物
I60-I69:脳血管疾患
T08-T14:部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷または部位不明の損傷
J09-J18インフルエンザ及び肺炎
M00-M25:関節障害
I30-I52:その他の型の心疾患
I60-I69:脳血管疾患
J95-J99:呼吸器系のその他の疾患
S00-S09:頭部損傷
F80-F89:心理的発達の障害

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	5,681人	年間外来新患者数	18人
年間入院患者数	0人	年間入院新患者数	0人

病理診断科

1. 概要

病理診断科は生検や手術検体の病理組織診断、術中迅速診断、細胞診検査、病理解剖を行っている。また病理診断科を選択した研修医の実習・教育および臨床各科から依頼された学術報告への協力、院内カンファレンスへの参加も同時に行っている。これらの業務を常勤病理医1人と非常勤病理医6人で行った。非常勤病理医は浜松医大から3人、名古屋大学から2人、藤田医科大学から1人派遣された。

2018年の病理組織検査の依頼件数は12,608件で、そのうち術中迅速診断は520件であった。病理解剖は24件で、定期的にCPCを開催し、臨床各科を交えて、症例の診断・治療、病態・死因についての詳細な検討を行った。CPCは研修医の教育の場としても重要で、研修医が一例以上を担当し、症例の発表・報告を行った。提示症例は貴重例が多く教育的効果は大きいものがあった。さらに剖検診断結果は日本病理学会が刊行している日本病理剖検輯報に掲載され、広く医学に貢献している。

浜松医科大学と名古屋大学の6年次生の臨床実習を引き受けており、浜松医科大学から4人と名古屋大学から1人を受け入れた。

(部長 前多 松喜)

臨床検査科

1. 概要

2012年8月より臨床検査科が開設され、検体検査管理加算（Ⅰ）・（Ⅳ）算定の許可を受けている。2014年度に日本臨床検査医学会臨床検査管理医を取得した。精度が高く、かつ信頼性のある臨床検査サービスを安全に提供し、診療の質の向上に貢献することを目的としている。

精度管理充実のため、2018年も日本医師会・日本臨床衛生検査技師会・愛知県臨床検査技師会の精度管理調査に参加している。

近年、効率的な医療提供体制のために、医療機関間での検査情報の共有化が期待され、基準範囲の共用化が望まれている。このため、当院でも、2018年1月から臨床検査における共用基準範囲（JCCLS）を採用している。

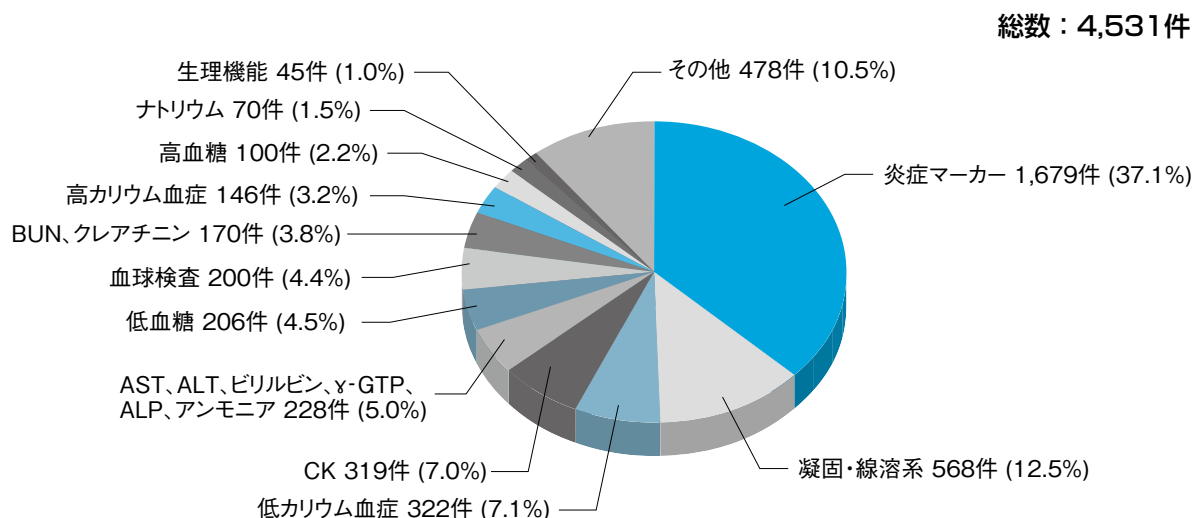
パニック値は直ちに臨床側に報告され、迅速で適切な対応に協力している。パニック値報告は前年に比べ増加した。

また、臨床検査室に特化した、品質と能力に関する国際規格であるISO15189に基づく審査を2018年に受けた。ISO15189の認定取得をした臨床検査室の検査値は国際的に通用することを意味する。

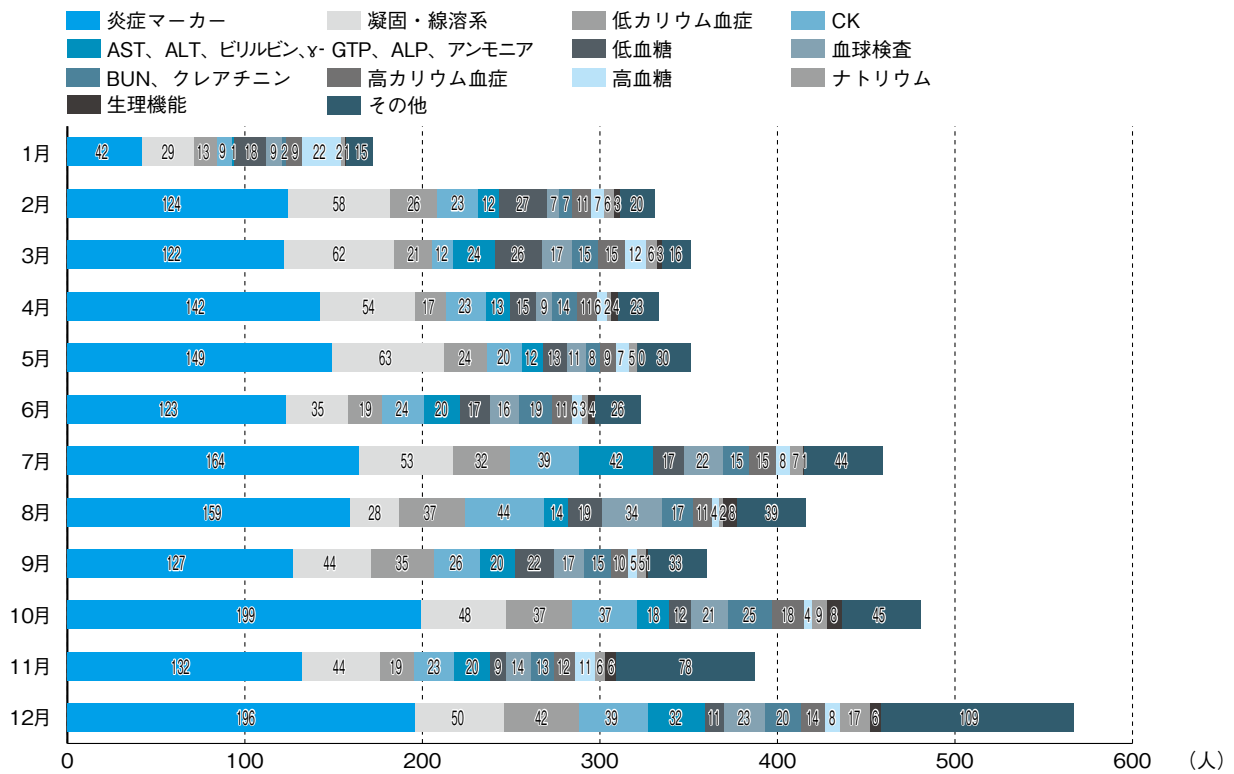
（副部長 出井 里佳）

2. 新規登録疾患

（1）パニック値頻度



(2) 月別パニック値報告



齒科口腔外科

1. 概要

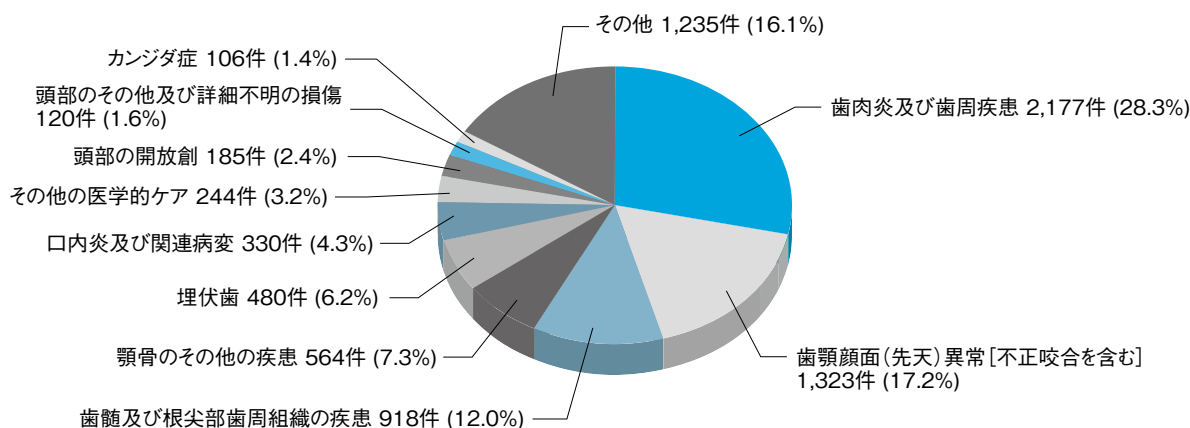
当科は地域医療支援病院の中の口腔外科としての役割を果たすため、密な病診連携の下、豊橋市内外の医科や歯科から多くの紹介をいただきながら、顎口腔領域及び歯科領域の外科治療、ならびに周術期口腔機能管理を行っている。本年度も口腔外科的疾患の各分野においてはほぼ例年通りの安定した患者数を維持している。なかでも顎顔面外傷においては、早期対応・早期治療・早期の社会復帰をモットーに関連各科との医療連携により質の高い医療を提供するよう心掛けている。また、口腔がん治療ではEBMを主軸に、根治と機能温存の両面から手術を主体とした集学的治療を提供し、さらには個々の患者の状況に合わせQOLの維持・向上を視野に入れた治療をも行ってきた。今後も継続していく予定である。歯科的分野においては、昨年にも増して院内患者の周術期口腔管理の依頼件数が増加している。平成30年の診療報酬改定でその適応範囲が大幅に拡大されたためと考えられ、今後もさらなる増加が見込まれると予想されるが、マンパワーや診療室の確保の必要性に加え、専門的な口腔管理の提供体制の見直しなど今後の課題が浮き彫りとなった一年でもあり、質の高い口腔管理の提供に向けた何らかの打開策を講じる必要があるものと思われた。まずは、周術期における口腔の合併症予防のためにも密でシームレスな医療連携を基本に、今後も進めていく予定である。

(第一部長 嘉悦 淳男)

(文責 副部長 寺沢 史譽)

2. 新規登録疾患

総数：7,682件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
歯肉炎及び歯周疾患	慢性歯周炎	2,164	K053
歯顎顔面(先天)異常[不正咬合を含む]	歯の位置異常	948	K073
	顎関節障害	361	K076
歯髓及び根尖部歯周組織の疾患	慢性根尖性歯周炎	838	K045
	歯根のう胞	41	K048
顎骨のその他の疾患	炎症性顎骨病態	556	K102
埋伏歯	埋伏歯	477	K011
口内炎及び関連病変	その他の型の口内炎	316	K121
その他の医学的ケア	その他の明示された医学的ケア	244	Z518
頭部の開放創	口唇及び口腔の開放創	146	S015
	頭部のその他の部位の開放創	29	S018
頭部のその他及び詳細不明の損傷	頭部の詳細不明の損傷	120	S099
カンジダ症	カンジダ性口内炎	106	B370

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	14,955人	年間外来新患者数	3,349人
年間入院患者数	2,671人	年間入院新患者数	494人

(2) 外来・入院症例数

①外来初診

疾患名	件数(件)
口腔歯の形態異常	1,269
口腔管理	1,111
一般歯科疾患	621
外傷	317
粘膜疾患	234
顎関節疾患	141
炎症感染症	112
嚢胞	104
良性腫瘍	85
顎顔面の形態異常	57
神経疾患	36
唾液腺疾患	27
悪性腫瘍	21
唇顎口蓋裂	20
口腔機能疾患	13
その他	1
計	4,169

②入院

疾患名	件数(件)
口腔歯の形態異常	269
悪性腫瘍	65
良性腫瘍	36
唇顎口蓋裂	30
嚢胞	28
外傷	22
炎症感染症	16
一般歯科疾患	13
顎顔面の形態異常	8
唾液腺疾患	5
粘膜疾患	3
計	495

医療安全管理室

1. 概要

2018年4月より、再任用の薬剤師1名を主査として迎え、副院長である室長を筆頭に、6人の専従職員と6人の兼務職員の計13人の組織となった。

2018年度診療報酬改定において、「医療安全対策地域連携加算」が新設され、当院も新たな加算に基づき他施設との連携・相互チェックに参加した。医療安全対策加算1を取得している施設との相互チェックでは、他施設の医療安全管理者が何を考えどのように活動しているのか、新たな情報やそのノウハウを獲得する良い機会となった。また、医療安全対策加算2を取得している施設訪問では、専任の医療安全管理者が他の業務と兼務しながら活動しており、組織体系の整備も不十分な状況を知ることができた。東三河の中核病院として、この連携を活用し、自施設の医療安全体制の強化及び、地域において安全な医療を提供できる仕組み作りの支援ができるように、今後も継続的に関わっていききたい。

(室長 河井 通泰)

(文責 副室長 宇田あゆみ)

2. 活動報告

本年度は、当院のインシデント・アクシデント報告の中で最も多い、転倒・転落発生件数を少しでも減らせないかと考えた。看護局でリンクナース制度を導入し、医療安全・感染対策に対する委員会として、新たに看護セーフティ委員会が設立された。そこで、セーフティリンクナースを活用し、転倒・転落による有害事象(アクシデントレベル2以上)の発生件数を減らす取り組みを行った。結果としては、アクシデントレベル2以上の転倒・転落発生件数は前年度110件から本年度159件と増加したが、アクシデントレベル3b以上の転倒・転落発生件数は、前年度20件から本年度10件と大幅に減少した。これは、患者観察の強化、受傷の有無の確認のための検査依頼が増え、スタッフの意識変容が報告書の増加につながったためとも考えられる。また、リンクナース会での学びを職場内で共有し、事例カンファレンスなどを実施し、発生時対応が強化された成果といえる。転倒・転落は患者側に要因がある場合が多く、発生件数を減らすことは困難だが、患者が安全に治療を受けられる環境作りを多職種と共に検討し、今後も有害事象を少しでも減らせるように活動を継続していききたい。

(1) 医療安全管理たより (20通配信)

配信日	タイトル
7月24日	転倒・転落時の対応について
9月7日	ナイス！ サポート！ ☆☆☆
10月5日	酸素ボンベの取扱いに注意
10月5日	湿布薬の使用について
10月5日	内部監査を実施しました
10月16日	平成30年医療安全に関する標語募集
10月30日	【薬剤のリスクについて】～ご質問にお答えします～
11月12日	【医療被ばく・MRI】 ご質問にお答えします No1
11月12日	【医療被ばく・MRI】 ご質問にお答えします No2
11月22日	【呼吸療法・酸素療法】～ご質問にお答えします～
11月28日	硬膜外カテーテル固定時の注意
12月10日	検査室に採血スピッツを送る時の注意
12月10日	麻薬の取り扱いに注意
12月11日	平成30年度医療安全に関する標語入賞者発表
12月26日	つり下げ式点滴スタンドが落ちました
12月26日	医療安全推進月間の取り組みありがとうございました
1月9日	薬剤ミキシング時のルールについて
1月30日	組織の凝固及び切開器具の使用時の注意
2月5日	胃管の誤挿入防止について
2月7日	電子カルテの「情報」ボタンの使用【DNR】に関する記載について

(2) 院内安全ラウンド (19回実施)

回	日付	訪問病棟等
1	5月15日	東西2階・東西3階
2	6月5日	病棟4階・東西5階
3	6月19日	東西6階・東西7階
4	7月3日	東西8階・東西9階
5	7月17日	手術センター・NMC・血液浄化センター
6	8月7日	中央臨床検査室・外来1階・外来2階
7	8月21日	薬局・放射線技術室・救急外来
8	9月4日	リハビリセンター・南病棟
9	9月18日	【内部監査】
10	10月2日	東西2階・東西3階
11	10月16日	病棟4階・東西5階
12	11月6日	東西6階・東西7階
13	11月20日	東西8階
14	11月27日	東西9階
15	12月4日	手術センター・NMC・血液浄化センター
16	12月18日	中央臨床検査室・外来1階・外来2階
17	1月15日	薬局・放射線技術室・救急外来
18	2月 5日	リハビリセンター・南病棟
19	2月19日	【フォローアップ監査】

(3) 医療安全推進月間の取り組み

本年度の医療安全重点目標である、①「あいさつと 笑顔でできる 良い病院」 ②「職種越え 声をかけ合い 安全確認」について、各部署で具体的な行動目標を立て、強化月間として取り組んだ。①については、重点目標を意識することで、日々の行動を振り返り、挨拶と共に丁寧な対応を心がけることにつながった。②については、相手の状況に合わせた伝達や連絡がまだまだ不十分であることに気づき、今後も相手に伝わる報告・連絡・相談ができるよう行動を変えていく必要がある。また多職種連携が深まってくる中で、多職種カンファレンスを通じ、患者の安全につながる活動への取り組みも充実してきている。

(4) 医療安全地域連携相互チェック

本年度は初めての試みであったため、国立病院機構の「医療安全相互チェックシート」を活用し、医療安全管理体制についてのみチェックを実施した。次年度以降は、チェック項目を検討し、相互に学び合うことで、より安全かつ質の高い医療の提供につなげたい。

日程	チェック対象病院	チェック実施病院
平成30年11月7日(水)	豊橋市民病院	豊橋医療センター
平成30年11月20日(火)	豊橋医療センター	豊橋市民病院
平成30年12月12日(水)	弥生病院	豊橋市民病院
平成30年12月19日(水)	長屋病院	豊橋市民病院

診療記録管理室

1. 概要

診療記録管理室は、カルテの点検、診療記録監査、紙カルテの貸出管理、院内がん登録を主な業務としており、カルテの点検では重点的に「入院時記録」「入院診療計画書」「退院時サマリ」の点検を行っている。

診療記録の質の向上を図るため、医師の診療記録を対象に2段階による診療記録監査を行っている。当院独自の評価基準項目による一次監査を実施し、一次監査の基準点を下回るものについては、医師やメディカルスタッフを交えた二次監査を行っている。医師及び研修医を対象に年3回実施し、結果は診療記録管理委員会に報告し、監査対象者に通知している。

紙カルテ貸出管理として、平成8年から平成22年4月分までの紙カルテを管理している。電子カルテに移行後8年経過しても、診療情報提供や症例の研究・調査、診断書作成等の理由により、貸出依頼は続いている。外来カルテの貸出依頼は昨年と変わらず年3,000件以上あり、入院カルテの貸出依頼は廃棄の影響もあり、昨年より大幅減少して年300件程度となっている。

当院は地域がん診療連携拠点病院に承認されているため、院内がん登録は重要な業務であり、2010年から年2,000件以上の症例を登録している。

今年度は診療記録管理業務に従事する職員の採用に積極的に取り組み、上位の施設基準である「診療記録管理体制加算1」を平成30年12月に取得した。

(診療記録管理室長 杉浦 勇)

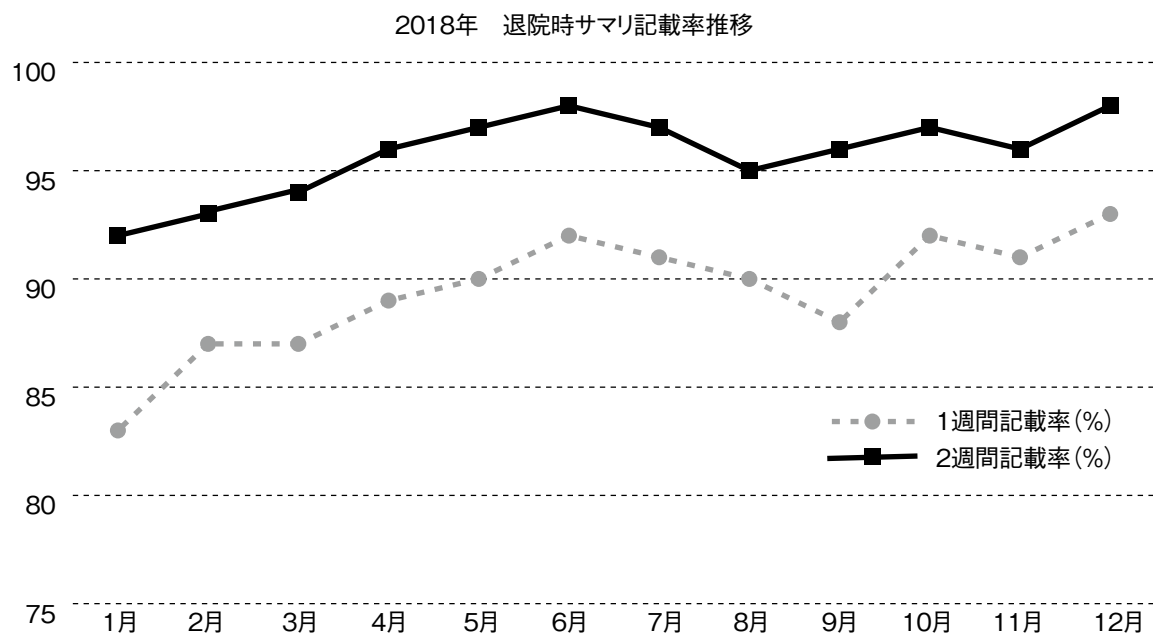
2. 活動報告

(1) 診療記録監査

(件)

		第1回		第2回		第3回	
		医師	研修医	医師	研修医	医師	研修医
平成28年度	一次監査監査対象	21	12	21	12	21	12
	二次監査監査対象	0	0	5	0	1	0
	診療記録管理委員会 <基準点60点以下報告>	0	0	4	0	1	0
平成29年度	一次監査監査対象	23	12	23	12	23	12
	二次監査監査対象	0	0	0	0	0	0
	診療記録管理委員会 <基準点60点以下報告>	0	0	0	0	0	0
平成30年度	一次監査監査対象	46	24	46	24	46	24
	二次監査監査対象	5	3	6	1	0	2
	診療記録管理委員会 <基準点70/75点以下報告>	5	0	5	0	0	2

(2) 退院時サマリ



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1週間記載率(%)	83	87	87	89	90	92	91	90	88	92	91	93
2週間記載率(%)	92	93	94	96	97	98	97	95	96	97	96	98

臨床研究管理室

1. 概要

2018年度は室長、副室長（2人）、事務（5人）の計8人で活動した。主な業務内容は以下の5つである。

- ① 臨床研究審査書類の作成補助 ② 臨床研究審査委員会の運営
- ③ 実施中の臨床研究の進捗管理 ④ 重篤な有害事象の審査 ⑤ 申請様式等の管理

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に加え、「臨床研究法」が2018年4月に施行された。法の対象となる特定臨床研究については、施行後1年間を期限として経過措置がとられることとなり、当院では12件の研究が該当した。いずれも院外のCRB(認定臨床研究審査委員会)での審査・承認を経て、当院での実施の可否についての承認通知書発行の手続きに対し、迅速に対応した。

また、臨床研究に関する教育の履修に対応した「ICR臨床研究入門（ICRweb）」について2018年度より施設契約を行い、e-ラーニングでの教育支援体制を整えた。初年度は基本コースの契約としたが、2019年度以降は全講座を対象とし、さらなる教育・研修の充実をはかる。

（室長 杉浦 勇）

2. 活動報告

(1) 書類受付実績

(件)

	新規申請		変更申請		計
	介入試験	観察研究	介入試験	観察研究	
平成28年度	16	39	6	8	69
平成29年度	10	52	11	9	82
平成30年度	5	61	8	6	80

(2) 審査委員会・研修会開催実績

(件)

名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度
臨床研究事前審査会	12	11	12
臨床研究審査委員会	6	5	6
臨床研究に関する研修会 (豊橋がん診療フォーラム内)	1	1	1

(3) 実施中の臨床研究

(件)

登録前	登録中	登録終了	観察終了	計
1	125	43	9	178

平成31年3月31日時点

感染症管理センター

1. 概要

感染症管理センターは、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・事務職員と協同し、患者と医療従事者の双方を医療関連感染から守る活動を行っている院長直属の部門である。抗菌薬適正使用支援チーム（AST）と感染対策チーム（ICT）があり、近年問題となっている薬剤耐性（AMR）対策として、ASTが抗菌薬使用状況を定期的に監視し広域抗菌薬の適正使用化をすすめた。また、抗菌薬使用ガイドライン第5版として改訂した。ICTとして、週1回定期的に院内の巡回ラウンドを行い院内感染事例の把握を行うとともに院内感染防止対策の実施状況の把握・指導を行っている。

今年度は新たに肝炎ウイルス抗原・抗体陽性患者診療実施調査を開始し新規に陽性となった患者には主治医を通して消化器内科受診を勧奨している。

（センター長 浦野 文博）

（文責 主任 伊藤 賀代子）

2. 活動報告

(1) 感染症発生動向調査

①全数報告

(件)

類型	疾患名	平成30年度	平成29年度	平成28年度
二類	結核	49	41	46
三類	コレラ	0	1	0
	腸管出血性大腸菌感染症	4	5	9
	パラチフス	0	0	0
四類	A型肝炎	2	1	0
	つつが虫病	0	0	0
	デング熱	0	1	1
	マラリア	0	0	0
	レジオネラ症	9	3	2
五類	アメーバ赤痢	0	0	0
	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)	3	1	0
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	1	2
	急性脳炎	0	3	0
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	1	0
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	1	1
	後天性免疫不全症候群	2	3	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2	1	0
	侵襲性髄膜炎感染症	0	0	0
	侵襲性肺炎球菌感染症	11	14	3
	水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る)	3	1	0
	梅毒	2	1	1
	播種性クリプトコックス症	1	2	0
	破傷風	0	1	0
	百日咳	3	0	0
	風しん	2	0	0
	麻しん	3	1	0

②小児科定点報告

(件)

	疾患名	平成30年度	平成29年度	平成28年度
週報	RSウイルス	89	135	115
	咽頭結膜熱	0	1	0
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	64	74	85
	感染性胃腸炎	903	830	787
	水痘	11	12	12
	手足口病	5	13	1
	伝染性紅斑	2	0	0
	突発性発疹	6	2	5
	百日咳	-	1	2
	ヘルパンギーナ	11	7	8
	流行性耳下腺炎	1	29	54

③基幹定点報告

(件)

	疾患名	平成30年度	平成29年度	平成28年度
週報	細菌性髄膜炎	1	4	6
	無菌性髄膜炎	1	1	1
	マイコプラズマ肺炎	0	5	17
	クラミジア肺炎	0	1	1
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	6	28	18
月報	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	133	154	137
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0	0
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	2	0

④インフルエンザ定点報告

(件)

	疾患名	平成30年度	平成29年度	平成28年度
週報	インフルエンザ	1,083	893	804

⑤インフルエンザによる入院患者報告

(件)

	疾患名	平成30年度	平成29年度	平成28年度
週報	インフルエンザ(入院患者)	139	148	116

⑥職員の感染曝露

(件)

	平成30年度	平成29年度	平成28年度
針刺し・切創(EPI-Net A)	41	60	61
皮膚・粘膜汚染(EPI-Net B)	12	11	11
院内結核曝露	7	5	1

⑦職員健康外来

(件)

	平成30年度	平成29年度	平成28年度
延べ受診者数	49	88	125

シミュレーション研修センター

1. 概要

2016年10月に開設されたシミュレーション研修センターの2018年年間利用実績は、スキルスラボ340件、セミナー室715件であった。目的別としては医師対象の主なものは、ICLS10件、CVC4件、JNTEC7件、JPTEC4件があった。看護師やその他コメディカル対象の主なものとして、新人看護師研修16件、病棟看護師補助者研修10件、起震車訓練11件、蘇生標準委員会9件等が行われた。昨年度から妊婦対象のマタニティクラス、パースクラスが月2回程度開催された。医師のみならず、看護師やその他コメディカルの勉強する場として、より一層の運営の改善と設備の充実を目指す所存である。

(センター長 富田 崇仁)

卒後臨床研修センター

1. 概要

昨年度より引き続き、様々な取り組みを実施してきた。

- ①指導体制のさらなる充実のため、昨年度より始めた指導医ミーティングだけでなく、コメディカルスタッフや看護師による指導者ミーティングを開催し、より多くの意見を集めた。
- ②愛知県産業労働センター（ウインクあいち）にて、5年生を対象とした院外病院説明会を初開催した。当院の研修制度について、より詳しく説明する機会を作った。
- ③医師臨床研修マッチングでは1人の定員割れをしたが、ただちに二次募集を行い、定員を満たすことができた。歯科医師臨床研修マッチングはフルマッチとなった。
- ④2年次研修医対象の医療講座を開催した。「保健所業務について」「保険診療について」「地域医療について」の3講座を開催することで、医療制度について学ぶ機会を設けた。
- ⑤働き方改革に向けて研修医の業務管理を徹底し、長時間労働を防いだ。
- ⑥救急外来での時間外分CTオーダーについて、診療情報を入力するように指導し、内容をセンター会議で確認することにした。

2019年度は、2020年度より臨床研修制度が見直しとなるため、整備を行っていく。

- ① ガイドラインに沿った研修プログラムの作成
- ② 一般外来研修の研修方法
- ③ 新エポックの導入

（センター長 杉浦 勇）

2.活動報告

(1) 定期委員会

平成30年7月～平成31年3月	研修管理委員会	*全3回
平成30年5月～平成31年2月	研修委員会	*全3回
平成30年5月～平成31年1月	研修医ミーティング	*全4回

(2) 行事

平成30年4月～9月	救急医学講座 *全21講座
平成30年5月5日	東海北陸地区臨床研修病院合同説明会(レジナビ) *当院ブース来場者 186人
平成30年5月11日、18日	2年次研修医対象 医療講座 (保健所業務・地域医療・保険診療)
平成30年7月8日	医学生向け 病院説明会(院内) *参加者 27人
平成30年8月25日～27日	平成31年度採用初期臨床研修医採用試験 *受験者数 医科 36人 歯科 6人 *マッチング数 医科 17人 歯科 1人 (フルマッチ)
平成30年9月28日	指導医ミーティング開催 *参加指導医数 23人
平成30年9月29日	医学生向け 院外病院説明会 *参加者 14人
平成30年10月22日～23日	平成31年度採用初期臨床研修医2次募集採用試験 *受験者数 医科 4人 *採用者数 医科 1人
平成31年1月25日	基本的臨床能力評価試験 *受験者数 1年次14人、2年次10人
平成31年2月15日	指導者ミーティング *参加指導者数 36人
平成31年3月29日	平成29年卒初期臨床研修修了 *進路 院内 医科 11人、歯科 1人 院外 医科 5人

専門医研修センター

1. 概要

2017年度に後期臨床研修センターが発足し、各種申請等の準備を行い、2018年度に新専門医制度の開始に合わせて専門医研修センターに発展した。当院は基本19領域のうち、内科、外科、小児科、産婦人科の4領域で基幹施設として認定を受けており、その他領域では連携施設となっている。様々な病院と連携することで、高次機能病院での稀な症例をはじめ、地域病院での高齢者医療等の症例も学ぶことができ、多彩で偏りのない充実した研修が可能となっている。

当センターは、新専門医制度での専門研修がスムーズに進むように基幹の各4領域と連携を取りながら、指導者による多職種評価や内科では J-OSLER（Web 評価システム）、小児科では臨床研修手帳などの評価ツールにおいて、専攻医の進捗状況を把握し専門医取得の手助けをしていく。

また、日本専門医機構認定共通講習を開催し、院内開催の医療倫理・感染対策・医療安全の必修講習でも受講証明書を発行可能とした。

（センター長 浦野 文博）

2. 活動報告

(1) 定期委員会

平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月	内科専門研修プログラム管理委員会	全 2 回
	外科専門研修プログラム管理委員会	全 1 回
	小児科専門研修プログラム管理委員会	全 2 回

(2) 行事

平成 30 年 10 月 22 日～11 月 21 日	平成 31 年度 4 月採用専攻医 （専門研修プログラム）募集	
平成 30 年 11 月 25 日・29 日	平成 31 年度採用専攻医採用試験 基幹 4 領域	受験者数 11 人 採用者数 11 人
	JMECC 開催	受講者数 6 人
平成 30 年 12 月 1 日		

豊橋市民病院が基幹施設となる専門領域

領域	連携施設	募集人数	プログラム
内科	愛知厚生連渥美病院 豊橋医療センター 岡崎市民病院 刈谷豊田総合病院 名古屋大学医学部附属病院 新城市民病院(特別連携)	12 人	豊橋市民病院内科専門研修プログラム
外科	JA静岡厚生連遠州病院 中東遠総合医療センター JA静岡厚生連静岡厚生病院 静岡済生会総合病院 愛知厚生連安城更生病院 名古屋大学医学部附属病院 愛知医科大学病院	6 人	豊橋市民病院外科専門研修プログラム
小児科	名古屋市立大学病院 あいち小児保健医療総合センター 豊川市民病院 蒲郡市民病院 愛知厚生連渥美病院 【関連施設】 豊橋医療センター 新城市民病院 豊橋市こども発達センター 豊橋市保健所保健センター 豊橋市休日夜間急病診療所	5 人	豊橋市民病院小児科研修医(専攻医)プログラム
産婦人科	名古屋第二赤十字病院 名古屋記念病院 刈谷豊田総合病院 豊田厚生病院 名古屋掖済会病院 津島市民病院	4 人	豊橋市民病院産婦人科研修プログラム

救急外来センター

1. 概要

当院の救命救急センターは、東三河地区唯一の救命救急センターとして、1次から3次までのあらゆる救急患者に対応している。救命救急センターは、主に救急外来センターと重症例が入院する救急入院センター・集中治療センターに分かれ、24時間体制をとっている。またヘリポートを併設しているため、東三河全域より、ドクターヘリまたは防災ヘリにて重症救急患者を受け入れているのが特徴である。

救急外来センターでは、医学生、研修医、地域の救急救命士等に対して毎朝カンファレンスを行い、また月例のICLSコース（突然の心停止に対して直ちに行う処置）を開催しており、院内医療スタッフ、地域救急隊ともに、質の向上を目指している。

（センター長 鈴木 伸行）

2. 活動報告

（1）年齢区分別救急外来受診患者数

診療科	15歳未満		15歳以上65歳未満		65歳以上		計
	患者数(人)	構成比率(%)	患者数(人)	構成比率(%)	患者数(人)	構成比率(%)	
総合内科	21	1.0	1,418	69.5	602	29.5	2,041
呼吸器内科	5	0.3	626	39.9	937	59.8	1,568
消化器内科	11	0.4	1,461	51.2	1,380	48.4	2,852
循環器内科	2	0.2	362	29.6	858	70.2	1,222
腎臓内科	0	0.0	95	34.8	178	65.2	273
糖尿病・内分泌内科	0	0.0	107	45.9	126	54.1	233
神経内科	3	0.2	606	40.4	892	59.4	1,501
血液・腫瘍内科	0	0.0	51	22.3	178	77.7	229
一般外科	63	5.8	450	41.5	572	52.7	1,085
小児外科	9	90.0	1	10.0	0	0.0	10
肛門外科	0	0.0	2	50.0	2	50.0	4
呼吸器外科	11	4.9	125	55.6	89	39.6	225
心臓外科・血管外科	1	1.4	21	29.2	50	69.4	72
移植外科	0	0.0	6	26.1	17	73.9	23
整形外科	423	13.7	1,644	53.3	1,019	33.0	3,086
リウマチ科	0	0.0	4	25.0	12	75.0	16
形成外科	0	0.0	0	0.0	3	100.0	3
脳神経外科	561	29.6	611	32.2	723	38.2	1,895
小児科	4,514	97.5	115	2.5	0	0.0	4,629
産婦人科	10	0.9	1,027	92.9	69	6.2	1,106
耳鼻いんこう科	235	14.0	949	56.6	493	29.4	1,677
眼科	106	22.0	261	54.1	115	23.9	482
皮膚科	280	18.0	898	57.7	379	24.3	1,557
泌尿器科	29	2.5	535	45.9	601	51.6	1,165
歯科口腔外科	99	29.0	153	44.9	89	26.1	341
こころのケア科	0	0.0	63	86.3	10	13.7	73
アレルギー内科	0	0.0	2	100.0	0	0.0	2
計	6,383	23.3	11,593	42.4	9,394	34.3	27,370

(2) ICLS 参加人数 (受講者数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ICLS回数	第145回		第146回	第147回	第148回	第149回	第150回	第151回	第152回		第153回	第154回
開催日	4月5日		6月14日	7月12日	8月9日	9月13日	10月11日	11月8日	12月13日		2月14日	3月14日
院内(人)	18		11	8	7	8	8	8	7		8	7
院外(人)	0		0	11	6	3	3	1	8		1	2
計(人)	18		11	19	13	11	11	9	15		9	9
スタッフ(人)	9		8	10	9	7	8	9	11		10	9

(3) 三河外傷セミナー (JPTEC)

①第70回三河外傷セミナー JPTECプロバイダーコース

開催日：平成30年6月9日（土）8：30～17：00

場 所：豊橋市民病院 セミナー室・スキルスラボ（高度放射線棟2階）

責任者：豊橋市民病院 鈴木 伸行

受講者数：医師 1人（プロバイダーコース）、研修医 18人（ミニコース） 受講・修了

②事前勉強会（セミナー対策） 計3回

開催日：平成30年6月4日、5日

(4) BLS（一次救命処置）講習会

①AHA・BLSヘルスケアプロバイダーコース

開催日：平成30年5月26日（土） 10：00～17：00

受講者数：研修医 18人 受講・修了

救急入院センター

1. 概要

救急入院センターは2013年度より設置され、センター長 平松 和洋(一般外科兼任)、副センター長 中島 基晶(麻酔科兼任)、菅沼 伸一(呼吸器内科兼任)で運営し、現在に至っている。当センターはICUに隣接し、ICU適応以外の夜間・休日の救急入院患者の受け皿として機能している。基本的に各科主治医が患者の診療を行い、センターメンバーは主に本センターの管理・運営を主体として活動している。実働病床は2013年以来、継続して12床で運営してきている。2018年4月～2019年3月までの各月の推移は以下の表のごとくである。病床利用率は60～70%であった昨年度に対し、今年後は前半の4～9月までは少なく50%前後しかなかった。その後、後半少し増加したが年間通してみた場合53%と昨年の66.6%から10%以上の減少となった。現在も引き続き入院数増加に努めている。ただし、特定救命救急病床加算算定件数は2017年度1,093件であったのに対し、2018年度は1,267件と逆に増加を示した。

例年通り本センターの当直体制はセンターのメンバーだけでなく、各科部長にも委託して行い、夜間入院患者の救急処置に当たってきたが、2018年度は特に大きな問題なく経過した。

(センター長 平松 和洋)

2. 活動報告

(1) 年齢別入院患者数

診療科 区分	内科		外科		心臓血管・呼吸器外科		脳神経外科		その他		計	
	延患者数 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	構成比 (%)
80歳以上	445	31.4	106	17.8	142	27.3	191	16.5	87	17.0	971	23.1
70～79歳	424	30.0	191	32.0	173	33.3	348	30.1	106	20.7	1,242	29.6
60～69歳	224	15.8	121	20.3	111	21.3	271	23.4	91	17.8	818	19.5
50～59歳	124	8.8	68	11.4	31	6.0	168	14.5	71	13.9	462	11.0
40～49歳	80	5.7	75	12.6	32	6.2	86	7.4	41	8.0	314	7.5
30～39歳	58	4.1	17	2.9	9	1.7	36	3.1	27	5.3	147	3.5
20～29歳	35	2.5	13	2.2	21	4.0	21	1.8	42	8.2	132	3.1
10～19歳	25	1.8	4	0.7	1	0.2	13	1.1	17	3.3	60	1.4
0～9歳	0	0.0	1	0.2	0	0.0	24	2.1	30	5.9	55	1.3
計	1,415	100	596	100	520	100	1,158	100	512	100	4,201	100

(2) 病床利用率

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
営業日数 A	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
病床数 B	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
日数×病床数 C(A×B)	360	372	360	372	372	360	372	360	372	372	336	372	4,380

救急ベッド (12床)

	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1日 あたり
2017 年度	在室人数 D	272	257	219	266	244	242	220	232	242	271	214	237	2,916	8.0
	利用率 D/C	75.6%	69.1%	60.8%	71.5%	65.6%	67.2%	59.1%	64.4%	65.1%	72.8%	63.7%	63.7%	66.6%	-
	特定入院料算定 件数 E	112	100	75	109	107	98	93	78	81	89	71	80	1,093	3.0
	特定入院料算定 率 E/D	41.2%	38.9%	34.2%	41.0%	43.9%	40.5%	42.3%	33.6%	33.5%	32.8%	33.2%	33.8%	37.5%	-
2018 年度	在室人数 D	150	152	176	214	183	181	235	196	227	248	192	226	2,380	7.1
	利用率 D/C	41.7%	40.9%	48.9%	57.5%	49.2%	50.3%	63.2%	54.4%	61.0%	66.7%	57.1%	60.8%	54.3%	-
	特定入院料算定 件数 E	68	82	98	127	103	98	116	100	121	143	103	108	1,267	3.8
	特定入院料算定 率 E/D	45.3%	53.9%	55.7%	59.3%	56.3%	54.1%	49.4%	51.0%	53.3%	57.7%	53.6%	47.8%	53.2%	-

集中治療センター

1. 概要

当院は、東三河地域の急性期病院として位置付けられている。その中でも、集中治療センターは最重症患者を診ることのできる設備を有しており、地域における「最後の砦」といっても過言ではない場所であると考えている。医師を中心とした他職種間での集中したカンファレンスを積極的に行い、患者の早期回復や離床を目指し日々の診療に勤めていく所存である。

(センター長 中山 雅人)

2. 活動報告

(1) 入院患者の主病名分類

大分類	件
感染症および寄生虫症 (A00-B99)	29
新生物 (C00-D48)	509
血液および造血器の疾患ならびに免疫機構障害 (D50-D89)	0
内分泌、栄養および代謝疾患 (E00-E90)	13
精神および行動の障害 (F00-F99)	0
神経系の疾患 (G00-G99)	55
眼および付属器の疾患 (H00-H59)	0
耳および付属器の疾患 (H60-H95)	0
循環器系の疾患 (I00-I99)	449
呼吸器系の疾患 (J00-J99)	87
消化器系の疾患 (K00-K93)	112
皮膚および皮下組織の疾患 (L00-L99)	3
筋骨格系および結合組織の疾患 (M00-M99)	17
腎尿路生殖器系の疾患 (N00-N99)	24
妊娠、分娩および産褥 (O00-O99)	7
周産期に発生した病態 (P00-P96)	0
先天奇形、変形および染色体異常 (Q00-Q99)	28
症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの (R00-R99)	1
損傷、中毒およびその他の外因の影響 (S00-T98)	203
傷病および死亡の原因 (V01-Y98)	0
健康状態に影響をおよぼす要因および保険サービスの利用 (Z00-Z99)	0
計	1,537

周産期母子医療センター（母体・胎児部門）

1. 概要

愛知県より東三河初の総合周産期母子医療センターに指定されてから5年が経過した。従来から東三河の周産期の基幹病院として、多くの母体搬送や産褥搬送を受け入れてきたが、総合周産期母子医療センターに指定されてからは、さらにより良い結果になるよう小児科新生児グループの医師と協力して、診断・治療を行っている。近年の出生数減少の影響で当院でも分娩数が減少傾向ではあるが、MFICUへの入院が必要な患者さんは減っていない。また、母体搬送は平成29年度より増加傾向である。ますます当周産期母子医療センターの必要度が高まっていると言える。

超緊急帝王切開は、帝王切開決定から児娩出までの時間が30分以内と義務付けられているが、小児科医師、麻酔科医師、手術室看護師、産科病棟看護師の協力により迅速に対応でき、日勤帯夜勤帯を問わずほぼ全例で達成できている。超緊急帝王切開施行症例数は県内でもトップクラスに多い。産婦人科当直医2人体制を維持するのは大変であるが、東三河地域において市民から信頼されるよう、また高度な周産期医療を維持するためスタッフ全員で努力している。

（センター長 河井 通泰）

2. 活動報告

（1）主な症例数

	平成30年度
超緊急帝王切開	11件
うち30分以内児娩出	11件
うち他施設からの搬送	4件
母体死亡	0件
母体搬送受け入れ	207件
母体搬送応需不可	3件
母体搬送応需率	98.6%

周産期母子医療センター（新生児部門）

1. 概要

当院新生児医療センターはNICU12床を擁し、愛知県から東三河唯一の総合周産期母子医療センター（新生児部門）に指定され、東三河新生児医療の中心的役割を担っている。重症な児を遠方に搬送することは児の予後に悪影響を及ぼすことから、入院依頼を受けた児は断らないことをポリシーとし、最後の砦としての役割を果たしている。また、地域の新生児医療のレベルアップを図ることも重要な役割と考え、地域で周産期医療に携わる医師、助産師、救急隊員等を対象に、新生児蘇生法講習会や周産期医療従事者研修会を開催した。特に小児科（新生児）第二部長の杉浦崇浩は日本周産期・新生児医学会の新生児蘇生法普及事業ワーキンググループにおいて中心的な役割を果たし、国際蘇生連絡委員会（ILCOR）にも出席して議論に加わるなど、国内外で活躍している。

愛知県は昨年度公表した地域保健医療計画の中に、今後数年の間に県内のNICU病床を現在の165床から180床に増やすことを明記している。東三河に必要なNICUは15から18床と試算されており、今後の整備が望まれる。

（センター長 小山 典久）

総合生殖医療センター

1. 概要

当院で体外受精などの生殖補助医療(ART)がスタートしたのは1996年6月であり、2018年は22年目を迎えた。2007年12月タイムラプスインキュベーター (TLI)の世界初全例導入後も様々な最新医療機器と共に質の高いARTに取り組んできたが、2018年には胚画像情報を中心に74項目の特性を人工知能(AI)的分析して良好胚選択のための詳細評価を行うソフトウェアを内蔵した最新型TLIに更新した。その一方で、地域の患者さんのみを治療対象、夫婦単位の初診やART説明会参加を徹底、単胚移植、出産・育児の開始まで一貫して管理、そのための病的状態の是正など理想を目指した取り組みを2018年も実践してきた。“先進的で唯一無二の生殖医療を東三河に”を合言葉に、健全な家族形成を地域での医療で完結するという生殖周産期医療の理想を旗印として、生まれてくる子どものことを第一に考えた基本軸のしっかりした医療を実践すべく、難しいケースにも的確に対応できるよう日々研鑽を重ねている。

(センター長 安藤 寿夫)

リハビリテーションセンター

1. 概要

リハビリテーションセンターは診療部門、理学療法部門、作業療法部門、言語聴覚療法部門で構成されている。診療部門では、診察、リハビリ処方を行う。理学療法部門では、日常生活における基本的動作能力回復目的の運動療法及び呼吸器・循環器疾患に対する機能回復、術後の二次的障害予防を目指した運動療法を行う。また筋電図、重心動揺検査、筋力測定、心肺運動負荷試験等の身体機能を評価する。作業療法部門では、生活における動作の獲得、家事動作や職業への復帰目的の訓練・援助を行う。上肢の機能評価、記憶障害・注意障害・遂行機能障害等高次脳機能障害の評価、訓練にも対応する。言語聴覚療法部門では、脳血管疾患や脳の外傷、あるいは発声器官の障害により失語症や構音障害を生じた患者、言語発達の遅れや口唇口蓋裂の小児に対する言語訓練を行う。また、摂食・嚥下障害の機能回復目的の訓練・指導をしている。

(センター長 石川 知志)

2. 活動報告

(1) 利用状況

区分	平成30年度	平成29年度	平成28年度
延患者数(人)	107,073	106,823	97,411
1日平均(人)	438.8	437.8	400.9
外来開院日数	244日	244日	243日

※病院事業収支及び活動状況（報告）

血液浄化センター

1. 概要

当センターの診療内容は、一般的な透析業務（末期腎不全の透析導入、入院患者の維持透析、急性腎不全の血液浄化）のみではない。血漿交換・免疫吸着等も病態に応じて行っている。最近では、腎不全以外の膠原病・HUS/TTP・ギランバレー症候群・炎症性腸疾患等で、院内の多くの科から血液浄化の依頼が増えている。

当然、腎臓内科医だけでは業務を遂行できず、移植外科からも多大な支援を受けている。また、臨床工学技士や看護師（血液浄化センターのみならず、外来や、ICUをはじめとする病棟も）等のコメディカルの協力なくしては、当センターの運営が成り立たない事は言うまでもない。

入院透析患者は外来維持透析患者に比し膨大な医療資源を費やすことから、現状では受け入れに限界があることは認めざるを得ないが、基幹病院としてその責務を果たすべく、今後もスタッフ一同最善を尽くす所存である。

（センター長 山川 大志）

予防医療センター

1. 概要

予防医療センターでは、おもに、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、眼科、口腔外科など各科の専門医のもと、一般的な人間ドック（二日ドック、日帰りドック）を精度高く行い、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病やがんなどの悪性腫瘍の早期発見・早期介入に努めている。脳ドック、女性ドック（乳がん、子宮がん）、肺がん検診は、それぞれ脳神経外科、外科、産婦人科、呼吸器内科・放射線科の専門医と連携して行っている。さらに、PET-CT検診が放射線科専門医の協力を得て開始され、がん早期発見環境がより整備されている。

また、就職、進学、海外留学・海外出張、免許取得、施設入所時などの健康診断、被爆者健診、企業の定期健康診断、有機溶剤等健康診断、当院職員の院内健診などさまざまな健康診断を各科と連携しながら行っている。

さらに、予防医療として、インフルエンザワクチン、B型肝炎ワクチン、破傷風ワクチンをはじめとする各種ワクチンの接種を実施している。

一方、当院の患者をはじめとして、広く一般の方々が、がんなどの疾患に対する知識を深め、健康増進していく一助となることを目的に、年2回、「健康教室」を開催している。

（センター長 大橋 信治）

2. 活動報告

（1）コース別受診者数

コース名	受診者数(人)
二日ドック	70
日帰り人間ドック	2,704
脳ドック	344
肺がん検診	20
胃がん単独検診	31
女性の健康ドック	45
P E T - C T 検診	9
個人健康診断	499
予防接種	372
全国健康保険協会生活習慣病予防健診 (旧 政府管掌生活習慣病予防健診)	1,691
原爆被爆者健診	53
企業団体健診(注1)	850

注1： 企業団体契約、その他を含む

(2) 受診対象者の内訳

①二日ドック

検査項目	対象者数(人)	要精密検査対象者数(人)	精密検査受診者数(人)	要治療者数(人)
眼底	68	7	3	1
胸部X線	68	0	0	0
胃部X線	10	3	1	0
胃カメラ	57	4	1	0
腹部エコー	67	4	3	0
安静時心電図	70	2	2	0
負荷心電図	51	2	1	0
便潜血	68	4	1	1

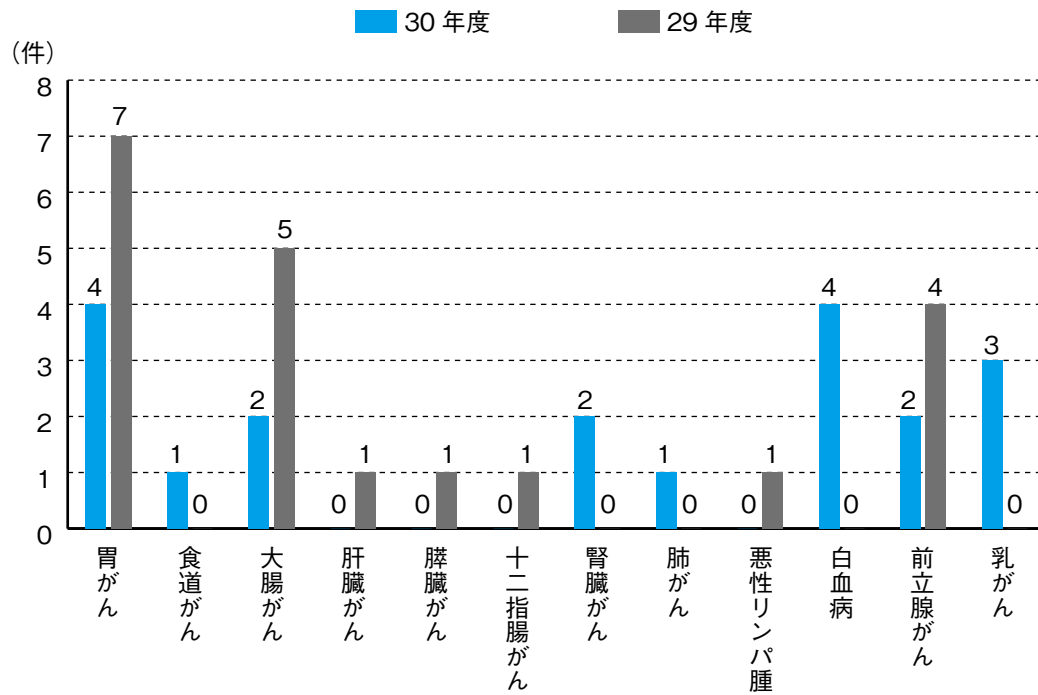
②日帰りドック

検査項目	対象者数(人)	要精密検査対象者数(人)	精密検査受診者数(人)	要治療者数(人)
眼底	2,699	179	66	10
胸部X線	2,698	44	29	2
胃部X線	1,651	205	109	21
胃カメラ	943	47	33	12
腹部エコー	2,512	113	58	11
安静時心電図	2,704	98	38	5
便潜血	2,666	133	75	32

③生活習慣病予防健診

検査項目	対象者数(人)	要精密検査対象者数(人)	精密検査受診者数(人)	要治療者数(人)
眼底	71	3	1	1
胸部X線	1,635	19	9	0
胃部X線	1,340	166	65	15
胃カメラ	184	15	11	4
腹部エコー	64	4	1	0
安静時心電図	1,640	47	4	1
便潜血	1,597	61	20	9

(3) 悪性新生物発見数



(4) メタボリック判定実施者

(人)

区分	平成30年度	平成29年度
①基準該当	873	782
②予備軍該当	692	642
③非該当	4,280	3,092

輸血・細胞治療センター

1. 概要

輸血・細胞治療センターは、年6回の輸血療法委員会の開催、年2回の輸血療法院内監査の実施を行い、院内の輸血療法が安全かつ適切に運用されるよう管理している。

2018年は、造血幹細胞および小児用の分割製剤について、日赤製剤や自己血と同様の管理・運用ができるようシステムの整備を行った。また2019年1月の新手術棟の完成にあわせて自己血採血室を新たに開設し、より快適な環境で自己血採取を行うことができるよう充実をはかった。

本年は、「輸血療法の実施に関する指針」に従い2点の運用の徹底を行う。一つは輸血・細胞治療センターから出庫するすべての血液製剤に対し、出庫時、製剤受け取り時、輸血開始時に製剤の外観チェックを行い、記録を残す。二つ目は、感染症に関する遡及調査等に対応できるよう、実施済みの血液製剤バッグを全例回収し、一定期間保管する。以上の運用を実施することで、輸血が原因と思われる感染症の予防及び発症に対して的確な対応が可能となる。今後も安心・安全な輸血療法が実施できるよう管理する。

(センター長 杉浦 勇)

2.活動報告

(1) 定期委員会

輸血療法委員会開催(2か月毎予定) *6回実施

(2) 輸血療法院内監査

輸血療法院内監査実施 *2回実施

(3) センター業務実績

①輸血関連検査件数

検査項目	総件数(件)
血液型	19,762
不規則抗体スクリーニング	14,539
交差適合試験	5,216

②血液製剤使用状況

製剤種	総単位数(単位)	前年比(%)
赤血球液(RBC)	10,410	0.93
新鮮凍結血漿(FFP)	4,038	1.16
濃厚血小板(PC)	17,080	0.82

③アルブミン（ALB）製剤使用状況

製剤種	総本数(本数)	前年比
ALB 25% 50mL	1,135	0.85
ALB 5% 250mL	765	0.99

* ALB使用単位数：7,917単位

* ALB/RBC=0.760 管理料Ⅰ算定基準：2未満

④製剤廃棄率

製剤種	廃棄率(%)	前年比
赤血球液(RBC)	0.33	0.75
新鮮凍結血漿(FFP)	0.69	0.51
濃厚血小板(PC)	0.44	1.52

⑤副作用集計報告

製剤種	副作用報告件数(件)	実患者数(人)
赤血球(RBC)	77	52
新鮮凍結血漿(FFP)	42	15
濃厚血小板(PC)	104	47

ゲノム診療センター

1. 概要

近年遺伝子解析技術の進歩に伴い、様々な分野で遺伝子検査を行う機会が増えてきた。悪性腫瘍の分野では特定の遺伝子を調べることによって治療薬の選択を行う、いわゆるコンパニオン診断が多数保険診療に導入されているが、今後は同時に多数の遺伝子を網羅的に調べるパネル検査が保険収載される見込みである。遺伝子パネル検査では体細胞変異のみならず、生殖細胞系列の変異を検出する可能性があり、その結果は患者の家族への影響も無視できない。そのため検査の前には正確な情報提供とカウンセリングが必要となる。これら遺伝医療にまつわる問題に対し、診療科横断的に対応するための部門としてゲノム診療センターが2018年4月に開設された。

2017年より周産期分野において、母体血を用いた出生前遺伝学的検査（NIPT: non-invasive prenatal genetic testing）について日本医学会の施設認定を受け2017年9月より検査を開始。2018年には45件のカウンセリングを行った。このカウンセリングの経験に基づき当院における遺伝学的検査における遺伝カウンセリング加算の施設基準を取得した。また遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）、リンチ症候群、各種家族性腫瘍の遺伝子検査を導入した。

今後のがんゲノム医療は厚生労働省が認めた「がんゲノム医療中核拠点病院」が「がんゲノム医療連携病院」と連携をとり、がんの遺伝子解析を行い、その結果をもとに最適な治療を選択することを目指している。当院は名古屋大学医学部附属病院を中核拠点とした連携病院に指定された。

（センター長 岡田 真由美）

2. 活動報告

（1）施設認定等

施設認定	認定団体
母体血を用いた出生前遺伝学的検査に関する臨床研究施設	日本医学会
遺伝性乳癌卵巣癌総合診療協力施設	一般社団法人日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構

- ・生殖医療に関する遺伝カウンセリング受入れ可能な臨床遺伝専門医
- ・がんゲノム医療連携病院
- ・遺伝カウンセリング加算

外来治療センター

1. 概要

2018年度の年間利用者の延べ数は、10,684人（うち癌治療8,892人）で、2017年度の9,625人（同7,788人）から増加し、初めて年間1万人を超えた。前年度比では延べ数で1,059人（同1,104人）、比率で11.0%（同14.2%）の増加となり、その増加分はすべて癌治療によるものであった。ここ数年の増加率は、2017年度8.3%（同5.6%）、2016年度5.7%（同6.3%）であり、加速度的に増加しており、増加分のほとんどを癌治療が占めている。1日の平均利用者数も、2017年度の39.5人から2018年度の43.8人と1日当たり4.3人の増加となった。

また、扱うレジメン数も年々増加しており、現在外来治療センターで扱うレジメン数は282となり、この1年間で25レジメン増加し（前年度比9.7%増）、扱う治療の複雑性も増している。

2018年度は、新しくがん専門薬剤師が2人誕生し、合計5人となった。これにより、患者に対する説明や、投与量や副作用チェックなどの充実が図られ、安全性の向上が得られた。

（センター長 吉原 基）

2. 活動報告

(1) 治療実績 月別集計表

月		項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
平均年齢(才)			64.5	64.5	64.6	63.9	64.7	64.9	64.2	65.3	65.4	64.6	64.8	64.1		64.6
男(人)			386	437	413	446	471	434	474	466	439	468	417	449	5,300	441.7
女(人)			460	492	427	460	478	420	509	462	397	411	424	444	5,384	448.7
がんに関する治療	内 科		314	326	323	329	340	328	383	364	340	319	301	300	3,967	330.6
	外科		261	288	253	262	301	240	293	284	247	290	287	291	3,297	274.8
	泌尿器科		22	24	30	34	41	32	29	33	28	42	46	55	416	34.7
	耳鼻いんこう科		22	16	15	16	14	22	32	25	21	22	22	33	260	21.7
	婦人科		63	75	70	67	71	59	66	58	51	53	51	58	742	61.8
	小児科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	その他		21	20	14	16	19	20	21	17	15	14	16	17	210	17.5
	小計		703	749	705	724	786	701	824	781	702	740	723	754	8,892	741.0
	初 回		67	58	78	83	81	65	70	85	61	93	66	88	895	74.6
	内 訳	乳 腺	138	159	122	124	135	109	140	109	106	122	122	120	1,506	125.5
		大 腸	93	106	102	109	135	97	106	113	90	120	120	123	1,314	109.5
		血 液	140	176	157	143	159	163	199	144	139	121	127	117	1,785	148.8
		肺	109	92	113	124	121	109	117	151	140	139	112	109	1,436	119.7
		胆 膵	49	39	35	49	41	45	59	68	54	60	64	72	635	52.9
		胃	38	39	40	40	48	43	54	58	54	46	41	49	550	45.8
		前立腺	9	9	7	10	10	6	12	8	9	12	9	8	109	9.1
		その他	127	129	129	125	137	129	137	130	110	120	128	156	1,557	129.8
がん以外の治療	内 科		41	46	35	51	44	38	43	43	35	47	29	54	506	42.2
	整形外科		0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	6	0.5
	リウマチ科		97	126	96	127	113	111	110	101	93	87	83	78	1,222	101.8
	皮膚科		5	7	4	3	6	3	6	2	6	3	5	4	54	4.5
	その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	4	0.3
	小計		143	180	135	182	163	153	159	147	134	139	118	139	1,792	149.3
合計(人)			846	929	840	906	949	854	983	928	836	879	841	893	10,684	890.3
1日平均(人)			42.3	44.2	40.0	43.1	41.2	47.4	44.7	44.2	44.0	46.2	44.2	44.6	526.1	43.8

手術センター

1. 概要

手術センターは、一人一人の患者に最良の手術が行われるよう各診療科・麻酔科医・病棟及び手術センターの看護師が連携を図っている。当センターは、地域や患者のニーズに応えるべく以下の特徴及び設備を整えている。

また、超緊急枠を設け、全科の超緊急手術に対応できるようにしている。

- ① 高度先進医療の施行
 - a 内視鏡下手術：関節鏡、耳鼻科内視鏡、腹腔鏡、胸腔鏡、膀胱鏡、神経内視鏡
 - b 移植手術：腎移植、副甲状腺移植
 - c 顕微鏡下手術：脳神経外科、耳鼻いんこう科、眼科
 - d ロボット支援下手術（ダヴィンチ）：外科、産婦人科、泌尿器科
 - e 脳死臓器提供手術
 - f ナビゲーション支援下手術：脳神経外科、耳鼻いんこう科
 - g O-arm透視下に行う脊椎等の整形外科手術
 - h 不妊症に対する産婦人科手術
- ② 総合周産期母子医療センターの要望に応じ、30分以内に開始する超緊急手術に対応
- ③ 心臓病、肺疾患、肝疾患、腎疾患等重い合併症を有するハイリスク患者手術に対応
- ④ 研修機関病院として、研修医、医学生、看護学生、救命救急士等の見学や実習
- ⑤ 手術診療科 18（内科、一般外科、小児外科、呼吸器外科、心臓外科・血管外科、移植外科、整形外科、リウマチ科、形成外科、脳神経外科、小児科、産婦人科、産婦人科（生殖医療）、耳鼻いんこう科、眼科、皮膚科、泌尿器科、歯科口腔外科）
- ⑥ 手術室 13（バイオクリーン・ルーム1室、採卵室1室）
- ⑦ 空気清浄度
 - a クラス100（1室）：整形外科で使用
 - b クラス1000（1室）：呼吸器外科、心臓外科・血管外科で使用
 - c クラス10000（11室）
- ⑧ スタッフ 看護師56人（2交代制で、夜勤者2名、自宅待機2名体制）

2018年度の主な実績としては、ロボット支援下手術（ダヴィンチ）を計173例施行した。また、外科・産婦人科・泌尿器科等で、大幅に手術数を増やした。2018年度末からは、血管撮影及びCT撮影のできるハイブリッド手術室（1室）、内視鏡手術室（2室）の稼働が始まった。

（センター長 雄山 博文）

2. 活動報告

(1) 手術件数

疾患名	件数(件)
一般外科	1,650
呼吸器外科	197
心臓血管外科	128
小児外科	127
移植外科	44
整形外科	1,445
リウマチ科	19
形成外科	1
脳神経外科	367
産婦人科	1,274
耳鼻いんこう科	444
皮膚科	90
泌尿器科	627
眼科	880
歯科口腔外科	449
生殖医療	309
内科	6
小児科	6
その他	2
計	8,065

疾患名	件数(件)
全身麻酔	4,008
静脈麻酔	181
腰椎麻酔	1,072
硬膜外+腰椎麻酔	350
局所麻酔	1,855
伝達麻酔	424
無麻酔	261
計	8,151
(うち緊急手術)	1,183
割合	14.50%

(2) 腹腔鏡・胸腔鏡・関節鏡手術件数

疾患名	件数(件)
一般外科	523
うち、ロボット支援下直腸悪性腫瘍手術	15
うち、ロボット支援下胃悪性腫瘍手術	19
呼吸器外科	63
小児外科	68
整形外科	112
産婦人科	512
うち、腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術(先進医療)	2
うち、腹腔鏡下広汎子宮頸部摘出術(先進医療)	2
うち、ロボット支援下子宮悪性腫瘍手術	25
うち、ロボット支援下腔式子宮全摘出手術	39
泌尿器科	153
うち、ロボット支援下前立腺悪性腫瘍手術	61
うち、ロボット支援下腎悪性腫瘍手術	8
うち、ロボット支援下膀胱悪性腫瘍手術	6
その他	5
計	1,436

口唇口蓋裂センター

1. 概要

当センターは唇顎口蓋裂を含む口腔先天性疾患、顎発育異常等に対する治療を担当している。豊橋市内外から多くの患者の紹介を頂いており、院内の産婦人科、小児科からの紹介も多い。

本疾患は長期の治療期間を要するため、出生してから成人するまでそれぞれの成長発育段階における様々な病態に合わせた治療を行っている。当センターでは出生直後より小児科、耳鼻咽喉科をはじめ関連他科の協力を仰ぎながら治療を行っている。また院内はもとより、市中の医科歯科関連の医療施設と密接に連携を保ちながら円滑に治療が進むよう当センターが中核となってその対応を行っている。一次症例だけでなく他院で治療を受けた二次症例でも積極的に対応しており、外来初診症例数や入院症例数は、ともにほぼ例年通りの安定した患者数を維持している。

(センター長 嘉悦 淳男)

(文責 歯科口腔外科副部長 寺沢 史誉)

2. 活動報告

①外来初診症例数

疾患名	件数(件)
唇(顎)裂	1
口蓋裂	2
唇顎口蓋裂	15
その他の唇顎口蓋裂	2
計	20

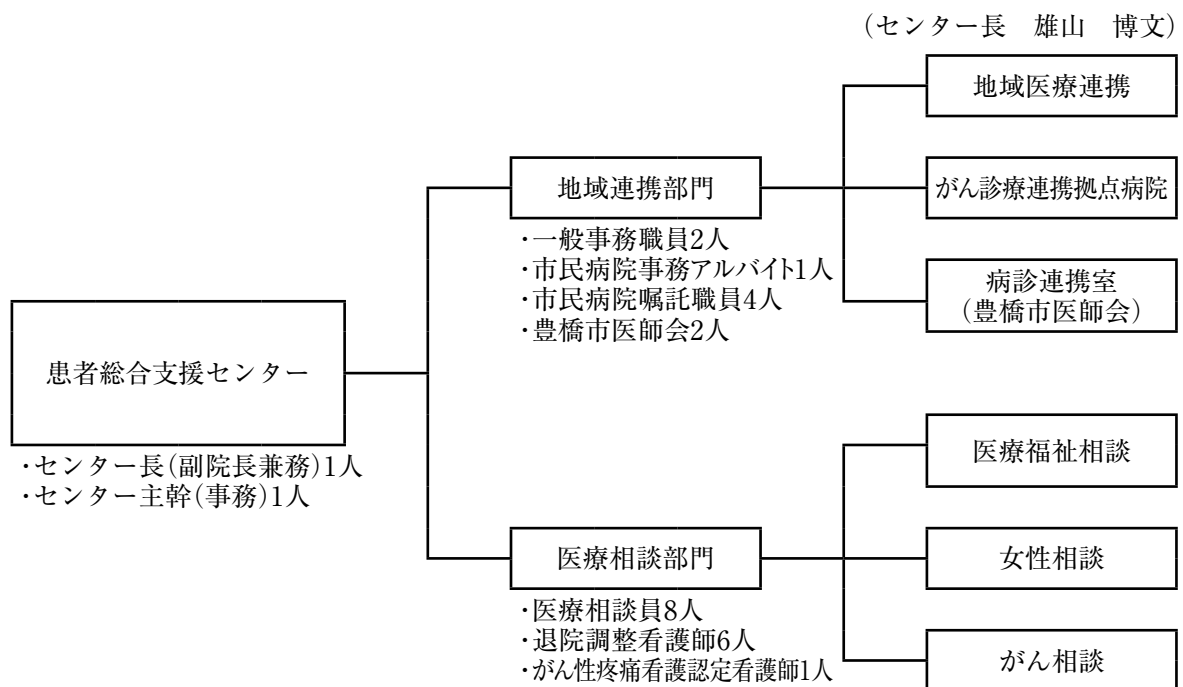
②入院症例数

疾患名	件数(件)
唇(顎)裂	7
口蓋裂	2
唇顎口蓋裂	17
その他の唇顎口蓋裂	4
計	30

患者総合支援センター

1. 概要

2010年4月1日、副院長をセンター長として開設した当センターは、地域の医療機関や介護事業者との相互連携を図り、患者に対して効率的で質のよい医療を提供する「地域連携部門」と、医療を通じて発生する種々の問題に対して、患者に安心して治療に当たってもらえるよう支援を行う「医療相談部門」で構成されている。



2. 活動報告

(1) 地域連携部門

①地域医療支援委員会

委員 29人(院外 17人、院内 12人)

第1回 平成30年 5月10日開催

第2回 平成30年 8月 9日開催

第3回 平成30年11月 1日開催

第4回 平成31年 2月14日開催

②地域連携登録医登録者数

464人(平成31年3月末現在)

③豊橋市医師会・豊橋市民病院病診連携協議会

委員 10人(豊橋市医師会 2人、豊橋市民病院 8人)

事務局 4人(豊橋市医師会 1人、豊橋市民病院 3人)

(ア)病診連携協議会

第84回病診連携協議会 平成30年 5月17日開催

(イ)MCRフォーラム

第43回MCRフォーラム 平成30年 5月30日開催

「口腔粘膜診査のコツー口腔がんの基本知識とがん予防ー」 参加人数 84人

第44回MCRフォーラム 平成30年10月31日開催

「がんの放射線治療」 参加人数 52人

(ウ)病院・転床施設連携懇談会

次年度の病診連携協議会と同日開催とする

④紹介・逆紹介実績

(ア)紹介・逆紹介率

紹介率	逆紹介率
79.8%	80.0%

(イ)病診連携室取扱実績

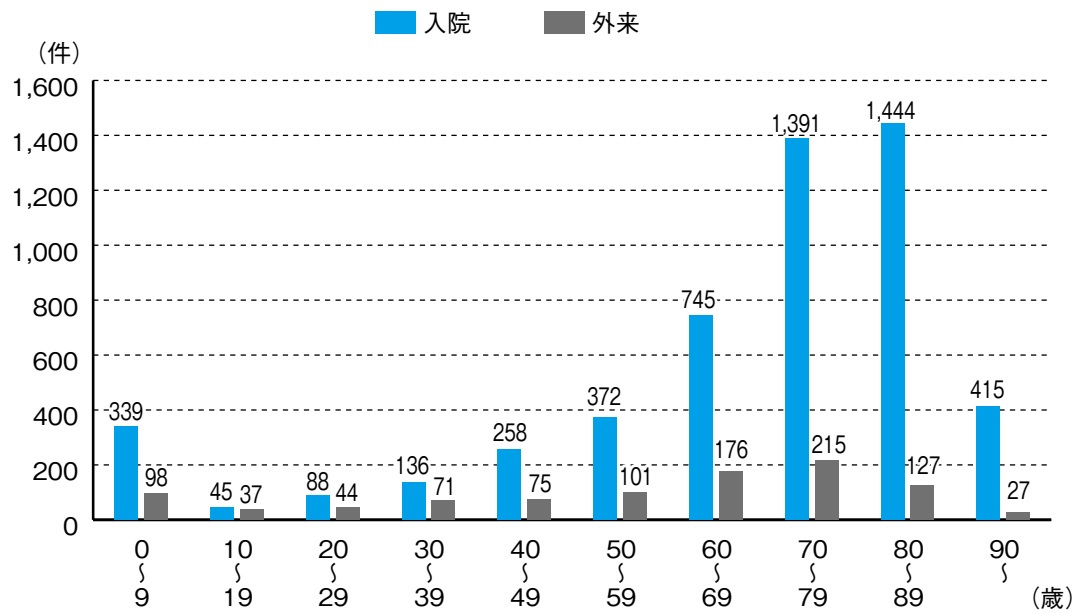
内訳			件数(件)
病診連携室経由の受診予約数	医 科	市 内	10,372
		市 外	3,163
	歯 科	市 内	1,268
		市 外	190
	保 健 所 保 健 セ ン タ ー		257
	そ の 他		57
	キ ャ ン セ ル		△ 490
	計		14,817
病診連携室経由の転院先状況	時 間 外 (再 掲)		1,021
	申 込 数		1,950
	内 訳	有 床 診 療 所	10
		病 院	1,517
		キ ャ ン セ ル	405
		転 院 予 約 中	18

(2) 医療相談部門

①医療福祉相談件数

(ア)新規相談患者数 入院 5,233件 外来 971件 合計 6,204件

年齢別新規相談患者数



(イ)延べ相談数 入院 19,285件 外来 6,900件 合計 26,185件

②女性相談件数 面接 12件 電話 21件 合計 33件

③がん相談件数 面接 242件 電話 123件 合計 365件

入退院支援センター

1. 概要

入退院支援センターは2018年4月より開設された。それまで入院支援センターが2015年より行ってきた入院前説明と、患者総合支援センター内に所属していた退院調整看護師による退院調整を統合することにより、予約入院となる患者さんが安心して入院生活を送り、退院後も地域で安心して生活するための支援をより強力に発揮できる体制となった。入院支援では一部の診療科を残し説明を拡大し、現在15科の入院説明をしている。退院支援では、医療ソーシャルワーカー（MSW）と協働して各病棟の専任退院調整員として、退院困難要因のある入院患者に対して退院支援を行っている。

入院支援、退院支援の業務は以下のとおりである。

- ①入院や手術に対して抱えている不安を少しでも軽減し、安心して入院・手術が受けられるように援助する。
- ②リスクのある患者をスクリーニングして安全に手術が受けられるようにする。
- ③退院困難要因のある入院患者に早期から介入し、その人らしい暮らしに戻れるよう支援する。
- ④入退院に関する外来・病棟の業務を軽減する。

特に2018年度より入院前からの退院困難要因のある患者へのより早期の介入を目指し、入院前に得た情報に応じて専任の退院調整看護師やMSWにつなぎ支援を展開している。

また、入院支援は主にクリニカルパスで予定入院する患者に対し入院説明を行っているが、今後は全予定入院患者への説明が行えるように業務を拡大する予定である。

（センター長 浦野 文博）

2. 活動報告

（1）業務内容

- ①入院前説明
- ②入院中の療養支援、医療福祉相談
- ③退院支援
- ④退院前訪問・退院後訪問

(2) 入院前説明患者数

①一般外科（平成27年5月11日開始）

術式	人数(人)
ヘルニア手術	150
胃手術	91
肝臓手術	32
結腸直腸手術	98
腹腔鏡下胆嚢手術	157
ダヴィンチ(腸)手術	15
乳房手術	116
乳房手術(部分切除)	54
甲状腺手術	28
虫垂切除	15
痔核・痔瘻手術	13
低侵襲手術	152
TAPP(腹腔鏡下ヘルニア手術)	22
胃スリーブ手術	2
その他(クリニカルパス外)	69
計	1,014

②歯科口腔外科（平成27年8月1日開始）

術式	人数(人)
抜歯(局麻)	61
抜歯(全麻)	10
その他(クリニカルパス外)	262
計	333

③眼科（平成27年9月1日開始）

術式	人数(人)
白内障	361
硝子体	125
緑内障	21
計	507

④耳鼻いんこう科（平成28年9月1日開始）

術式	人数(人)
扁桃切除術	31
ラリング	19
フェンスコンホ	8
ESS	68
鼓膜・鼓室形成術(ティンパノ)	9
頸部小手術	31
頸部郭清術	8
甲状腺葉峡摘出術	28
甲状腺全摘術	8
鼻(局麻手術)	3
計	213

⑤呼吸器外科（平成28年5月17日開始）

術式	人数(人)
肺切除	111
気胸・縦隔腫瘍・部切	18
計	129

⑥産婦人科（平成28年7月1日開始）

コース	人数(人)
婦人科Aコース	38
婦人科Bコース	115
婦人科Dコース	350
婦人科Eコース	56
腔式子宮全摘術(VTH)	8
子宮鏡下手術(TCR)	8
計	575

⑦泌尿器科（平成28年10月1日開始）

検査・術式	人数(人)
前立腺生検	226
TUL	108
前立腺全摘除術	8
ロボット支援前立腺全摘術	62
TUR-BT	151
TUR-P	26
体外衝撃波碎石術	2
腎摘除術	51
腎部分摘除術	31
膀胱全摘・回腸導管/尿管皮膚瘻	26
精巣腫瘍摘出術	1
その他(クリニカルパス外)	46
計	738

⑧整形外科（平成29年3月1日開始）

検査・術式	人数(人)
ミエロ1泊2日	58
ミエロ2泊3日	13
脊椎手術	99
人工股関節手術	32
その他(クリニカルパス外)	232
計	434

⑨脳神経外科（29年4月1日開始）

検査・術式	人数(人)
脳血管造影検査	55
血管内治療	38
その他(クリニカルパス外)	50
計	143

⑩小児外科（29年10月1日開始）

検査・術式	人数(人)
2泊3日	98
計	98

⑪循環器内科（30年3月1日開始）

検査・術式	人数(人)
心臓カテーテル検査(当日入院・上肢)	118
心臓カテーテル検査(当日入院・鼠径)	6
心臓カテーテル検査(前日入院・上肢)	63
心臓カテーテル検査(前日入院・鼠径)	61
ペースメーカー植え込み術	1
ペースメーカー電池交換	8
計	257

⑫血液内科（31年3月4日開始）

検査・術式	人数(人)
R-CHOP療法	2
自家末梢血幹細胞採取	0
その他(クリニカルパス外)	13
計	15

⑬消化器内科（30年8月1日開始）

検査・術式	人数(人)
胃 ESD EMR	54
腹部AG	52
計	106

⑭リウマチ科（30年8月28日開始）

検査・術式	人数(人)
ミエロ1泊2日	0
ミエロ2泊3日	0
脊椎手術	0
人工股関節手術	0
その他(クリニカルパス外)	2
計	2

⑮呼吸器内科（31年1月28日開始）

検査・術式	人数(人)
気管支鏡検査	10
CT下肺生検	14
化学療法(ショートハイドレーション)	6
計	30

入院説明総数 4591件
後日薬剤鑑定数 216件

診療技術局

診療技術局には、放射線技術室、中央臨床検査室、リハビリテーション技術室、臨床工学室、栄養管理室の5部門（7職種）で、医療関係の国家資格を有した約180人および事務職員によって構成されている。病院事業（診療・経営の質の向上）への貢献はもちろんのこと、医療技術職のステータスの向上と職種の垣根を越え、共通の方針、計画、施策の立案などにより、より効率的な運営に努めている。病院の方針の浸透と現場の意見からのボトムアップ、医療技術職の横断的意思疎通の促進がさらなる活性化につながると考えている。

また、5部門が協力し合って診療技術局が開催する勉強会を開催しており、9月に「保険診療をもっと知ろう」と題して、医事課職員により「診療報酬等について」「診療技術局に関する施設基準について」と治療とは別の切り口で勉強会を開催した。

東三河地域における当院の役割として、様々な勉強会や研修会を積極的に開催し、地域医療にも貢献している。8月には、未来のコ・メディカル育成を目的に、高校生向けの職場見学会（参加者41人）を開催した。

（局長 山口 育男）

放射線技術室

1. 概要

医療環境の変化につれて、紹介患者が初診の大半を占める地域の中核病院では、CTやMRIが画像診断の第一選択になりつつある。当院でもCT検査の増加への対応は限界を迎え、本年度はCT装置の増設となった。増設したCT装置は三河地区に初めての320列エリアディテクターCTで、心臓の動きもぶれずにとらえる能力を持つ。また、高度な手術への対応のために手術棟が新築され、一室には血管撮影、コンベームCT、ナビゲーションシステムが利用可能なハイブリッド手術室が設けられた。技術の革新が著しく、高度な医療技術の導入は日進月歩である。

一方、その技術を支えるのは1世紀以上も前に発見されたX線であることに変わりなく、近年の医療放射線被ばくの増加は社会問題になりつつあり、安全利用のための法改正や規制がこの1年で一層厳格化した。

医療放射線に関する職業人として、責任の重さを改めて感じる日々である。

(室長 三浦 俊一)

「在籍技師が取得している認定資格等」

資格	認定団体	資格	認定団体
放射線治療専門放射線技師	日本放射線治療専門放射線技師認定機構	放射線管理士	日本放射線技師会
放射線治療品質管理士	放射線治療品質管理機構	放射線機器管理士	日本放射線技師会
医学物理士	医学物理士認定機構	医療画像情報精度管理士	日本診療放射線技師会
医療情報技師	日本医療情報学会	第1種放射線取扱主任者	原子力安全技術センター・文部科学省
核医学専門技師	日本核医学専門技師認定機構	γ線透過写真撮影作業主任者	安全衛生技術試験協会・厚生労働省
核医学専門技術者	日本核医学技術学会	X線作業主任者	安全衛生技術試験協会・厚生労働省
超音波検査士(消化器)	日本超音波医学会	日本磁気共鳴専門技師	日本磁気共鳴専門技師者認定機構
超音波検査士(健診)	日本超音波医学会	血管撮影・インターベション専門診療放射線技師	血管撮影・インターベション専門診療放射線技師者認定機構
超音波検査士(体表臓器)	日本超音波医学会	臨床実習指導員	日本診療放射線技師会
乳腺甲状腺超音波診断委員会認定技師	日本乳腺甲状腺超音波診断会議	X線CT認定技師	日本X線CT専門技師認定機構
検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師	マンモグラフィ検診精度管理中央委員会	医療安全管理者	日本病院会
診療情報管理士	四病院団体協議会	小腸カプセル内視鏡読影支援技師	日本カプセル内視鏡学会

2. 活動報告

(1) 放射線技術室実績

(件)

区分		平成30年度
一般撮影	頭部	6,201
	胸部	74,788
	腹部	15,436
	四肢	49,410
	椎体	21,681
	計	167,516
	マンモグラフィ	2,247
	骨塩量測定	2,115
	ポータブル	26,200

エコー室	単純	12,843
	造影	134
	計	12,977

CT	単純	25,467
	造影	17,570
	計	43,037

MRI	単純	10,143
	造影	5,288
	計	15,431

血管撮影	心臓	555
	頭頸部	253
	胸部	108
	腹部	192
	四肢	72
	計	1,180

TV	UGI(胃)	3,200
	CG(大腸)	226
	透視下内視鏡	1,369
	透視下検査・治療	1,948
	計	6,743

RI	核医学SPECT	473
	核医学静態	165
	核医学動態	33
	核医学全身	760
	PET/CT	1,210
	計	2,641

放射線治療	体外照射	12,024
	定位照射	214
	腔内照射	41
	IMRT	938
	全身照射	19
	計	13,236

(2) 豊橋市民病院放射線技術研修会

	演題名	演者名	年月日
第1回	呼吸同期CTのコミッショニング	加藤 貴昭	平成30年6月15日
第2回	骨SPECTガイドラインの実践1ーファントム調整について	市川 肇	平成30年6月21日
第3回	当院救急科における腹部CT検査の読影補助	磯部 晃	平成30年6月29日
第4回	腹部超音波(基礎・スクリーニング)	神谷めぐみ	平成30年7月5日
第5回	面積線量計の表示値と実測値の線量を比較してみよう	山口 稔	平成30年7月6日
第6回	コニカFPDの物理評価①	澤根 康祐	平成30年7月20日
第7回	胃透視基準撮影法2の説明	西川 宗範	平成30年7月26日
第8回	画質の磁場強度依存性について –MRI初心者向け–	喜多 和真	平成30年8月3日
第9回	当院救急科における腹部CT検査の読影補助	磯部 晃	平成30年11月22日
第10回	患者線量検証におけるQAツールの紹介と実測	加藤 貴昭	平成30年11月27日
第11回	骨SPECTガイドラインの実践1	市川 肇	平成30年12月6日
第12回	胃透視基準撮影法2の説明	西川 宗範	平成30年12月10日
第13回	腹部超音波(基礎・スクリーニング)	神谷めぐみ	平成30年12月20日
第14回	IVR基準点での計測準備をしてみよう	山口 稔	平成31年1月11日
第15回	コニカFPDの物理評価①	澤根 康祐	平成31年1月18日
第16回	画質の磁場強度依存性について –MRI初心者向け–	喜多 和真	平成31年1月25日

中央臨床検査室

1. 概要

2019年3月、愛知県内市立病院としては初となる「ISO15189:臨床検査における国際規格」を取得した。「ISO15189認定」とは、臨床検査室が品質と能力に関する特定要求事項に、技術専門委員会ISO/TC212が作成した国際規格に準拠していることを示しており、このことは検査室から患者へ質の高い検査結果を提供できるといういわゆる「お墨付き」をいただいたことになる。取得に際しては、2017年10月から準備に入り、約18か月間を要したが、パート職員を含む全職員が一丸となって取り組んだ成果であると考えている。

また、2018年度より「病棟・外来採血室」担当主査を配置し、病棟における検査項目説明や外来採血室における採血技術の向上、待ち時間短縮に注力し、一定の効果が出てきたと感じている。

また「認定輸血検査技師」などの新しい資格取得にも積極的に取り組み、現在多数の資格取得者が在籍（下表）しており、臨床に貢献していると考ええる。

（室長 山口 育男）

「在籍技師が取得している主な認定資格」

認定資格名称	認定団体及び学会	認定資格名称	認定団体及び学会
認定血液検査技師	日本検査血液学会	認定心電検査技師	日本心電学会
骨髓検査技師	日本検査血液学会	緊急臨床検査士	日本臨床検査医学会
認定臨床微生物検査技師	日本臨床微生物学会	栄養サポートチーム専門療法士	日本静脈経腸栄養学会
感染制御認定臨床微生物検査技師	日本臨床微生物学会	遺伝子分析科学認定士	日本臨床検査医学会
細胞検査士	日本臨床細胞学会	体外受精コーディネーター	日本不妊カウンセリング学会
認定病理検査技師	日本臨床衛生検査技師会	認定臨床エンブリオロジスト	日本臨床エンブリオロジスト学会
超音波検査士（循環器領域）	日本超音波医学会	生殖補助医療胚培養士	日本卵子学会
超音波検査士（健診領域）	日本超音波医学会	糖尿病療養指導士	日本糖尿病療養指導士認定機構
超音波検査士（消化器領域）	日本超音波医学会	認定サイトメトリー技術者	日本サイトメトリー技術者認定協議会
超音波検査士（血管領域）	日本超音波医学会	認定認知症領域検査技師	日本認知症予防学会
超音波検査士（体表臓器領域）	日本超音波医学会	認定輸血検査技師	認定輸血検査技師制度協議会

2. 活動報告

(1) 検査実施件数

(件)

区 分	平成30年度	平成29年度	平成28年度
院内検査実施件数	5,655,630	5,454,275	5,247,731
委託検査件数	117,680	104,670	118,759
検査判断料件数	422,646	411,691	405,306
輸血管理料1	2,584	2,671	2,613
外来迅速検体検査加算件数	265,918	261,096	243,243
病理診断管理加算	15,681	15,218	14,954
検体検査管理料加算 I 件数	112,017	110,068	109,639
入院時初回加算件数	13,066	12,592	11,850
時間外緊急院内検査加算件数	12,417	12,404	12,365
採血加算件数	107,495	111,227	111,572

(2) 検査判断料件数

(件)

区 分		平成30年度	平成29年度	平成28年度
尿・糞便等検査判断料	外来	18,339	17,456	17,765
	入院	3,560	3,722	3,602
血液学の検査判断料	外来	98,935	96,167	95,070
	入院	18,026	17,828	17,084
生化学の検査(Ⅰ)判断料	外来	98,680	95,747	94,479
	入院	18,151	17,914	17,088
生化学の検査(Ⅱ)判断料	外来	25,242	24,691	24,190
	入院	4,623	5,014	4,404
免疫学の検査判断料	外来	75,616	73,357	72,529
	入院	16,912	16,684	15,883
微生物学の検査判断料	外来	11,428	11,155	11,942
	入院	7,779	7,710	7,436
病理学の検査判断料	外来	2,179	2,084	1,916
	入院	36	25	20
呼吸機能検査等判断料	外来	4,161	3,642	3,535
	入院	772	736	594
脳波検査判断料	外来	983	986	1,088
	入院	1,267	1,267	1,324
神経・筋検査判断料	外来	369	363	404
	入院	183	192	237
組織診断料	外来	6,132	6,019	6,057
	入院	4,905	4,755	4,573
細胞診断料	外来	3,032	2,914	2,888
	入院	1,336	1,263	1,198

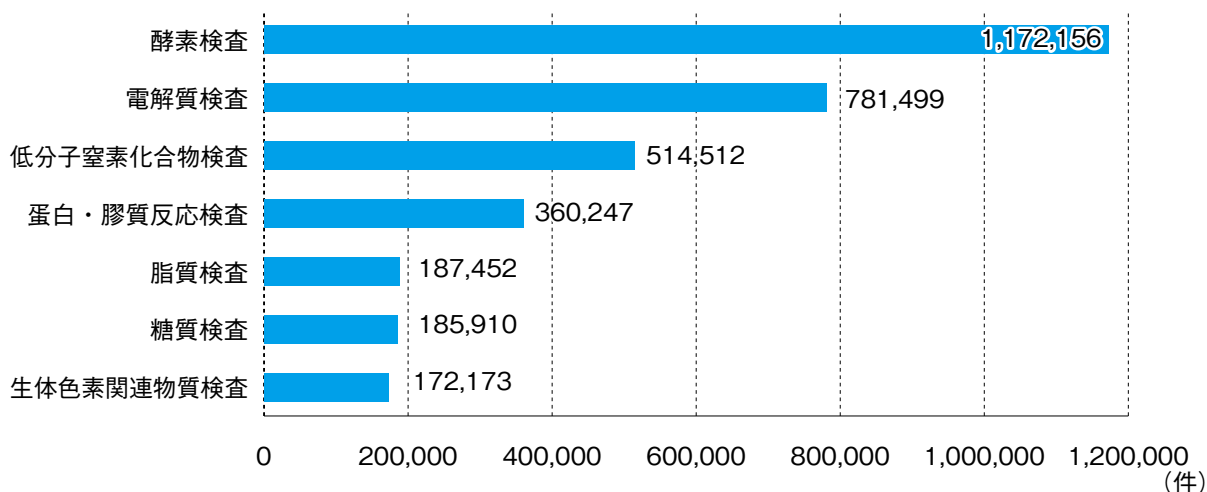
(3) 部門別実績

(件)

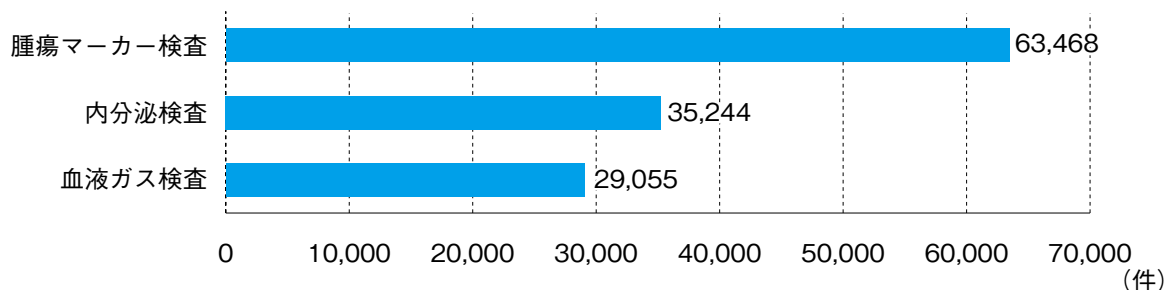
区 分	平成30年度	平成29年度	平成28年度
尿・糞便等検査	112,794	108,229	115,966
血液学的検査	934,102	915,799	728,383
生化学的検査	3,973,743	3,814,042	3,791,583
免疫学的検査	392,705	379,397	377,506
微生物学的検査	92,766	93,368	92,579
輸血関連検査	60,188	55,857	55,389
生理機能学的検査	63,881	62,712	61,866
病理学的検査	24,599	23,922	23,223
生殖医療学的検査	852	949	1,236
計	5,655,630	5,454,275	5,247,731
差(増加分)	201,355	206,544	△48,726
前年比	103.7%	103.9%	99.1%

(4) 生物化学分析検査

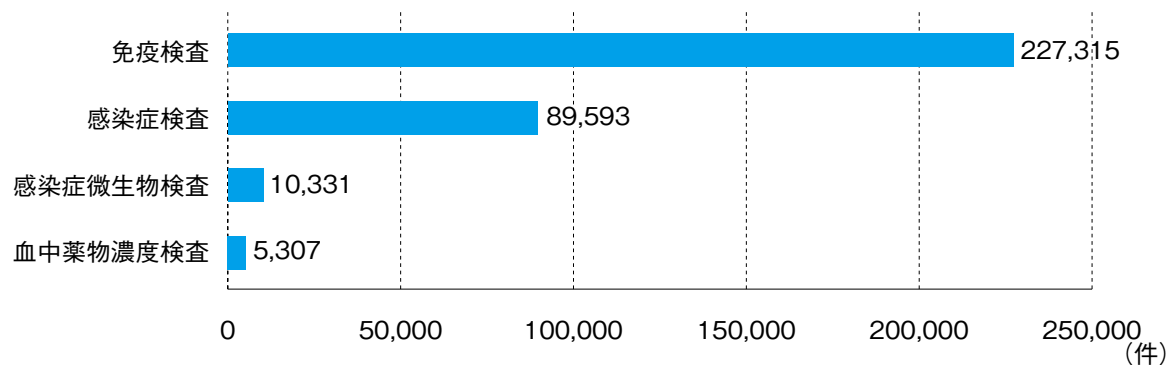
①生化学検査（Ⅰ）検査実績



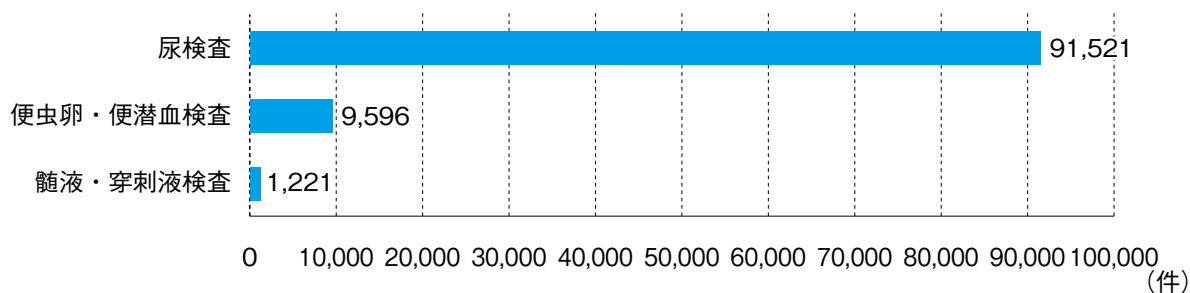
②生化学検査（Ⅱ）・血液ガス検査実績



③免疫学的・薬物検査実績



④一般検査実績



⑤患者検査説明業務実績

区 分	(件)		
	平成30年度	平成29年度	平成28年度
患者検査説明業務	963	1,030	1,087

患者説明業務とは、蓄尿、糖負荷検査（OGTT）、生理検査などの検査方法を患者に対して説明する業務である。

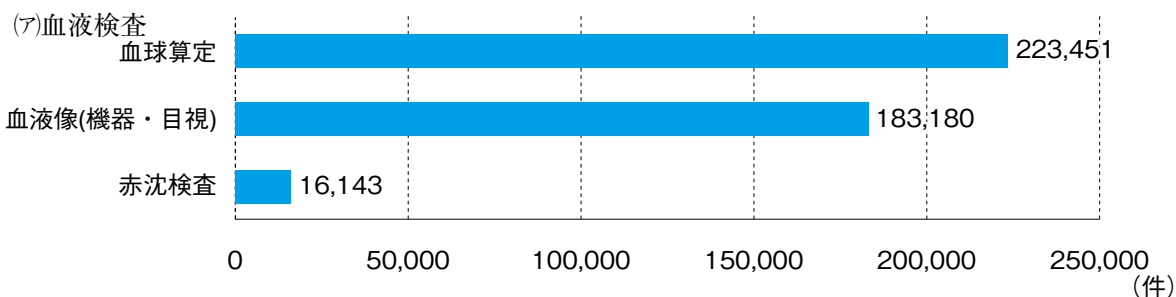
●説明検査項目

尿検査など：蓄尿・酸性蓄尿・糖負荷検査OGTT・クレアチニークリアランス・早朝尿

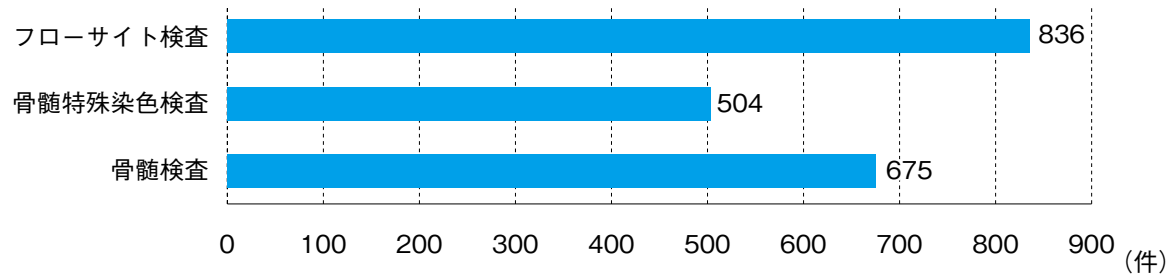
生理検査：超音波検査・ホルター心電図・トレッドミル・24時間血圧測定・負荷サーモグラフィー・

吸入誘発試験・脳波・聴性脳幹反応・終夜睡眠ポリグラフィー

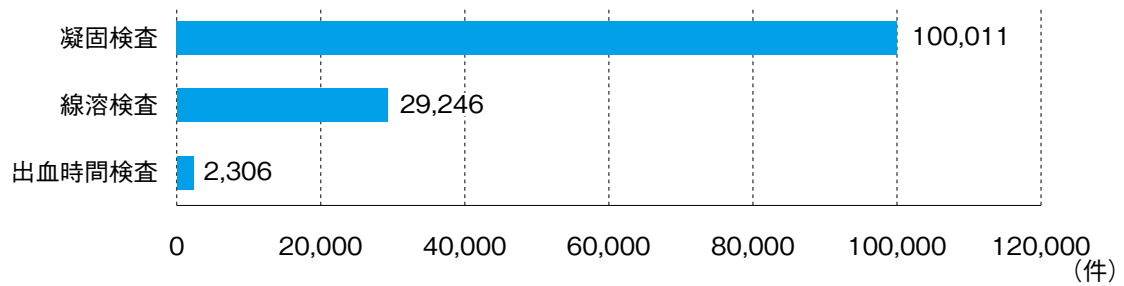
⑥血液学的検査実績



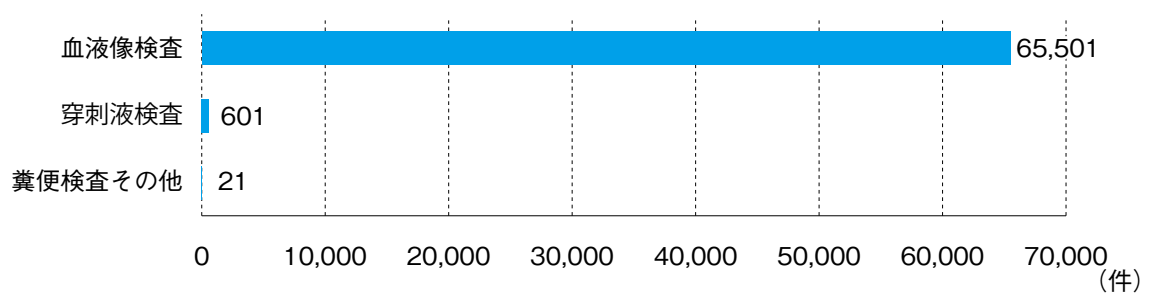
(イ)骨髄検査



(ウ)凝固・線溶検査



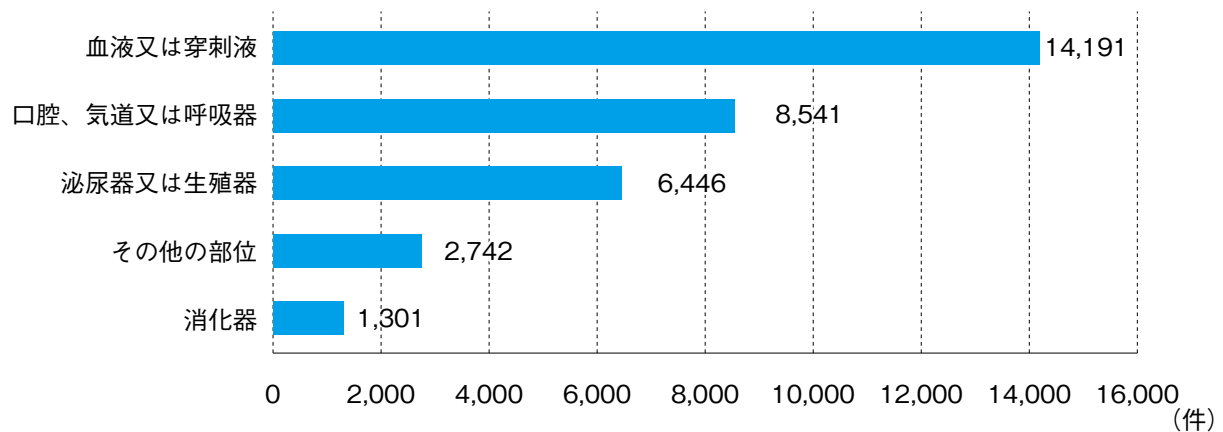
⑦顕微鏡検査実績



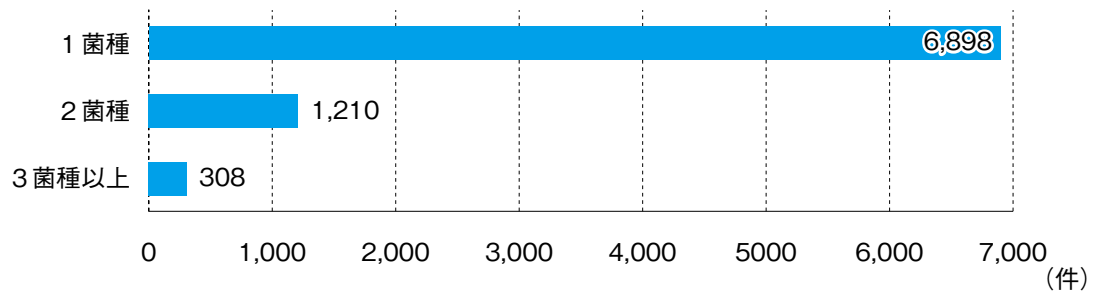
(5) 微生物・感染制御検査

①一般細菌

(ア)培養同定検査実績

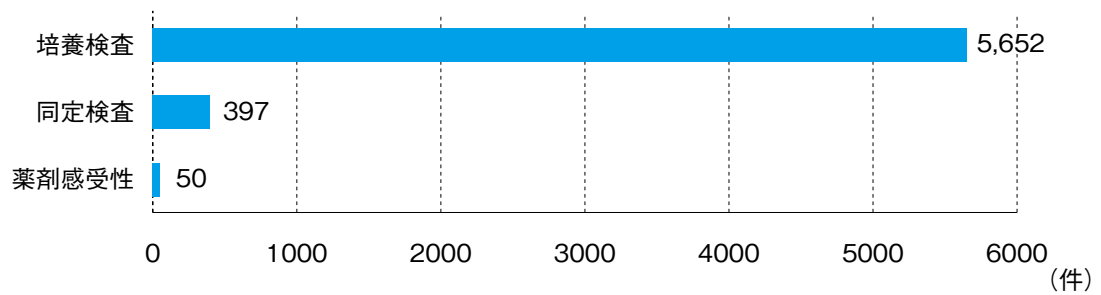


(イ)薬剤感受性検査実績

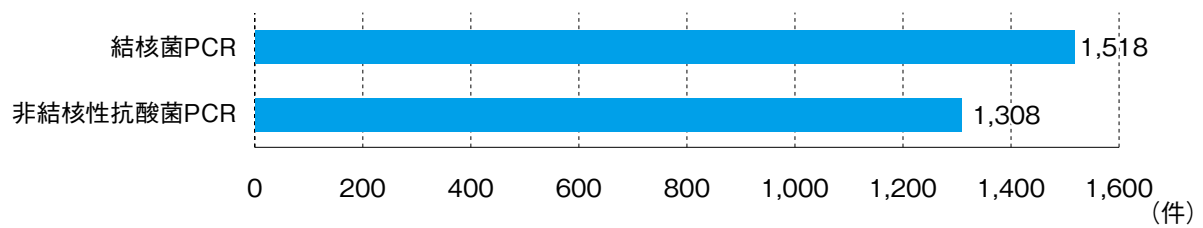


②抗酸菌

(ア)培養同定検査実績

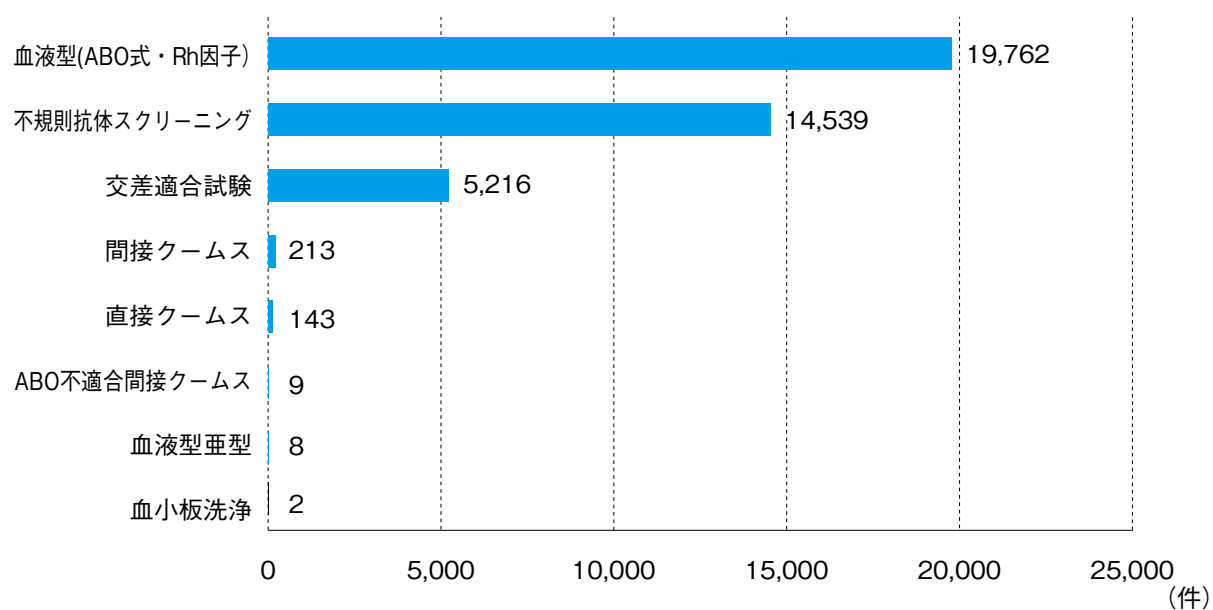


(イ)遺伝子検査（PCR）実績

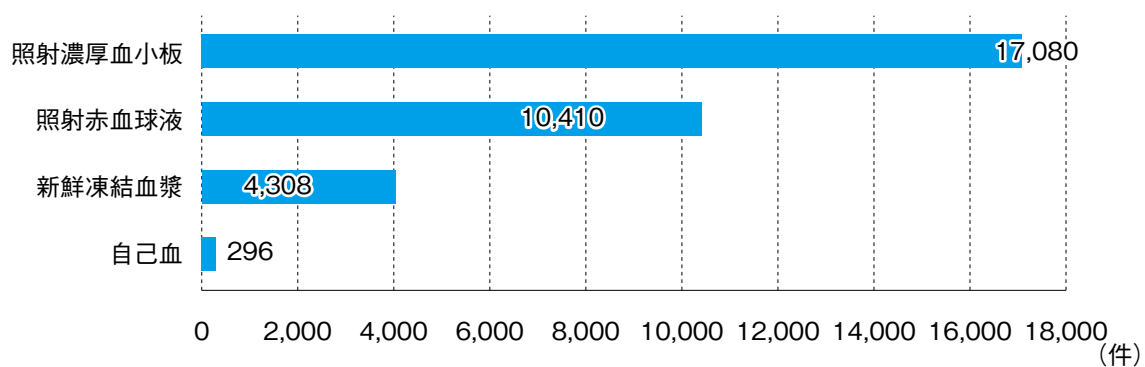


(6) 輸血移植・救命救急検査

① 輸血関連検査実績



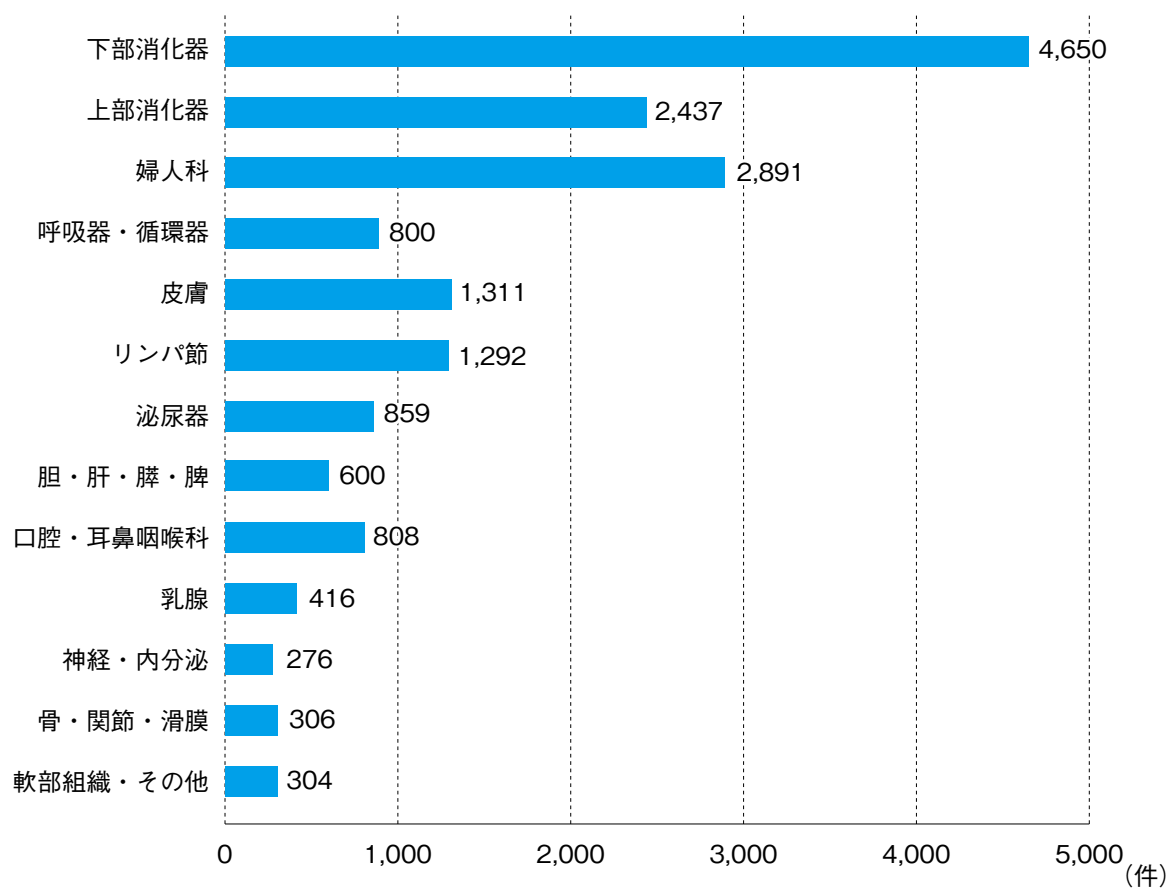
② 血液製剤使用状況



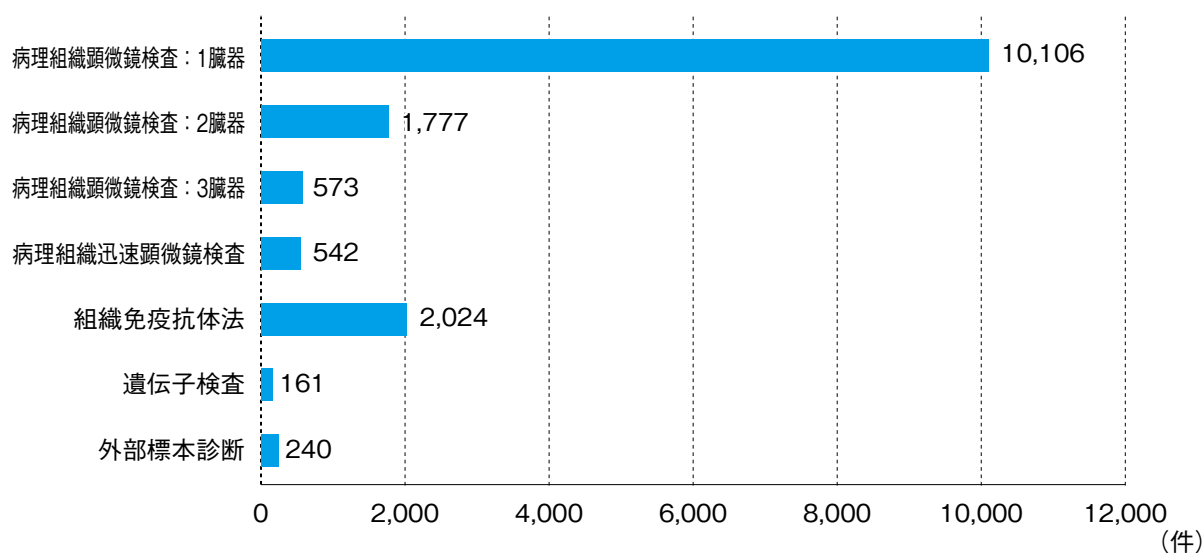
(7) 病理・細胞形態検査

①病理学的・細胞診検査実績

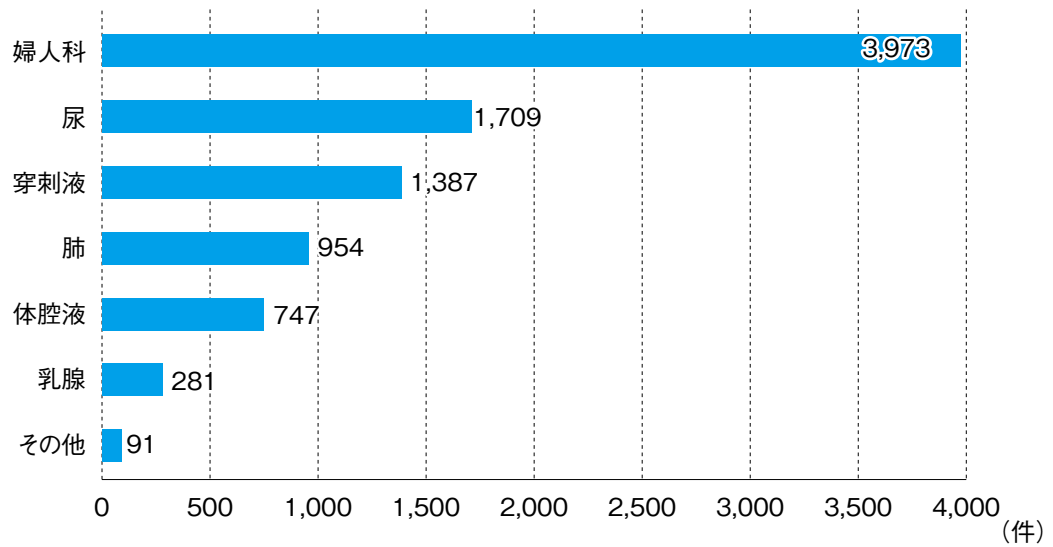
(ア)病理組織検査材料別件数



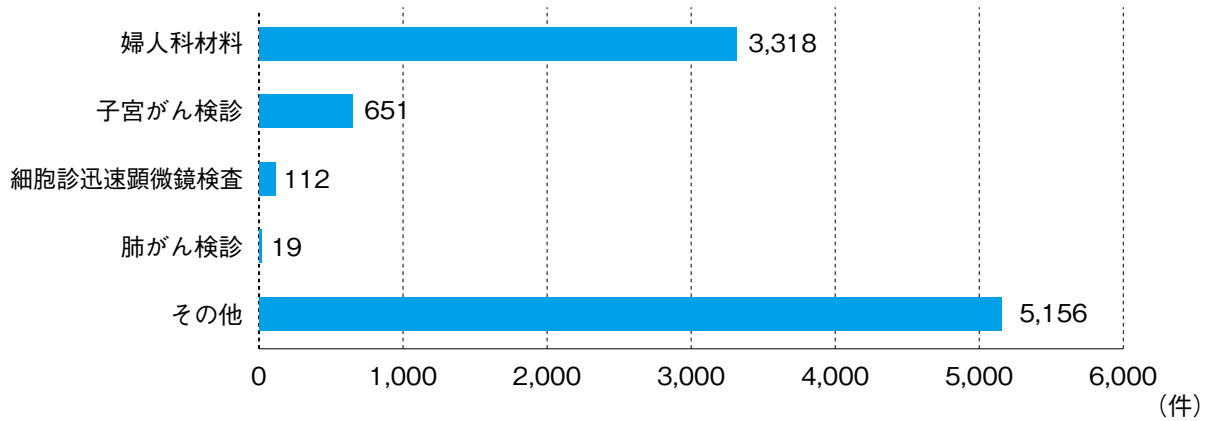
(イ)病理組織検査件数



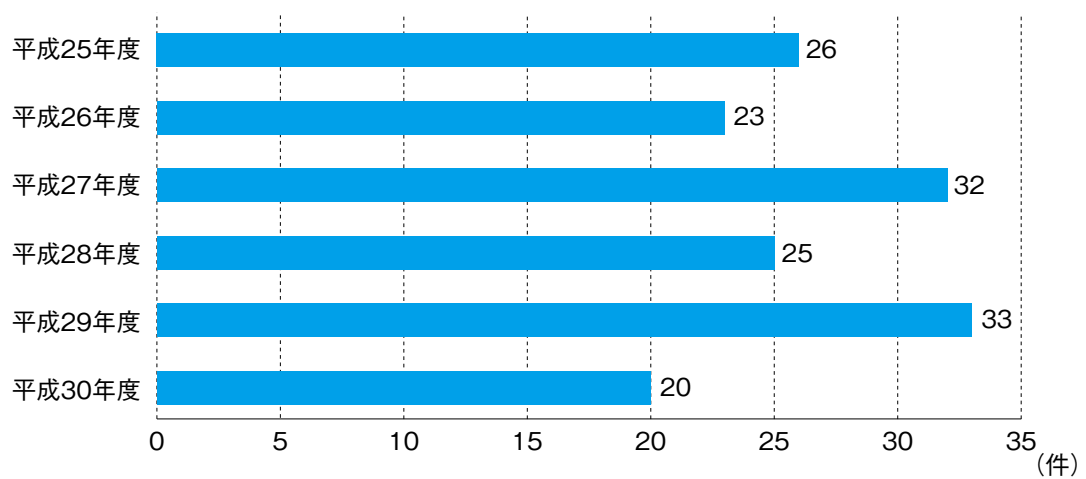
(ウ)細胞診検査材料別件数



(エ)細胞診検査件数



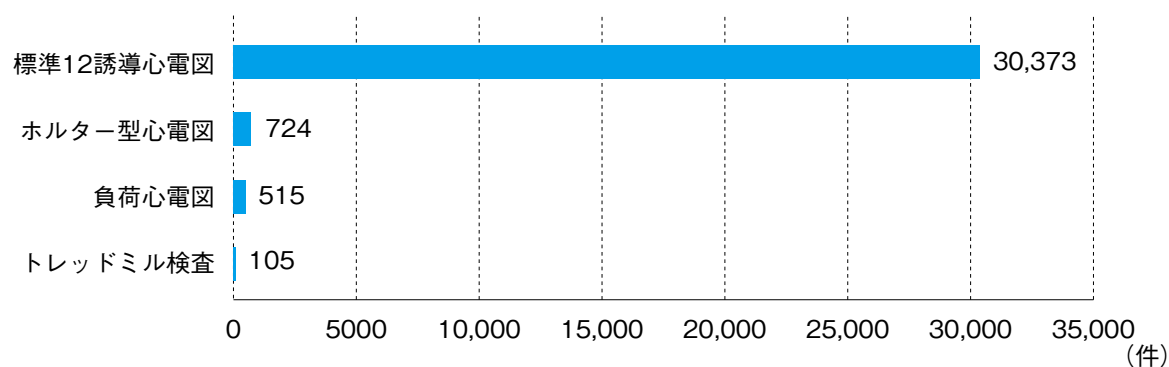
②病理解剖件数



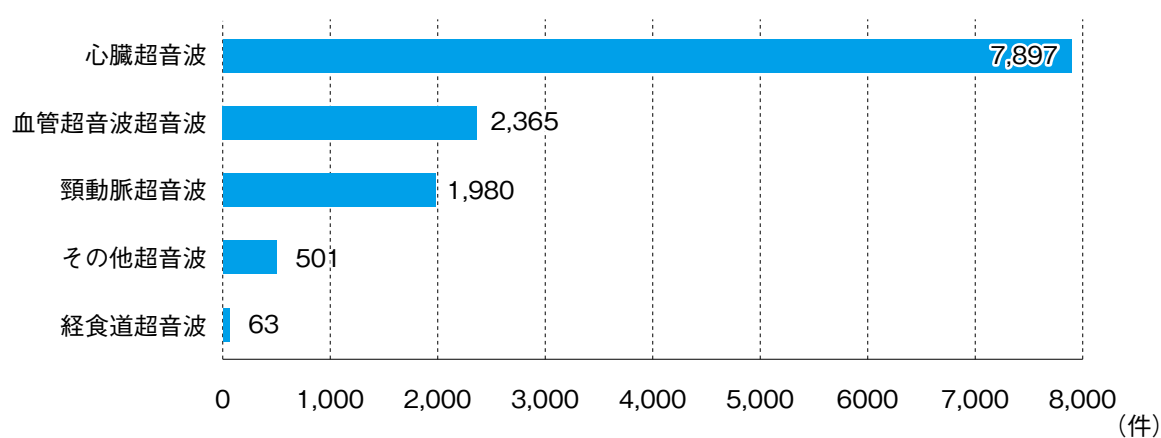
(8) 生理機能・生殖医療検査

① 病理学的・細胞診検査実績

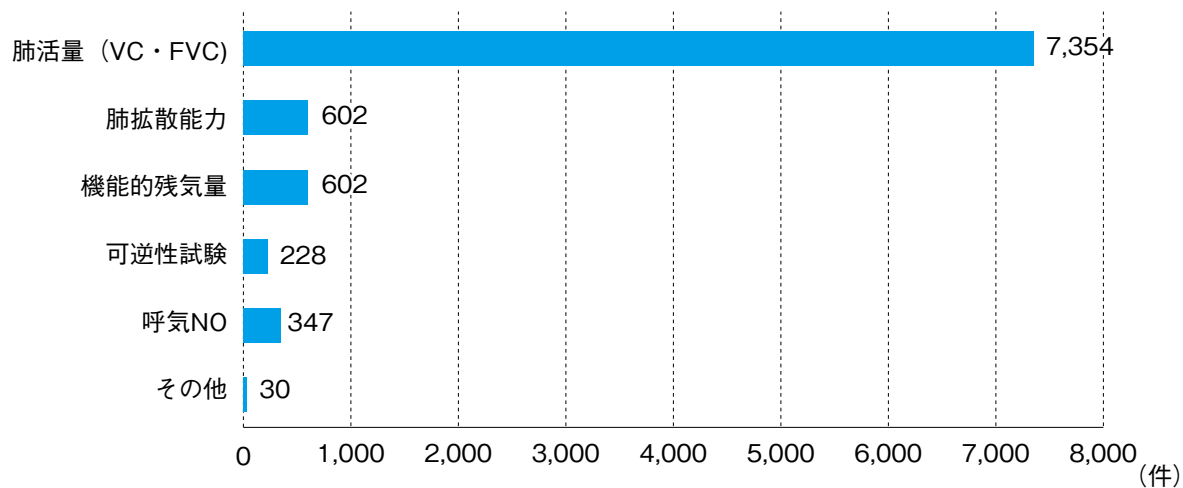
(ア) 心電図検査実績



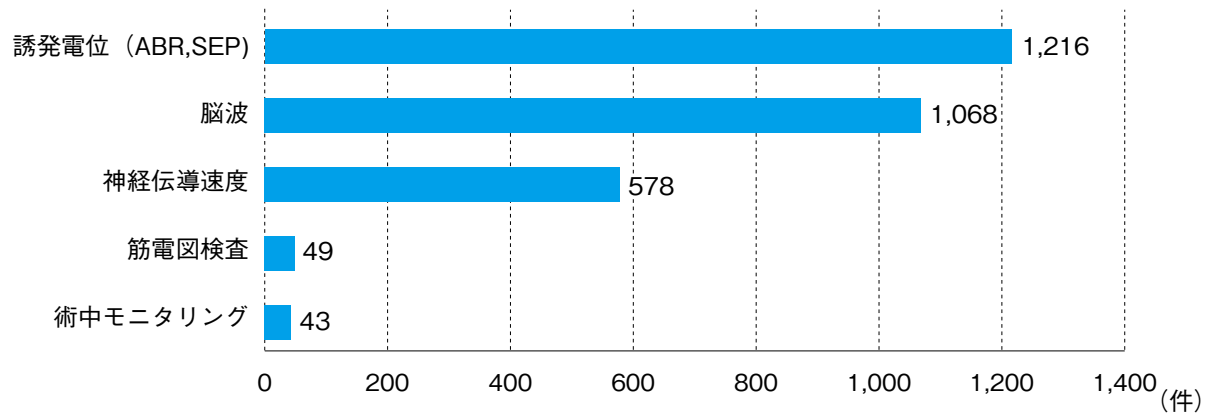
(イ) 超音波検査実績



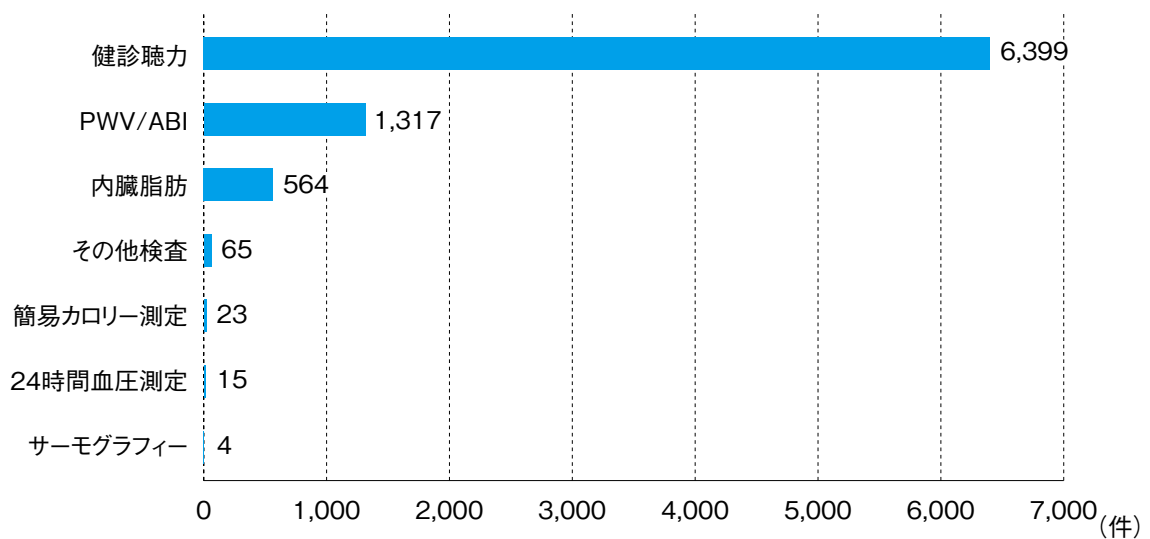
(ウ) 肺機能検査実績



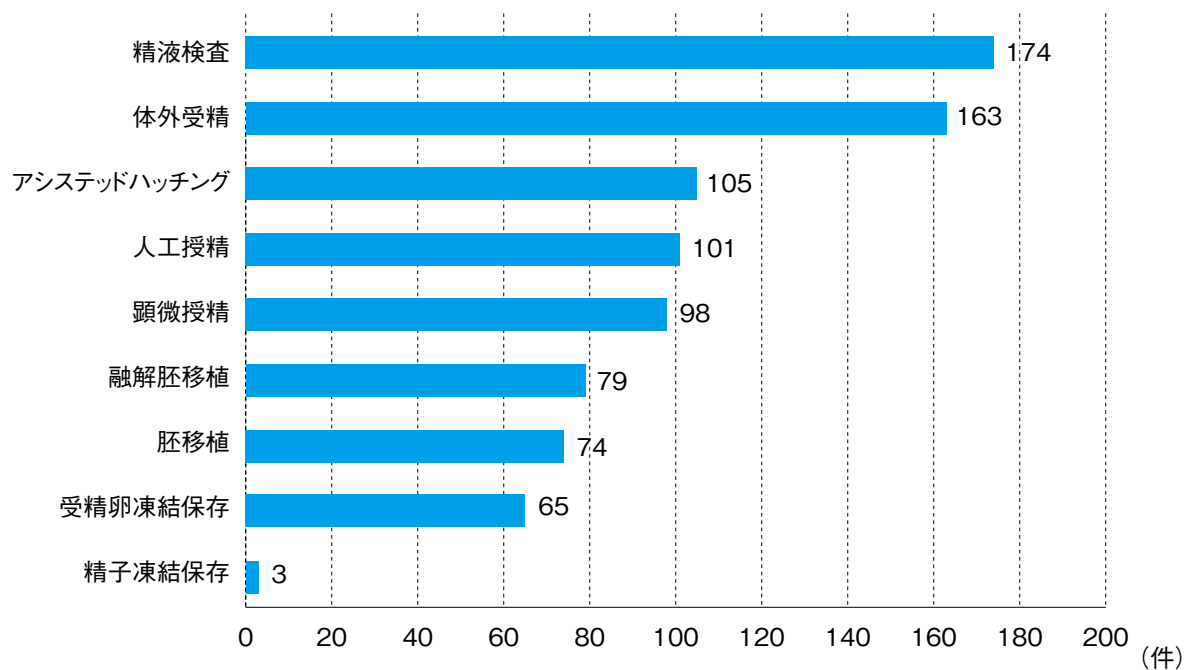
(エ)脳・神経検査実績



(オ)その他検査実績



②生殖医療関連検査実績



リハビリテーション技術室

1. 概要

リハビリテーション技術室は理学療法部門、作業療法部門、言語療法部門より構成される。運動器・脳血管・呼吸・心大血管・がん患者などを対象に総合的にリハビリテーションが実施できるよう施設基準を有している。2018年3月からはADL維持向上等体制加算を取得し、1病棟ではあるが療法士による病棟専従化を開始した。さらに栄養、呼吸、褥瘡、認知症、排尿ケア、嚥下等のチーム医療にも積極的に参加している。

1987年より開始した地域病院間のリハビリテーション連絡会は、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が所属する施設で構成され、各機能別施設における専門分野からの情報提供や症例検討を行っている。病診や病病連携一体のシステムは、26施設を数え、リハビリテーション分野からの市民サービスの充実を図っている。

(室長 森嶋 直人)

2. 活動報告

(1) 外来入院別単位数

延べ患者件数は132,292件、その内訳として理学療法78,507件、作業療法32,788件、言語療法 20,997件であった。

(件)

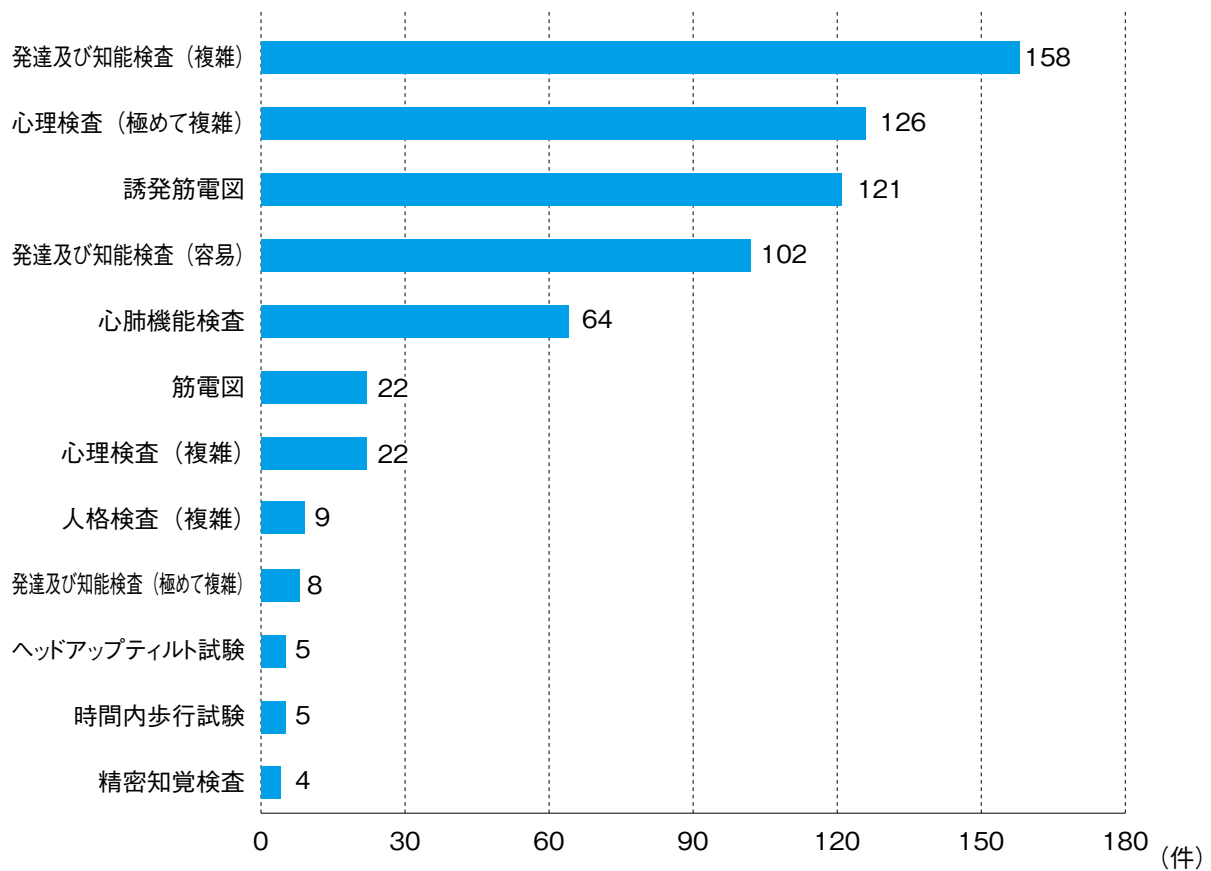
内 容	入外	平成30年度	平成29年度	平成28年度
理学療法	入院	72,822	73,427	67,518
	外来	5,685	4,390	3,612
作業療法	入院	29,424	28,940	26,228
	外来	3,364	2,866	2,733
言語療法	入院	17,578	16,932	14,770
	外来	3,419	3,119	3,015
合計	入院	119,824	119,299	108,516
	外来	12,468	10,375	9,360
計		132,292	129,674	117,876

(2) 疾患別件数

大分類疾患		代表的小分類疾患	
①脳疾患	1,116件	ア)脳梗塞	447件
		イ)脳出血	176件
		ウ)くも膜下出血	66件
		エ)小脳出血・小脳梗塞	15件
		オ)頭部外傷	170件
		カ)パーキンソン病	46件
		キ)その他	196件
②脳性麻痺	7件		
③発達障害	147件		
④脊髄疾患	163件	ア)脊髄損傷	40件
		イ)脊髄症	123件
⑤神経疾患	270件	ア)顔面神経麻痺	70件
		イ)多発神経炎	57件
		ウ)変性疾患	52件
		エ)その他	91件
⑥先天性異常	31件		
⑦骨疾患	541件	ア)上肢骨折	21件
		イ)下肢骨折	363件
		ウ)脊椎骨折	60件
		エ)脊椎症	6件
		オ)脊柱靱帯骨化	6件
		カ)無腐性壊死	17件
		キ)椎間板疾患	40件
		ク)その他	28件
⑧関節疾患	309件	ア)変形性関節症	167件
		イ)膝内障	64件
		ウ)肩関節疾患	17件
		エ)筋腱断裂	6件
		オ)その他	55件
⑨関節リウマチ	16件		
⑩切断	17件		
⑪手の外傷	17件		
⑫筋疾患	57件		
⑬循環器疾患	401件	ア)心筋梗塞	64件
		イ)心不全	243件
		ウ)狭心症	15件
		エ)その他循環器疾患	79件
⑭呼吸器疾患	759件	ア)肺炎	320件
		イ)誤嚥性肺炎	108件
		ウ)間質性肺炎	69件
		エ)COPD	72件
		オ)その他呼吸器疾患	190件

⑮腫瘍	964件	ア)頭頸部	89件
		イ)甲状腺	5件
		ウ)食道	25件
		エ)胃	44件
		オ)大腸	93件
		カ)肝臓	15件
		キ)胆道系	18件
		ク)脾臓	19件
		ケ)肺	190件
		コ)骨	17件
		サ)乳腺	64件
		シ)婦人科	28件
		ス)泌尿器	34件
		セ)脳腫瘍	103件
		ソ)小児腫瘍	1件
		タ)造血器	188件
		チ)その他の腫瘍	31件
⑯その他	781件	ア)廃用症候群・運動器不安定症	6件
		イ)その他	775件

(3) リハビリテーションセンター内検査実施件数



臨床工学室

1. 概要

臨床工学室は病院理念と基本方針に基づき、市民の財産である院内の医療機器を安全かつ良好な状態で臨床提供を行い、公共性と経済性を考慮し効率的な運用を行っている。

生命維持管理装置を用いた手術、治療支援ならびにそれに付帯する一切の医療安全業務に携ることが使命である。人員は室長の他20人、パート2人、事務員1人で、医療機器安全管理グループ、血液浄化センターグループ、生命維持装置管理グループのグループ制で担当を持ち、専用PHS端末を用いた365日24時間のオンコール体制としている。

医療機器管理においては、医療機器安全管理責任者の下に医療機器の保守管理計画、研修計画及び研修実施記録管理、更新・増設・廃棄業務支援を行っている。地域医療連携においては主治医を中心に、在宅で医療機器を使用する患者・家族への操作指導や退院後のフォローも行っている。多職種間の密な連携協力や、計画的な研修・カンファレンスを行いながら、患者の安全を第一に考えた医療技術の提供と診療支援に努めている。

血液浄化センターでは、一般的な血液透析から特殊血液浄化全般までを臨床工学技士と看護師で協働して対応している。基幹病院として、近隣病院より手術目的で紹介される患者の受け入れや、より重篤な透析患者の入院透析を中心に対応している。

生命維持管理装置といった医療機器の多くは手術センターで主に使用されている。そのため2017年からは手術センターに常駐の臨床工学技士を配置し、医師のサポート、医療機器の適正使用に貢献している。

手術支援ロボット・ダヴィンチについて当院では2013年10月から泌尿器科領域から開始し、その後、外科、婦人科領域に適応が拡大され、年間立ち合い件数は150件に達し、先進医療に貢献している。2019年4月からは手術支援ロボット・ダヴィンチ専用の手術室が増設され、さらに手術件数は増加する見込みである。

(室長 山口 育男)

(文責 室長補佐 後藤 成利)

「在籍技士が取得している認定資格等」

資格	認定団体	資格	認定団体
臨床ME専門認定士	日本生体医工学会	透析技術認定士	日本透析医学会・ 他4学会透析療法合同専門委員会認定資格
体外循環認定士	本人工臓器学会・ 日本体外循環医学会・ 日本心臓血管外科学会他	呼吸療法認定士	日本呼吸器学会・ 日本麻酔科学会・ 日本胸部外科学会
第2種ME技術者	日本生体医工学会	特定高圧ガス取扱主任者	高圧ガス保安協会
院内移植コーディネータ	愛知腎臓財団	第一種衛生管理者免許	厚生労働大臣指定安全衛生技術試験協会
医療安全認定コーチ:MCCS	国際医療リスクマネジメント学会		

2. 活動報告

(1) 治療手術業務件数 緊急血液浄化・血液成分分離・末梢血幹細胞採数

※HD、HDF、HF、ECUM、PEは血液浄化センターでの施行症例を除く

(件または回)

区分 内訳	平成30年度	平成29年度	平成28年度
血液浄化療法			
症例件数合計	88	81	110
血液浄化回数合計	219	264	477
HD件数	51	32	52
HD回数	85	144	243
HDF件数	1	0	4
HDF回数	3	0	16
HF件数	0	0	0
HF回数	0	0	0
ECUM件数	11	17	9
ECUM回数	23	44	12
CHD件数	0	1	0
CHD回数	0	1	0
小児CHD件数	0	0	0
小児CHD回数	0	0	0
CHDF件数	10	16	24
CHDF回数	17	35	103
CHF件数	1	2	0
CHF回数	1	2	0
PE件数	3	1	9
PE回数	11	3	23
小児PE件数	0	1	0
小児PE回数	3	3	0
CPE件数	0	0	0
CPE回数	0	0	0
DFPP件数	4	5	3
DFPP回数	22	13	12
免疫吸着件数	0	2	0
免疫吸着回数	0	9	0
LDL吸着件数	0	0	1
LDL吸着回数	0	0	4
薬物吸着件数	0	0	0
薬物吸着回数	0	0	0
ET吸着件数	0	2	3

ET吸着回数	0	2	4
L-CAP件数	3	1	4
L-CAP回数	23	3	50
G-CAP件数	4	1	1
G-CAP回数	31	5	10
末梢血幹細胞採取・骨髄移植関連			
症例件数合計	16	19	22
施行回数合計	21	25	29
PBSC成人件数	12	12	17
PBSC成人回数	16	18	24
PBSC小児件数	1	0	0
PBSC小児回数	1	0	0
健常人 ドナーPBSCH件数	1	3	3
健常人 ドナーPBSCH回数	2	3	3
健常人 ドナーリンパ球採取件数	0	1	-
健常人 ドナーリンパ球採取回数	0	1	-
骨髄濃縮件数	2	3	2
骨髄濃縮回数	2	3	2
顆粒球採取件数	0	0	0
顆粒球採取回数	0	0	0
白血球採取件数	0	0	0
白血球採取回数	0	0	0
その他			
腹水濾過濃縮再静注業務症例数	20	17	20
腹水濾過濃縮再静注業務回数	53	43	59

(2) 手術立ち会い業務件数

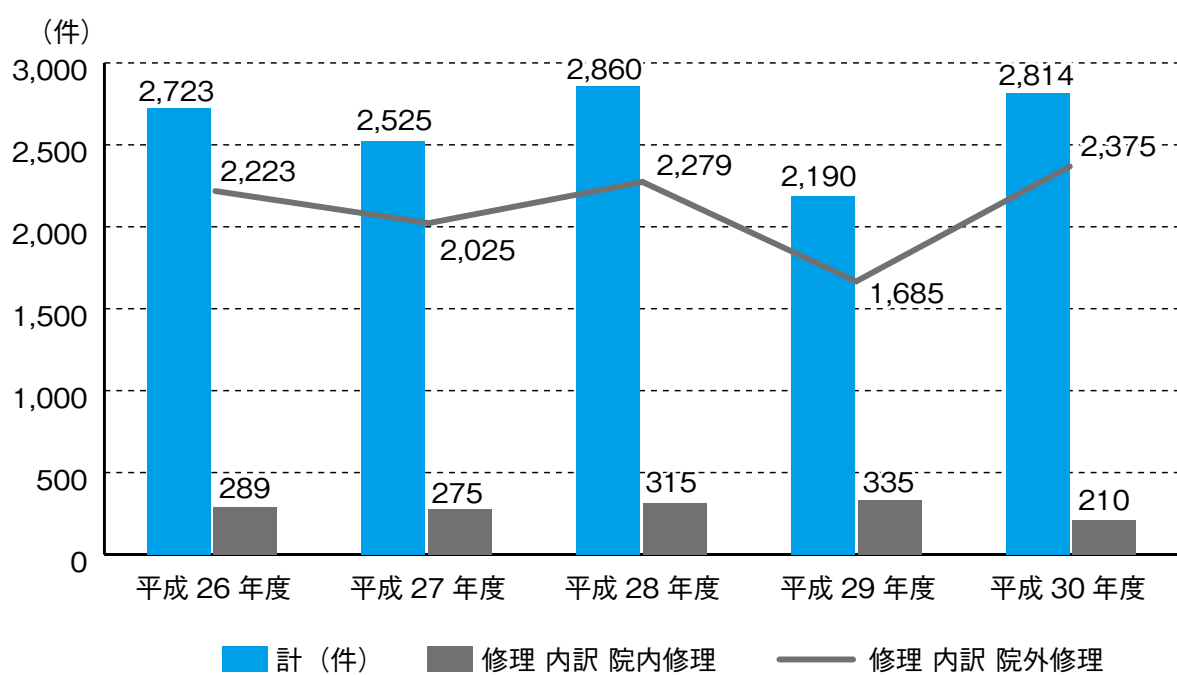
人工心肺・補助循環・自己血回収・脳外ナビ・ペースメーカー等症例数

(件)

区分	平成30年度	平成29年度	平成28年度
人工心肺装置業務(開心術)			
成人人工心肺症例数	27	35	38
小児人工心肺症例数	0	0	0
Off Pump 手術立ち会い症例数	1	1	1
計	28	36	39
補助人工心肺装置管理業務			
PCPS症例数	6	6	12
ECMO症例数	0	0	0
計	6	6	12
手術立ち会い業務(人工心肺業務以外)			
心外 自己血回収症例数	8	10	9
整形 自己血回収症例数	8	6	10
計	16	16	19
脳外ナビゲーション症例数	76	68	48
耳鼻いんこう科手術ナビゲーション症例数	9	6	10
計	85	74	58
泌尿器科ダヴィンチ症例数(前立腺)	61	65	56
泌尿器科ダヴィンチ症例数(腎部分切除)	8	1	2
婦人科ダヴィンチ症例数	64	7	7
外科ダヴィンチ症例数(胃・腸切除)	35	19	17
計	168	92	82
生体腎移植術腎還流	4	4	7
献腎移植術腎還流	2	3	0
計	6	7	7
PM・ICD 新規植込 立会い	23	20	17
PM・ICD 電池交換 立会い	8	8	6
PM・ICDリード交換等 立会い	0	1	1
PM設定術中/CT/MRI対応	63	60	87
ICM 新規植込 立会い	5	2	0
計	99	91	111
呼吸療法関連業務			
成人用人工呼吸器回路組立件数	518	528	492
小児用人工呼吸器回路組立件数	321	175	239
計	839	703	731
NOガス 使用症例数	7	5	4
N2ガス 使用症例数	0	0	0
計	7	5	4

(3) 医療機器修理件数

①年度別修理件数



②部署別修理件数

(件)

部署名	修理件数	修理 内訳				
		院内修理	院外修理	修理分類別		
				新品交換	異常なし	修理不能
内科	36	3	20	12	0	1
小児科	20	0	17	3	0	0
外科	7	0	5	1	1	0
形成外科	7	6	1	0	0	0
整形外科	11	1	10	0	0	0
皮膚科	12	1	11	0	0	0
泌尿器科	11	1	10	0	0	0
産婦人科	26	1	23	2	0	0
耳鼻いんこう科	93	2	89	2	0	0
眼科	20	0	19	1	0	0
脳神経外科	3	2	1	0	0	0
歯科口腔外科	12	0	12	0	0	0
外来治療センター	8	2	5	1	0	0
予防医療センター	2	0	2	0	0	0
入院支援センター	0	0	0	0	0	0
感染症管理センター	0	0	0	0	0	0
総合案内	53	4	47	2	0	0
総合生殖	0	0	0	0	0	0
東2	68	7	47	14	0	0
西2	59	8	38	13	0	0
東3	77	12	48	16	0	1
西3	55	5	49	1	0	0
総合周産期病棟	140	10	115	12	3	0
東5	71	10	52	8	1	0
西5	56	7	44	5	0	0
東6	47	9	29	9	0	0
西6	56	12	39	5	0	0
東7	64	8	46	10	0	0
西7	56	4	41	11	0	0
東8	60	7	50	2	1	0
西8	63	3	49	11	0	0
東9	52	13	32	6	1	0
西9	37	9	26	2	0	0
南病棟	105	15	80	10	0	0
放射線技術室	194	1	193	0	0	0
放射線治療室	1	0	1	0	0	0
画像検査(看護局)	74	1	69	4	0	0
中央臨床検査室	73	1	70	2	0	0
薬局	24	23	1	0	0	0

ME(臨床工学室)	121	1	116	0	2	2
血液浄化センター	8	0	6	2	0	0
NMC	88	4	77	7	0	0
救命救急センター	34	3	23	7	0	1
中央滅菌材料室	50	1	49	0	0	0
リハビリテーションセンター	19	3	14	2	0	0
栄養管理室	18	1	17	0	0	0
医局	0	0	0	0	0	0
看護局	8	0	8	0	0	0
管理課	3	0	0	0	0	3
医事課	10	0	9	1	0	0
医療情報課	10	1	8	1	0	0
物品事務室	7	0	7	0	0	0
手術センター	682	8	647	25	2	0

(4) 臨床工学室が管理する医療機器台数

* 各科で購入されているが、保守点検を臨床工学室が行っている機器を含む

(台)

管理機器名称	管理台数
人工心肺装置	1
人工心肺用遠心ポンプコントローラー	1
心筋保護液供給装置	1
人工心肺用ヒータークーラーユニット	2
自己血回収装置	2
遠心ポンプ式補助循環装置(PCPS)	2
IABP	3
成人・小児用人工呼吸器	25
新生児用人工呼吸器	14
在宅用 人工呼吸器(リース機含む)	65
成人用NIPPV	5
小児・新生児用NIPPV	10
可搬型人工呼吸器(パラパック)	2
パーカッションベンチレーター	2
RTX 陽陰圧式体外式人工呼吸器	1
多人数用血液透析患者監視装置	21
手術ナビゲーションシステム	3
個人用血液透析患者監視装置	3
個人用RO装置	2
持続的血液ろ過透析装置	2
血漿交換装置	1
腹水濾過濃縮装置	1
除細動装置	16
AED	25
AED解析装置	1
閉鎖式保育器(多機能型4台含む)	21
開放式保育器(インファントウォーマー)	12
搬送用保育器	2
輸液ポンプ	340
輸注ポンプ	319
経腸ポンプ	26
医薬品注入コントローラー(ドリップアイ)	15
PCAポンプ	5
6連式シリンジポンプユニット	2
セントラルモニター	33
ベッドサイドモニター	157
無線式送信機台数	149
携帯型受信機	14
心電計	25
血液成分分離装置	2

全身麻酔器	18
低圧持続吸引器	32
連続心拍出力計	10
体外式ペースメーカー(DDD式を含む)	10
ネブライザーヒーター	60
手術支援ロボットシステム(ダヴィンチSi)	1
計	1,464

(5) 人工呼吸器稼働台数および平均装着日数

診療科別

診療科名	症例数 (件)	延べ稼働 回数(日)	平均装着 日数(日)
外科	56	160	2.9
脳神経外科	90	473	5.3
心臓血管外科	35	79	2.3
呼吸器外科	17	104	6.1
循環器内科	26	193	7.4
呼吸器内科	19	83	4.4
消化器内科	12	100	8.3
神経内科	22	311	14.1
血液内科	5	67	13.4
腎臓内科	3	4	1.3
糖尿病・内分泌科	0	0	0.0
整形外科	18	98	5.4
リウマチ科	0	0	0.0
泌尿器科	2	7	3.5
産婦人科	8	12	1.5
形成外科	0	0	0.0
皮膚科	3	6	2.0
耳鼻いんこう科	23	82	3.6
歯科口腔外科	7	19	2.7
小児科	65	549	8.4
移植外科	1	4	4.0
計	412	2,351	5.7
前年度	436	2,833	6.5

病棟別

診療科名	症例数 (件)	延べ稼働 回数(日)	平均装着 日数(日)
南1	2	45	22.5
南2	0	0	0.0
西2	32	304	9.5
東2	54	513	9.5
西3/ICU	319	1,184	3.7
東3	12	122	10.2
西4	0	0	0.0
東4	0	0	0.0
西5	1	24	24.0
東5	1	1	1.0
西6	2	9	4.5
東6	2	34	17.0
西7	3	7	2.3
東7	2	15	7.5
西8	0	0	0.0
東8	3	31	10.3
西9	4	59	14.8
東9	0	0	0.0
救急外来	31	31	1.0
計	468	2,379	5.1
前年度	479	2,809	5.9

* 西病棟3階から病棟転症された症例を含む

* 在宅人工呼吸療法中で入院した症例も含む

病棟別 人工呼吸器稼働（日常点検）台数の報告

病棟	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		年間365日計算		
	延べ稼働台数	延べ症例数	延べ稼働台数	延べ症例数	延べ稼働台数	延べ症例数	延べ稼働台数	延べ症例数	延べ稼働台数	延べ症例数	延べ稼働台数	延べ症例数	延べ稼働台数	延べ症例数	延べ稼働台数	延べ症例数	延べ稼働台数	延べ症例数	延べ稼働台数	延べ症例数	延べ稼働台数	延べ症例数	延べ稼働台数	延べ症例数	平均呼吸器稼働台数(台)		
南1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	1	28	1	45	2	0.12
南2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00	
西2	13	4	0	3	5	1	33	2	47	4	18	3	19	3	24	4	34	2	13	2	31	2	67	5	304	35	0.83
東2	87	6	58	21	13	3	11	3	33	3	20	3	43	6	33	6	44	4	47	4	41	4	83	9	513	72	1.41
西3/ICU	71	25	63	1	69	20	101	31	108	30	87	26	113	24	100	30	96	21	146	37	90	22	140	32	1184	299	3.24
東3	34	2	18	0	0	0	1	1	7	2	0	0	5	1	6	1	11	1	17	2	23	1	0	0	122	11	0.33
西4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
東4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
西5	24	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	1	0.07
東5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0.00
西6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1	0	0	0	0	0	0	1	1	9	2	0.02
東6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	1	25	1	0	0	0	0	0	0	34	2	0.09
西7	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	7	3	0.02
東7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	11	1	15	2	0.04
西8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
東8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	2	10	1	0	0	0	0	31	3	0.08
西9	0	0	0	0	0	0	0	0	19	1	22	1	7	1	11	1	0	0	0	0	0	0	0	0	59	4	0.16
東9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
合計/日平均台数	229	38	139	25	87	24	147	38	214	40	147	33	192	36	191	44	231	31	233	46	206	31	332	51	2348	437	6.43

マスク式 人工呼吸器	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		年間		成人 小児 比較 (日)
	症例 数	延べ 症例	症例 数	延べ 症例	症例 数	延べ 症例	症例 数	延べ 症例	症例 数	延べ 症例	症例 数	延べ 症例	症例 数	延べ 症例	症例 数	延べ 症例	症例 数	延べ 症例	症例 数	延べ 症例	症例 数	延べ 症例	症例 数	延べ 症例	延べ 症例 数	延べ 症例 数	
総数	20	61	25	104	18	85	18	99	17	30	17	68	25	144	12	72	15	82	26	114	16	132	22	107	231	1098	4.9
(内訳)成人	16	46	24	99	16	78	16	95	15	25	9	28	9	80	10	41	14	59	21	85	14	82	20	72	184	790	4.3
(内訳)小児	4	15	1	5	2	7	2	4	2	5	8	40	16	64	2	31	1	23	5	29	2	50	2	35	47	308	6.6
一日平均 装着日数 (日)	3.1		4.2		4.7		5.5		2.5		4.0		5.8		6.0		6.0		6.0		8.3		4.9		4.9		

栄養管理室

1. 概要

栄養管理室では、患者の病状や状態、年齢に合わせた常食、やわらか食、糖尿食など40種類の食種を用意している。食事内容は医師と管理栄養士が検食で確認し、選択メニューなど喜んで食べていただける食事や、食事療法を行うための食事を提供して、QOLの向上に努めている。家庭でも栄養管理、食事療法が行えるよう、栄養指導や糖尿病教室などを通して、アドバイスなど支援をしている。

入院患者の栄養状態について、看護師とともにスクリーニングを行い、栄養管理計画書を作成し、医師が確認している。また、治療食を提供している患者に対しては、管理栄養士から食内容の説明を含む栄養指導を積極的に行うようにしている。

栄養サポートチーム（NST）の事務局としてNST回診への同行、栄養治療実施計画書の作成など、患者の栄養状態の把握、改善を図り、治療に貢献している。また褥瘡対策チーム、呼吸療法ケアチームの一員として活動している。

栄養管理委員会で食事内容の検討や、NST運営委員会でNST活動を報告した。栄養治療についての知識、技術を習得するためNST定期教育講演会やNST教育カリキュラムを開催するなど、院内全体の栄養治療の水準向上を図っている。

（室長 山口 育男）

（文責 室長補佐 島 淳二）

「取得している認定資格等」

資格	認定団体
栄養サポートチーム専門療法士	日本静脈経腸栄養学会

2. 活動報告

(1) 実績

区分		平成30年度	平成29年度	平成28年度
食種及び食数	一般食	405,065	417,871	411,696
	特別食	加算食	124,933	135,999
		非加算食	4,713	4,514
		小計(食)	129,646	140,513
	合計(食)	534,711	558,384	545,921

選択メニュー	実施日数(日)			365	365	365
	実施食種	一般食	常食	63,436	66,375	64,824
			軟菜食	23,305	23,362	24,882
			小計(人)	86,741	89,737	89,706
		治療食	糖尿食	13,873	15,600	14,259
			心臓食	4,831	5,267	4,509
			肝臓食	330	296	537
			すい臓B食	1,197	1,905	1,558
			小計(人)	20,231	23,068	20,863
		合計(人)			106,972	112,805
				110,569		

栄養食事指導	外来患者栄養食事指導	1,060	1,045	1,054
	糖尿病透析予防管理	79	64	84
	入院患者栄養食事指導	1,618	1,340	1,021
	乳児栄養食事指導	21	67	114
	小計(件)	2,778	2,516	2,273
	糖尿病教室	110	139	135
	合計(件)	2,888	2,655	2,408

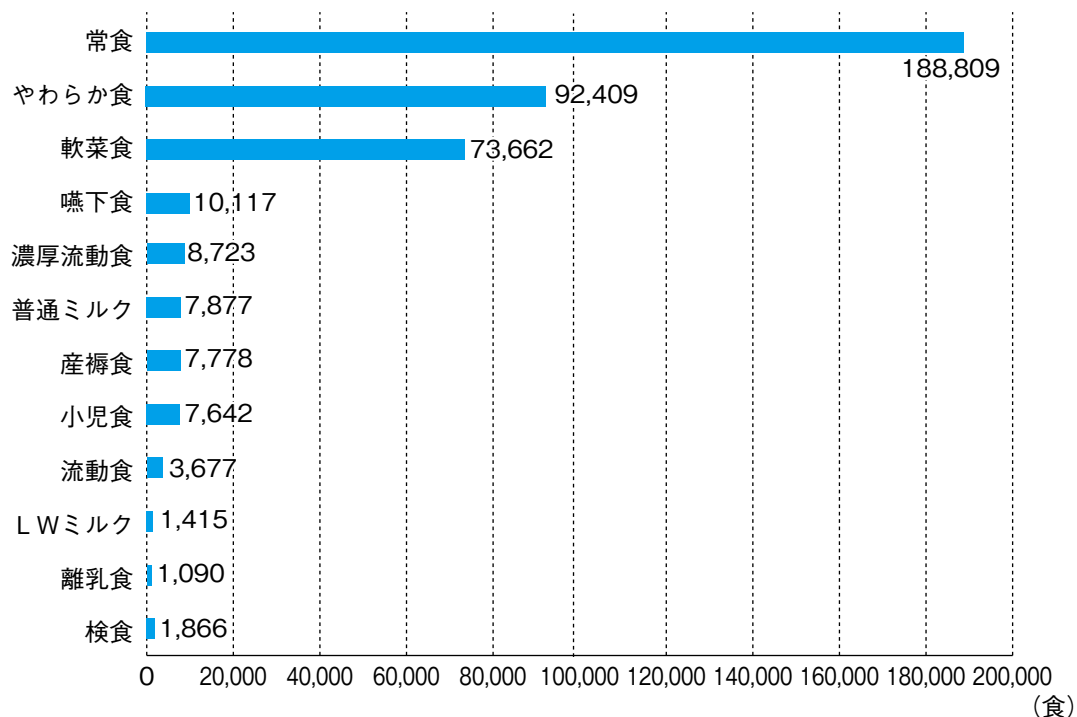
NST業務	栄養管理計画書(件)	22,722	22,233	21,729
	栄養サポートチーム加算(件)	814	740	646

NST定期 教育講演会	実施回数(回)	7	6	8
	参加者(人)	405	301	453

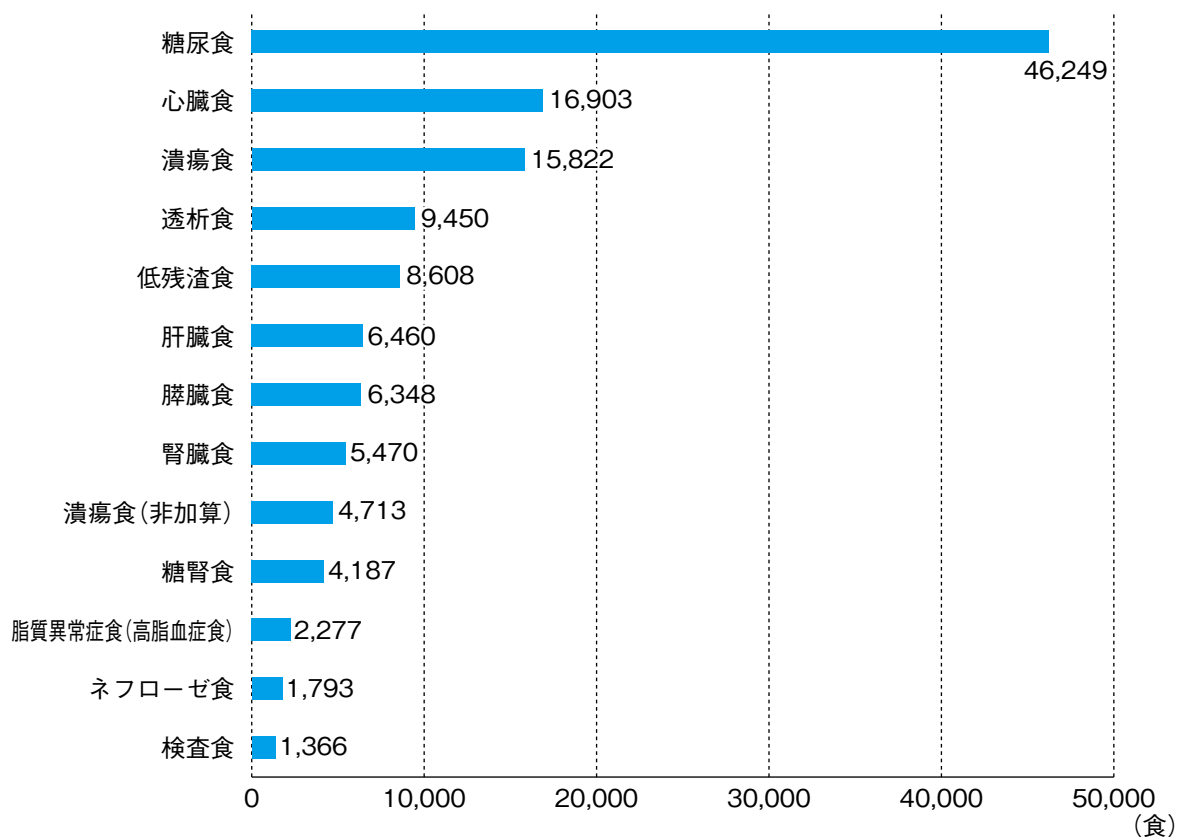
NST教育 カリキュラム	実施回数(回)		1	1	1
	受講者(人)	院外	6	5	4
		院内	1	2	2

(2) 食種詳細

①一般食 405,065食



②特別食 129,646食



薬局

1. 概要

薬剤師は、薬のエキスパートとして薬物療法および医療安全に貢献することを目標に各職種と連携し、医療チームの一員として業務を行っている。

薬局には、管理、注射、製剤・注射調製、調剤・麻薬、医薬品情報の5グループからなる基本組織と治験管理センターが設置されている。手術室にはサテライト薬局を置き、薬剤師が常駐して手術に使用する医薬品の供給・管理を行い、麻薬、毒薬等のハイリスク薬の適正管理を行っている。病棟においては、薬剤管理指導業務、病棟薬剤業務を実施して、患者への服薬指導や副作用発現のチェック、他の医療職への情報提供等を行い、薬物療法における有効性・安全性の向上に貢献している。さらに外来治療センターにも常駐し、抗がん薬の薬剤指導、副作用管理を実施している。

また、最適な処方設計を提供するための薬物血中濃度解析や新薬開発のための治験業務等も推進している。

薬剤師の資格取得も積極的に推進し、がん指導薬剤師、がん専門薬剤師、感染制御専門薬剤師、感染制御認定薬剤師、抗菌化学療法認定薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師、栄養サポートチーム専門療法士、日本糖尿病指導療養師等の専門領域の薬剤師は各チーム医療の一員として役割を担い、薬剤師能を発揮している。

(薬局長 石川 元章)

2. 活動報告

(1) 患者数及び処方箋枚数

年度		平成30年度(対前年度)		1日平均	平成29年度(対前年度)		1日平均	平成28年度(対前年度)		1日平均
区分										
外来	患者数(人)	471,981	102.4%	1,934	461,026	100.3%	1,889	459,565	100.1%	1,891
	院 処方箋枚数(枚)	47,053	108.1%	193	43,512	98.7%	178	44,072	98.2%	181
		平均投薬日数(日)	15.4	100.7%		15.3	108.5%	14.1	102.7%	
	内 注射処方箋枚数(枚)	19,438	115.2%	80	16,867	112.3%	69	15,013	101.7%	62
	院 処方箋枚数(枚)	160,846	100.4%	659	160,201	97.7%	657	163,959	100.4%	675
	外 平均投薬日数(日)	33.7	98.3%		34.3	100.3%		34.2	99.3%	
入院	患者数(人)	251,669	96.6%	690	260,435	103.3%	714	252,163	100.1%	691
	処方箋枚数(枚)	115,096	98.7%	315	116,590	102.0%	319	114,317	103.3%	313
	平均投薬日数(日)	6.8	93.2%		7.3	107.4%		6.8	108.2%	
	注射処方箋枚数(枚)	126,772	99.5%	347	127,439	101.7%	349	125,342	101.1%	343
備 考		外来日数244日 入院日数365日			外来日数244日 入院日数365日			外来日数243日 入院日数365日		

(2) 薬剤管理指導実績

	平成30年度	平成29年度	平成28年度
薬 剤 管 理 指 導 件 数 (件)	21,987	24,909	25,495
麻 薬 加 算 件 数 (件)	345	659	689

(3) 無菌製剤処理料実績

	平成30年度	平成29年度	平成28年度
無菌製剤処理料件数(件)	14,318	12,476	12,326

(4) 外来及び入院の科別処方箋枚数

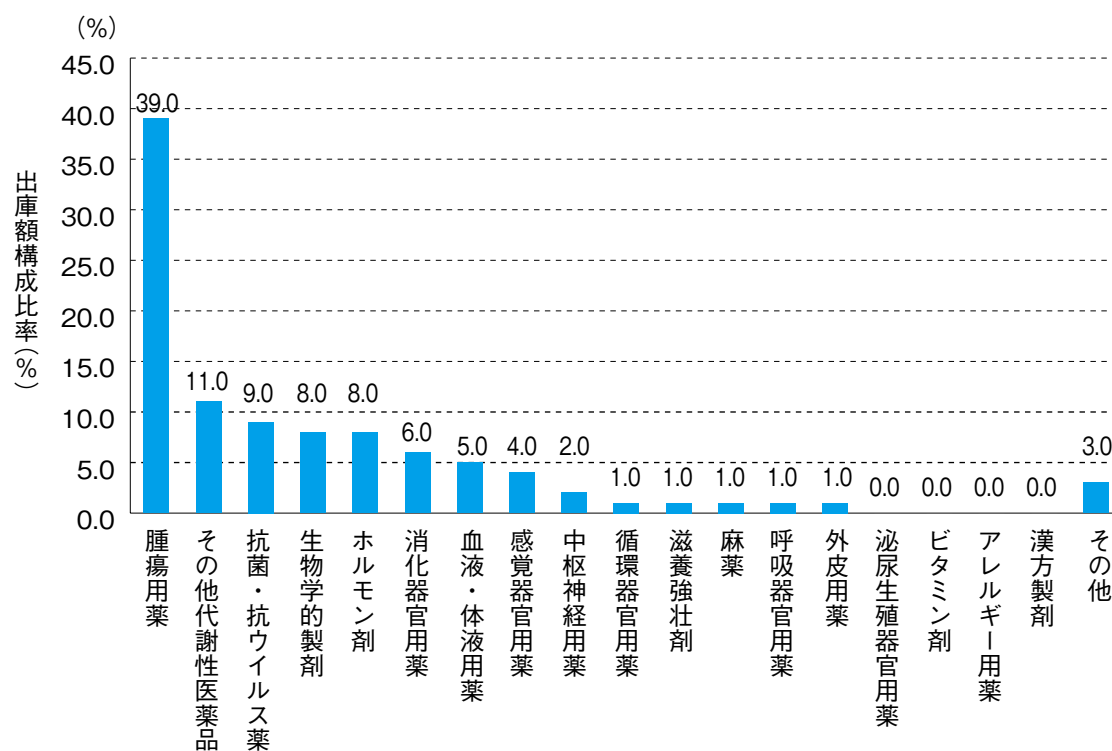
科 名	外来			入院	
	処方箋枚数(枚)		全処方箋枚数に 対する科別比率 (%)	処方箋枚数 (枚)	全処方箋枚数に 対する科別比率 (%)
	院内	院外			
総合内科	508	3,316	1.8	793	0.7
一般外科	4,589	8,068	6.1	10,529	9.1
整形外科	1,768	7,420	4.4	9,568	8.3
脳神経外科	347	3,403	1.8	6,940	6.0
産婦人科	1,980	7,160	4.4	9,614	8.4
小児科	2,873	11,271	6.8	5,734	5.0
耳鼻いんこう科	1,069	8,242	4.5	5,029	4.4
皮膚科	3,127	16,002	9.2	2,902	2.5
泌尿器科	1,521	10,073	5.6	6,167	5.4
眼科	787	10,710	5.5	1,196	1.0
放射線科	47	437	0.2	0	0.0
こころのケア科	180	0	0.1	0	0.0
形成外科	81	341	0.2	1	0.0
歯科口腔外科	723	4,242	2.4	1,649	1.4
リハビリテーション科	3	10	0.0	0	0.0
麻酔科	3	0	0.0	0	0.0
救急科	11,672	7	5.6	-	-
呼吸器内科	1,006	10,614	5.6	14,107	12.3
消化器内科	5,021	14,127	9.2	11,198	9.7
循環器内科	1,216	9,939	5.4	4,166	3.6
アレルギー内科*	0	0	0.0	-	-
腎臓内科	1,009	4,771	2.8	3,382	2.9
糖尿病・内分泌内科	2,789	9,935	6.1	2,982	2.6
神経内科	503	5,980	3.1	7,147	6.2
血液・腫瘍内科	2,687	6,059	4.2	8,857	7.7
小児外科	31	274	0.1	13	0.0
移植外科	48	705	0.4	249	0.2
リウマチ科	1,078	6,387	3.6	242	0.2
脊椎外科	19	19	0.0	21	0.0
呼吸器外科	169	347	0.2	1,218	1.1
心臓血管外科	199	987	0.6	1,392	1.2
合計	47,053	160,846	100.0	115,096	100.0
	207,899				

※処方箋枚数：外来の肛門科は一般外科、臨床検査科は総合内科、心臓血管・呼吸器外科は呼吸器外科に含む。入院の膠原病内科は糖尿病・内分泌内科に含む。

(5) 抗がん薬及びTPN調製本数

	区 分	平成30年度	平成29年度	平成28年度
抗がん薬(本)	入 院	7,142	6,643	6,828
	外 来	14,157	13,250	11,818
TPN(本)	入 院	657	570	987

(6) 薬効別出庫薬品

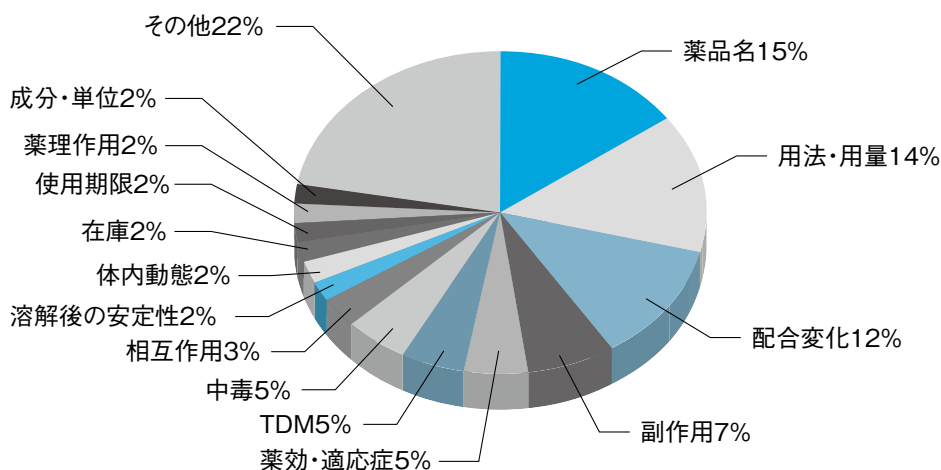


(7) 院内特殊製剤（一部抜粋）

剤形	製剤名(出庫単位)	適応症等	主な使用科	製剤量
坐剤・ 腔坐剤	チラージンS坐薬50 μ g	甲状腺機能低下症(内服不可能時)	糖尿病・内分泌内科等	216本
	ミラクリッド腔坐薬1万単位	切迫早産(破水予防)	産婦人科	778本
	プロゲステロン腔坐薬200mg	黄体ホルモン補充療法	総合生殖医療センター	1,764本
	リファンピシン坐薬450mg	結核治療薬(イレウス等で内服困難時)	呼吸器内科	73本
注射剤	眼科用アバステイン注	加齢黄斑変性症、血管新生緑内障	眼科	18本
	シリコンオイル眼注(10mL)	増殖硝子体網膜症の硝子体手術における眼内充填物	眼科	22本
	滅菌墨汁(5mL)	内視鏡的點墨法	消化器内科	167本
	2%パテントブルー注(5mL)	悪性リンパ腫のリンパ管染色	皮膚科	6本
点眼剤	0.5%デノシン点眼液(5mL)	サイトメガロウイルス角膜内皮炎	眼科	12本
	バンコマイシン点眼液(5mL)	MRSA陽性患者への眼科感染症	眼科	5本
	0.125%ピロカルピン液(4mL)	瞳孔緊張症	眼科	9本
	0.5%硫酸アトロピン点眼液(5mL)	診断または治療を目的とする散瞳と調節麻痺	眼科	61本
	0.25mg/mLブリリアントブルーG点眼液(5mL)	黄斑円孔、黄斑前膜等に対するガラス体手術での内鏡膜剥離時の染色	眼科	67本
内用剤	セレン内服液(10 μ g/mL)	セレン欠乏症	小児科	16,700mL
	P.Child - C (CN)	風邪・咳用申し合わせ処方	小児科	5,000g
外用剤	SAD液	円形脱毛症、疣贅	皮膚科	5,400mL
	鼓膜麻酔薬	鼓膜麻酔	耳鼻科	30mL
	DPCP液	円形脱毛症、疣贅	皮膚科	3,500mL
	2%滅菌HPC液	肉芽組織の清浄化と形成促進剤	血液・腫瘍内科等	11,500mL
	0.02%滅菌ボスミン液	外傷・鼻・抜歯後など局所出血	耳鼻科等	28,700 mL
	1%ヨウ素ヨウ化カリウム液	カメラ室における検査薬	消化器内科	9,600mL
軟膏剤	40%尿素軟膏	爪白癬の角質除去	形成外科	100g
	5%ヒドロキノン軟膏	メラニン色素の破壊・生成抑制	形成外科等	2,700g
	Mohs氏ペースト	Mohs surgeryにおける組織の固定	一般外科等	400g

(8) 医薬品情報室への問い合わせ状況

総件数：1,007 件



(9) 医薬品情報提供

医薬品集	1回
Drug Information News	12回
薬局ニュース	12回
緊急安全性情報・安全性速報	0件
適応症に関する情報	37件
使用上の注意に関する情報	58件
用法・用量に関する情報	12件
安全性情報	23件
薬物血中濃度解析	51件

(10) 持参薬鑑別

	平成30年度	平成29年度	平成28年度
薬剤鑑別件数(件)	13,240	12,802	11,987

(11) 治験実施数 (平成 30 年度)

治験/製造販売後	相	件数	予定症例数	実施症例数
治 験	ph II	6	15	4
	ph II / III	2	7	4
	ph III	22	91	53

(12) 副作用報告

	平成30年度	平成29年度	平成28年度
厚生労働省報告件数	18	10	9
プレアボイド報告件数	228	168	140

(13) 年間麻薬使用量

薬 品 名	平成30年度		平成29年度		平成28年度	
	院内	院外	院内	院外	院内	院外
オピスコ注(本)	8	－	0	－	1	－
ペチジン塩酸塩注(本)	0	－	2	－	0	－
モルヒネ塩酸塩注10mg(本)	2,011	－	3,171	－	3,350	－
モルヒネ塩酸塩注50mg(本)	421	－	445	－	473	－
モルヒネ塩酸塩注200mg(本)	241	－	347	－	364	－
フェンタニル注0.1mg(本)	9,844	－	9,706	－	9,832	－
フェンタニル注0.5mg(本)	5,958	－	6,178	－	7,139	－
アルチバ静注用2mg(瓶)	3,884	－	3,727	－	3,832	－
アルチバ静注用5mg(瓶)	1,784	－	1,780	－	1,627	－
ケタラル静注用200mg(瓶)	512	－	611	－	642	－
オキファスト10mg(本)	1,200	－	1,159	－	696	－
オキファスト50mg(本)	444	－	442	－	482	－
プレペノン注100mgシリンジ(本)	72	－	176	－	136	－
MSコンチン錠10mg(錠)	3,335	1,251	1,941	624	1,269	949
MSコンチン錠30mg(錠)	929	0	463	578	592	14
ピーガード錠20mg(錠)	－	－	－	－	10	0
モルベス細粒2% 10mg(包)	1,270	1,046	3,531	1,735	1,864	652
モルベス細粒6% 30mg(包)	1,026	0	131	0	－	－
モルヒネ塩酸塩錠10mg(錠)	2,471	1,804	1,225	40	479	115
オプソ内服液5mg(包)	2,998	2,115	3,179	1,335	2,352	933
オプソ内服液10mg(包)	2,980	416	3,405	795	2,270	466
オキシコンチン錠5mg(錠)	20,595	23,917	30,195	41,807	23,383	34,736
オキシコンチン錠20mg(錠)	3,126	4,326	5,556	4,828	3,905	5,702
オキシコンチン錠40mg(錠)	1,339	2,730	2,172	5,175	1,730	4,846
オキシコドン徐放錠5mg(錠)	12,833	15,736	－	－	－	－
オキシコドン徐放錠20mg(錠)	1,838	2,316	－	－	－	－
オキシコドン徐放錠40mg(錠)	516	238	－	－	－	－
オキノーム散2.5mg(包)	5,565	5,305	7,289	6,193	6,900	5,506.5
オキノーム散5mg(包)	5,681	4,514	6,422	6,298	4,999	3,479
オキノーム散10mg(包)	4,810	5,087	5,890	6,502	4,430	6,343
イーフェンバツカル錠50μg(錠)	160	293	347	0	173	30
イーフェンバツカル錠100μg(錠)	525	130	483	135	908	135
イーフェンバツカル錠200μg(錠)	765	590	359	536	279	294
タペンタ錠 25mg(錠)	424	14	232	0	1,337	28
タペンタ錠100mg(錠)	173	0	614	0	872	14
メサペイン錠5mg(錠)	54	21	91	84	－	－
メサペイン錠10mg(錠)	678	840	366	1,071	－	－
アンパック坐薬10mg(本)	220	10	317	40	449	30
アンパック坐薬30mg(本)	0	0	96	0	51	0
デュロテップMT ^ハ 72 ^フ 2.1mg(枚)	－	－	－	－	46	80
デュロテップMT ^ハ 72 ^フ 4.2mg(枚)	－	－	－	－	3	29
デュロテップMT ^ハ 72 ^フ 8.4mg(枚)	－	－	－	－	7	10
フェントステープ1mg(枚)	3,668	2,811	3,634	3,389	2,581	2,727
フェントステープ2mg(枚)	4,099	2,616	4,601	3,889	4,331	2,687
フェントステープ6mg(枚)	2,389	348	1,803	699	1,680	490
アヘンチンキ(mL)	2,806.0	3,660.0	865.0	2,229.0	403.6	1,769.0
10%塩酸コカイン液(mL)	15.0	0	34.0	0	46.0	0

※ 年度の設定は麻薬関係法令上、平成 29 年 10 月 1 日～平成 30 年 9 月 30 日までとする。

看護局

1. 概要

看護局の重点目標として、以下を挙げ、看護局委員会、師長を中心に看護目標やチーム活動を実施し、目標達成に向けて取り組むことができた。

- 1) 平均在院日数を一日減らす。
- 2) 仕事と休みのメリハリをつける。
- 3) お互いが信頼できる職場をつくる。

平均在院日数は退院調整看護師と共に患者の暮らしをみる視点から、12.5日から11.5日と減少する一助を担った。また、管理担当主任を各部署に置くことで、管理の役割を増やし、各委員会の部会としてリンクナースをおき、現場力の向上に向け活動した。目標はそれぞれの立場や役割で活動することでは達成となるが、働きやすい勤務体制の構築、時間外労働の削減や休暇取得に向けては今後の課題となる。

(局長 間瀬 有奈)

2. 活動報告

(1) 看護局の状況

①職員の動向

職員数 922人 助産師41(2)人 看護師799(84)人 准看護師13(11)人
看護補助者 60人 助手 7人 保育士 2人
退職者 55人(定年退職者6人含む)

②看護師確保対策

(ア)採用試験

平成31年度新規採用試験 3回実施(新卒59人、既卒1人)

平成30年度中途採用試験(7人)

(イ)ガイダンス(4回実施 256人参加)

日 程	開 催 名	参加人数
2018年5月 6日	豊橋市民病院就職ガイダンス	71人
2018年8月 8日	修文大学学内病院合同説明会	9人
2019年1月20日	中日たまご2019「看護師就職ガイダンス」	14人
2019年2月11日	マイナビ「看護師就職ガイダンス」	61人
2019年3月16日	豊橋創造大学合同説明会	33人
2019年3月30日	豊橋市民病院就職ガイダンス	68人

(ウ)インターンシップ

開 催 期 間	研 修 名	参加人数
2018年8月 6日～8月17日	夏のインターンシップ研修	31人
2019年3月12日～3月22日	春のインターンシップ研修	29人

(エ)施設見学 総数 19人

(オ)学校訪問 4月23日～(4日間)12校

(カ) 看護体験

高校生 ナースセンター開催 30人
 自開催 2018年8月 56人
 2018年3月 29人

中学生職場体験 11人

(キ) 育児休業中職員向けに「ぶっちゃけママトーク」開催 33人

3. 認定看護師

(1) 認定看護師数(25人)

感染管理 (3) 救急看護 (2) 皮膚・排泄ケア (3) がん化学療法看護 (2)
がん性疼痛看護 (2) 緩和ケア (1) 集中ケア (1) 新生児集中ケア (1)
摂食・嚥下障害看護 (1) 脳卒中リハビリテーション看護 (1) 認知症看護 (1)
訪問看護 (1) 透析看護 (1) 手術看護 (1) 糖尿病看護 (1) 小児救急看護 (1)
がん放射線療法看護 (1) 看護管理 (1)

(2) 平成30年度 認定看護師活動実績 (資料1)

4. 教育活動

(1) クリニカルラダー認定者数

レベルⅠ 271人 レベルⅡ 175人 レベルⅢ 8人

(2) 平成30年度 研修状況 (資料2)

(3) 病棟看護補助者研修 6回 270人参加

5. その他

医療安全管理者養成研修修了者 13人
専任看護教員養成講習会修了者 15人
愛知DMAT隊員養成研修修了者 2人
災害派遣医療チーム研修修了者 (日本DMAT隊員) 8人
愛知県看護協会災害支援ナース登録者 18人
日本DMATインストラクター 2人

(資料1) 平成30年度 認定看護師活動実績

	実 践	指 導	相 談
感染管理	①医療関連感染サーベイランス(耐性菌・ウイルス、CLABSI、CAUTI、VAP、SSI) ②職業感染予防対策の推進(抗体価測定、ワクチン接種事業、他) ③職員健康外来の開催と診療介助 ④ICトピックスの配信 ⑤ICT Newsの発行 ⑥院内感染対策委員会への参加と運営 ⑦院内感染対策チーム(ICT)/抗菌薬適正使用支援チーム(AST)活動 ⑧手術看護エキスパート第12巻第4号:執筆 ⑨東三河地区感染管理担当者座談会:座長(計3回) ⑩学会発表:第57回全国自治体病院学会	①新規採用者オリエンテーション:講義 ②基礎看護技術演習:講義&演習 ③薬学生への感染対策:講義、院内ラウンド(計3回) ④中部地区中材業務研究会:講義(計2回) ⑤静岡県中部感染対策:講義 ⑥セーフティーリンクナース会:講義 ⑦再就職チャレンジ支援研修:講義 ⑧中途採用者オリエンテーション:講義(計2回) ⑨豊橋市立看護専門学校 看護第1.2科:講義(計30時間) ⑩豊橋准看護学校:講義(2クラス計10時間) ⑪院内感染対策講習会:講義(計2回) ⑫救急医学講座(初期研修医指導):講義 ⑬NST教育カリキュラム:講義 ⑭病棟勉強会:講義(3病棟)	①年間:220件 (看護師52%、医師31%、他17%)
手術看護	①看護スパイラルアップ委員会 周術期看護ケア部会メンバー/講師 ②日本手術看護学会東海地区周術期看護セミナー講師 ③日本手術看護学会東海地区内視鏡セミナー講師 ④豊橋市立看護専門学校 2年生看護第1科成人看護論講師 ⑤豊橋市立看護専門学校 2年生看護第2科成人看護論講師	①手術センタースタッフの周術期看護の指導	①手術センターキャリアラダーの実施と評価 ②特殊手術体位の確保方法と使用物品について ③小集団活動の活動内容について
訪問看護	①在宅療養支援(114人) ②退院後訪問(1人)	①病棟での学習会	①小集団活動の内容

透析看護	①血液浄化センターでの看護実践を通しての現場の質向上 ②腹膜透析患者の療法変更支援(1件) ③透析導入患者に対しての導入前面談(29件) ④転入・入院患者及び術前患者のシャントスクリーニング(101件) ⑤CKD教育入院に対する療養支援・療法選択支援(19件(延べ23件)) ⑥東三河腎不全看護研究会特別講師 ⑦東三河腎不全看護研究会座長	①血液透析の基礎学習会 ②腹膜透析学習会 ③シャント学習会 ④東三河腎不全看護研究会特別講師「リンのおはなし」	①糖尿病内科外来よりCKD4期の療法支援(2件) ②入院中の腹膜透析患者の支援(2件) ③外来より入院調整(22件)
認知症看護	①認知症や高齢により心身の安寧が得られていない患者に対する症状マネジメント ②高齢者のせん妄患者に対する症状マネジメント ③認知症のある患者の家族支援 ④認知症サポートチームラウンド(週1回および適宜臨時、99例) ⑤院内デイケア(摂食・嚥下障害看護認定看護師および脳卒中リハビリテーション看護認定看護師との共同により36回開催、延べ206人参加) ⑥各部署で取り組む認知症ケアについて認知症ケアリンクナースとの協同	①認知症サポートチームラウンドを通して、認知症看護についてスタッフに指導 ②認知症ケアリンクナースの活動について指導 ③認知症対策委員会主催勉強会(3回) (ア)「BPSD再入門」「ストップ介護離職」認知症対策委員会主催「認知症について」 (イ)「若年性認知症とともに生きる人々の支援」 (ウ)「新オレンジプランと豊橋市の認知症施策」「認知症を学び地域で支えよう」	①年間相談依頼件数(21件)

摂食・嚥下障害看護	① 認定看護師嚥下回診(週1回) (介入件数:78件) ② 病棟内の摂食・嚥下障害患者の把握と定期的な評価 ③ 嚥下カンファレンス(月1回) ④ 院内デイケア内での嚥下体操の実施(月1回)	① NST・嚥下障害リンクナース会「高齢者の摂食・嚥下障害の特徴と栄養管理」の講義 ② NST教育カリキュラム「摂食・嚥下」の講義 ③ チャレンジ研修(院内)「あなたの知らない食事介助のコツ」 ④ 豊川包括ケア情報展「脱水と嚥下障害について」	① 年間相談依頼件数(2件) ② 誤嚥リスクが高いが経口摂取を希望している患者の介入について(西病棟7階) ③ 自宅退院する患者の食事形態について(東病棟7階) ④ 姿勢調整と食事形態の検討について(東病棟7階)
小児救急看護	① 小児科外来でのトリアージ ② 倫理検討	① 小児科外来でのトリアージ ② 小児科外来での急変対応(PSVT、アナフィラキシー) ③ 東2階病棟看護師対象の演習(PBLS、子どもの挿管介助)	① なし
脳卒中リハビリテーション看護	① 音楽療法・院内デイケアを活用した離床時間の延長 ② 片麻痺患者や意識障害患者のポジショニング検討 ③ 高次脳機能障害患者への看護介入 ④ 脳卒中再発予防プログラムの運用・周知 (ア) 脳卒中再発予防プログラム学習会11～12月(南・西2・脳外科外来) (イ) 脳卒中退院時指導カンファレンスの開催(16例) (ウ) 有効床患者への指導開始10月～(61例) ⑤ 摂食機能療法2(30分未満)の運用検討と算定開始12月～(西2)	① 看護学校2科講義「脳神経疾患看護」11～12月(7時間) ② 東5階神経内科学習会2～3月(全3回) ③ 新城市民病院祭「寸劇:脳卒中の見つけ方」「脳卒中予防・相談」「患者体験コーナー」 ④ 地域包括ケア情報展「あなたの水分足りていますか?」	① 年間相談依頼件数(3件) ② 脳卒中再発予防指導依頼(3件)

糖尿病看護	①糖尿病内分泌内科病棟での糖尿病教育入院・糖尿病合併症患者への看護介入 ②院内インスリンシステム看護部門の運用検討 ③糖尿病対策委員会・サポートチーム会の運営 ④糖尿病内分泌内科外来での療養指導(週1回 57件)	①新人基礎看護技術研修「血糖測定、インスリン自己注射」講義・演習 ②病棟学習会「SAP療法について」「インスリンの基礎知識」講義 ③看護学校講義「内分泌・代謝疾患の看護」(10時間) ④准看護学校講義「内分泌・代謝疾患の看護」(6時間×2クラス)	①年間相談依頼件数(13件) (ア)インスリン自己注射指導(4件) (イ)自己血糖測定指導(1件) (ウ)フットケア(1件) (エ)低血糖・シックデイ指導(3件) (オ)血糖パターンマネジメント(1件) (カ)患者との関わりかた(1件)
皮膚・排泄ケア	①褥瘡ラウンド(週1回:359件) ②褥瘡フォローアップ回診(週1回:344件) ③褥瘡ハイリスク患者のリスクアセスメント・予防計画書立案・ラウンド・評価 ④ストーマ外来での患者のケア(週3回:751件) ⑤排尿ケアラウンド・カンファレンス(週1回:130件)	①褥瘡勉強会(講義)(2回) 「リスクアセスメントを活用して褥瘡予防をしよう」 「褥瘡発生したらどうする」 ②褥瘡ラウンドを通して、褥瘡予防・褥瘡ケアについてスタッフへ指導 ③基礎看護技術演習:講義・演習「安楽な体位の工夫」 ④NST教育カリキュラム:褥瘡ラウンド同行・講義 ⑤ストーマプロジェクトチーム勉強会(5回) 「ストーマラダーⅠ」 「ストーマサイトマーキング(応用編)」 「症例検討会①」「症例検討会②」「症例検討会③」 ⑥ストーマ外来に病棟看護師が参加し、ストーマ指導(2件) ⑦排尿ケア勉強会(講義):「病棟看護師の役割、導尿について」 ⑧再就職チャレンジ支援研修:講義・演習「ナースが知っておきたいスキンケアと褥瘡ケア」	①年間相談依頼件数(155件)

緩和ケア	①緩和ケアチームラウンド(104件/年) ②緩和ケアチームカンファレンス(3件/年) ③緩和ケアチームオピオイドラウンド(11件/年) ④がん患者指導管理1におけるIC同席(5件/年) ⑤がん患者指導管理2における心理的支援(2件/年)	①院内ラダー研修 (ア)緩和1「痛みのマネジメント」講義 (イ)緩和2「緩和ケアにおける臨床倫理」講義 (ウ)トピックス研修「緩和ケアにおける倫理カンファレンスのすすめ方」講義 ②緩和ケアリンクナース会(3回/年) ③患者総合支援センターセミナー「緩和ケアを受けられる患者・家族を支えるためにできること～急性期病院から緩和ケア病棟への架け橋～」講演 ④高校生一日看護体験ランチョンセミナー(1回/年) ⑤緩和ケアだより発刊(1回/年)	①年間相談依頼件数(10件) ②自部署病棟看護師からの相談対応
がん性疼痛看護	①緩和ケアチームラウンド(172件/年) ②緩和ケアチームカンファレンス(67件/年) ③緩和ケア外来(14件/年) ④がん患者指導管理1におけるIC同席(56件/年) ⑤がん患者指導管理2における心理的支援(12件/年) ⑥がん相談支援センターにおけるがん相談(237件/年) ⑦がん患者サロン(6回) ⑧倫理カンファレンス(11回)	①緩和ケアリンクナース会(3回/年) ②病棟勉強会「疼痛マネジメントについて」(東病棟5階) ③病棟勉強会「認知症を有するがん患者の痛みの評価方法について」(東病棟7階) ④ビジネスパーク「市民病院の仕事」(南稜中学校)	年間相談依頼件数(31件)
新生児集中ケア	①超低出生体重児の蘇生・初期ケアの平準化シミュレーション ②新生児早期退院スクリーニングシート、MSWカンファレンスの定着化 ③NIV-NAVA管理中のアセスメント能力向上	①NIV-NAVA管理中のアセスメント能力向上 ②NMCにおける感染対策 ③低体温療法中の看護(NMC) ④救急外来で出産になる場合の新生児初期ケア(救急外来)	①年間相談依頼(3件)

がん化学療法看護	①化学療法に伴う副作用の症状マネジメントに関する院内ラウンド(8部署) ②XELOX療法における手足症候群に対する介入(外来治療センター) ③同種移植予定患者の意思決定支援カンファレンス(西病棟9階) ④R-CHOPクリニカルパス使用患者の便秘の改善に向けた取り組み(西病棟9階)	①がん化学療法マニュアルの周知(バックプライミングについて)	①オブジーボ・ヤーボイ併用療法における投与管理と副作用マネジメント(西病棟8階) ②化学療法後の食思不振時の介入(西病棟7階) ③ショートハイドレーション時の必要飲水量と基準体重について(東病棟7階) ④内服抗がん剤による末梢神経障害と手足症候群についての看護ケア(西病棟6階) ⑤抗がん剤治療後の倦怠感への介入(東病棟6階) ⑥安全な抗がん剤投与管理に対する患者指導の方法(東病棟5階) ⑦CVポートの血管外漏出の対応と予防(西病棟7階) ⑧化学療法オリエンテーション用パンフレットの検討(西病棟7階) ⑨CVポートの穿刺が困難な患者への穿刺方法
集中ケア	①呼吸ケアサポートチーム活動(RST) (ア)人工呼吸器装着患者の早期呼吸器離脱を目指した活動(ラウンド患者数:年間延べ112人) ②西病棟3階(集中治療室)での看護実践を通し、提供する看護の質的向上を目指す ③院内看護師のフィジカルアセスメント能力の向上を目指す	①新人研修 (ア)「呼吸と循環のアセスメント・体位ドレーン」講義 (イ)「心電図」「フィジカルアセスメント」講義・演習 ②RSTリンクナース会セミナー (ア)「高齢者の特徴と呼吸のフィジカルアセスメント」講義 (イ)「呼吸音を聴こう！」講義・演習 ③リスクマネジメント講演会 (ア)「私が見つける急変のサイン」講義	①年間相談依頼件数(3件) ②RSTラウンドでの年間相談件数(8件)

救急看護	①救命病棟における看護実践を通し現場の質の向上に努めた ②災害看護の知識、技術の習得、向上の為講習会を開催し講義、演習を行った ③院内BLS・ICLS研修ではインストラクターとして参加し急変時の対応についての知識・技術の普及を図りインストラクターの育成にも努めた ④学会発表・支援(日本災害医学会:2件、内1件演題発表) ⑤創造大学 家族支援研究会のトピックスにて「災害時の看護の視点」講演 ⑥豊橋市の看護師を対象とした「災害時看護の力で地域を支える」研修	①救命災害リンクナース会にて講義・演習(災害時のマネジメント 患者急変時のマネジメント KIDUKI研修) ②新人研修「12誘導心電図」演習 「フィジカルアセスメント」講義 ③院内BLS・ICLS講習インストラクター育成 ④看護学校第1科「災害看護」講義 ⑤起震車 エアーストレッチャーでの避難訓練演習 ⑥JNTECインストラクター育成(主として後任の育成を実施) ⑦病棟看護師に対しKIDUKI研修「患者の診かた 急変させない」を計2回実施、救命災害リンクナースの育成 ⑧看護学校講義 統合看護Ⅱ ⑨患者の診かた学習会 シリーズで計5回実施	①年間相談依頼件数(3件)
放射線看護	①放射線治療外来の患者看護(371人) ②放射線科病棟ラウンド(週1回:3件) ③婦人科がんカンファレンス(7件/年)	①「統一した患者指導・ケアについて」スタッフへ指導(西病棟2階) ②「がん放射線治療について」勉強会(耳鼻科外来) ③「IMRT治療を選択する患者への説明について」スタッフへ指導(泌尿器科外来) ④「気切している頭頸部放射線治療終了後の皮膚炎の処置方法について」スタッフへ指導(東病棟7階) ⑤「IMRT治療と看護」「頭頸部放射線治療と看護について」勉強会(放射線科スタッフ)	①年間相談依頼件数(4件)

(資料2) 平成30年度 研修状況

	日付	研修名	延参加人数	内 容
フ レ ッ シ ュ 研 修	4/11 4/12 4/13	情報研修	47人	電子カルテの操作方法
	4/18 4/20 4/25 4/27 5/2 5/10	基礎看護技術研修 (6日間)	258人	感染対策 バイタルサイン測定 中材見学 膀胱留置カテーテル・オムツ交換 検査室 見学 採血・血糖測定・インスリン注射 点滴静脈 内注射 薬局見学 皮下・筋肉内注射 安楽な体位の工夫 外傷性の止血 リハビリ 見学 呼吸・循環アセスメント、酸素・吸引 体位ドレナージ NST 重症度、医療・看護必要度
	5/8 5/15 5/22 5/29 6/5 6/12 6/19	心電図研修 フィジカルアセスメン ト研修	43人	12誘導心電図計の正しい電極装着と操作方 法 フィジカルアセスメント
	5/10 5/11 5/23 5/24	プレ夜勤研修(4日間)	172人	12:30～21:00までの勤務帯を経験し、 看護師の業務の見学・体験を行う
	5/30	新人フォロー振り返り 研修	43人	働き始めて困ったこと、SBARを用いた報 告の仕方
	6/7 7/5 8/2 9/6 10/4	BLS研修	43人	気道確保、胸骨圧迫等の蘇生方法 AED(自動体外式除細動器)の使用法
	6/20	ME研修①	43人	輸液ポンプと輸注ポンプの取り扱い
	2日間 (部署毎)	夜勤研修(2日間)	43人	夜勤業務の内容、タイムマネジメント、優先 順位の考え方、SBAR報告、体調管理夜勤で 気を付けたいこと 夜間の情報収集の仕方
	7/11	消防研修	43人	院内消防設備の講義と消火用散水栓・消火 器の取扱い
	7/11	入職3カ月を経験して 感じたこと、夜勤研修 に向けて	43人	患者情報の整理と業務の組み立て方
	8/20	医療安全①	42人	新人が起こしやすいインシデントと改善策
	9/3	輸血・血液製剤の取扱 い、輸血時の看護	42人	血液製剤の取り扱いと輸血時の看護
	10/26 10/29	シミュレーション研修	21人 20人	多重課題シミュレーション
	11/13	急変時の対応	40人	患者アセスメント・CPR手技 気管挿管介助、挿管チューブの固定方法

	12/5	ME研修②	41人	人工呼吸器の取り扱いと看護
	2/18	プリセプターシップ研修	39人	一年の振り返りと次年度への課題
	2/18	医療安全②	39人	チームワークを活用した医療安全対策
レベルⅠ	7/6	看護倫理の原則	50人	看護倫理の原則、倫理と法律 倫理的な課題・ジレンマへのアプローチ
	8/27	看護過程の展開 ①基礎編	51人	看護過程の基本的な考え方と情報の解釈と 問題の明確化
レベルⅡ	6/25	リーダーシップ	27人	リーダーシップに必要な能力と理論
	7/30	文献検索	25人	文献検索方法と文献カードの作成
	8/14	人材育成〈1〉	33人	人材育成に必要な能力
	11/5	看護実践リフレクシ ョン	30人	体験・経験した看護実践の振り返りと意味 づけの明確化
レベルⅢ	7/9 9/10	人材育成〈2〉指導観 シリーズ①②	11人 11人	指導に対する考え方(指導観の明確化) 基礎看護技術に関する指導案の作成と評価 の仕方
	10/22 12/10	看護理論(概念演習) シリーズ①②	9人 9人	看護理論の概要 看護の主要概念について自分の考えを明ら かにする
実地指導者	6/11	実地指導者研修	43人	新人の現状を理解し、新人の陥りやすい状 態とメンタルサポートについて考える 新人が育つための環境をつくる力について 考える
	10/15	実地指導者研修	42人	コーチングスキル 傾聴、承認、質問、フィードバックのスキル について
	3/11	実地指導者研修	56人	実地指導者の役割について

研修名	コマ数	人数
フレッシュ研修	38	1,105人
レベルⅠ	2	101人
レベルⅡ	4	115人
レベルⅢ	2	40人
実地指導者研修	3	141人
計	49	1,502人

事務局

1. 概要

本年度は、患者が安心して入院し退院後も住み慣れた地域で療養や生活ができるよう、社会福祉士や看護師の増員による入退院支援体制の充実など、より一層の地域医療機関との連携強化を図った。また、ダヴィンチ手術の豊富な経験と質の高い技術が認められ、婦人科領域における術者として必要となるライセンス取得のための症例見学施設として認定を受けたほか、検査精度向上のため、県内公立病院では、愛知県がんセンターに次ぐ2番目の施設として、臨床検査部門における品質と能力の国際規格であるISO15189の認定を受けた。

本年度の主な事業としては、東三河の中核病院として、患者にやさしく負担の少ない治療の推進を図るとともに、最新の医療技術に対応するため、ダヴィンチの常設を含む内視鏡手術室2室のほか、外科手術とカテーテル治療を同時に実施できるハイブリッド手術室1室を備えた手術センター棟を整備した。また、救急医療の充実を図るため、救急外来センターの診察室を増室した。

(局長 山本 和敏)

2. 活動報告

(1) 収益的収入及び支出

区分			平成30年度			平成29年度			平成28年度		
			金額(円)	医業 収益比 (%)	構成比 (%)	金額(円)	医業 収益比 (%)	構成比 (%)	金額(円)	医業 収益比 (%)	構成比 (%)
収益的 収入	医業 収益	入 院 収 益	16,583,528,220	60.1	55.5	16,370,305,392	61.9	57.5	15,929,472,794	62.3	58.0
		外 来 収 益	9,777,592,324	35.4	32.7	8,796,981,515	33.3	30.9	8,421,437,767	33.0	30.6
		そ の 他 医 業 収 益	1,246,517,457	4.5	4.2	1,267,023,017	4.8	4.5	1,205,101,427	4.7	4.4
		小 計	27,607,638,001	100.0	92.4	26,434,309,924	100.0	92.9	25,556,011,988	100.0	93.0
	医業外 収益	受 取 利 息	4,938,267	0.0	0.0	1,481,067	0.0	0.0	2,910,194	0.0	0.0
		他会計負担金	915,881,844	3.3	3.1	844,012,044	3.2	3.0	788,750,220	3.1	2.9
		国庫補助金	22,799,000	0.1	0.1	18,786,000	0.1	0.1	20,973,000	0.1	0.1
		県補助金	46,712,000	0.2	0.2	40,505,000	0.2	0.1	42,488,000	0.1	0.2
		長期前受金戻入	590,383,216	2.1	2.0	669,964,625	2.5	2.4	644,372,340	2.5	2.3
		その他医業外収益	242,780,582	0.9	0.8	243,849,587	0.9	0.9	222,965,050	0.9	0.8
		小 計	1,823,494,909	6.6	6.1	1,818,598,323	6.9	6.5	1,722,458,804	6.7	6.3
		特別 利益	長期前受金戻入	448,663,537	1.6	1.5	199,254,236	0.8	0.7	194,847,695	0.8
	引当金戻入		0	0.0	0.0	6,338,832	0.0	0.0	0	－	－
	小 計		448,663,537	1.6	1.5	205,593,068	0.8	0.7	194,847,695	0.8	0.7
	計		29,879,796,447	108.2	100.0	28,458,501,315	107.7	100.0	27,473,318,487	107.5	100.0
収益 的 支 出	医業 費用	給 与 費	12,566,260,189	45.5	42.9	12,336,293,168	46.7	43.7	11,953,435,284	46.8	44.6
		材 料 費	9,335,455,912	33.8	31.9	8,502,879,168	32.2	30.1	7,932,084,951	31.0	29.6
		経 費	3,667,242,224	13.3	12.5	3,667,157,506	13.9	13.0	3,480,804,279	13.6	13.0
		減価償却費	2,375,453,582	8.6	8.1	2,184,089,700	8.3	7.7	1,603,766,509	6.3	6.0
		資産減耗費	60,454,647	0.2	0.2	161,599,899	0.6	0.6	259,081,628	1.0	1.0
		研究研修費	103,387,706	0.4	0.4	106,083,520	0.4	0.4	103,123,784	0.4	0.4
		小 計	28,108,254,260	101.8	96.0	26,958,102,961	102.1	95.5	25,332,296,435	99.1	94.6
	医業外 費用	支 払 利 息	414,188,509	1.5	1.4	462,463,803	1.7	1.6	505,273,053	2.0	1.9
		保 育 費	44,810,442	0.2	0.2	45,500,491	0.2	0.2	41,850,785	0.1	0.1
		長期前払消却 費税償却	0	－	－	0	－	－	1,782,827	0.0	0.0
		貸倒引当 金繰入額	29,563,600	0.1	0.1	18,252,000	0.1	0.1	20,176,000	0.1	0.1
		雑 損 失	685,404,543	2.5	2.3	731,874,609	2.8	2.6	893,085,618	3.5	3.3
		小 計	1,173,967,094	4.3	4.0	1,258,090,903	4.8	4.5	1,462,168,283	5.7	5.4
	計		29,282,221,354	106.1	100.0	28,216,193,864	106.7	100.0	26,794,464,718	104.8	100.0
	当年度純利益(△純損失)		597,575,093	－	－	242,307,451	－	－	678,853,769	－	－
前年度繰越利益剰余金 (△繰越欠損金)		1,023,798,258	－	－	1,023,490,807	－	－	1,022,637,038	－	－	
そ の 他 未 処 理 欠 損 金 変 動 額		704,000,000	－	－	1,517,000,000	－	－	0	－	－	
当年度未処分利益剰余金 (△未処分欠損金)		2,325,373,351	－	－	2,782,798,258	－	－	1,701,490,807	－	－	

※各項目は表示単位未満を四捨五入で処理しているため、合計と内訳の数値が一致しない場合がある。

(2) 行為別入院収益・外来収益

区 分		平 成 30 年 度		
		金額(円)	前年度比(%)	構成比(%)
入 院 収 益	投 薬 収 入	120,837,986	95.2	0.7
	注 射 収 入	365,702,174	97.2	2.2
	処 置 及 び 手 術 収 入	4,486,642,479	107.8	27.1
	検 査 収 入	190,318,186	101.7	1.1
	放 射 線 収 入	38,899,014	105.4	0.2
	入 院 料	10,562,233,526	99.0	63.7
	給 食 収 入	357,165,464	95.4	2.2
	そ の 他	461,729,391	104.8	2.8
	計	16,583,528,220	101.3	100.0
外 来 収 益	初 診 料	154,609,991	100.7	1.6
	再 診 料	877,137,178	106.9	9.0
	投 薬 収 入	885,683,314	113.1	9.1
	注 射 収 入	4,175,055,736	116.5	42.7
	処 置 及 び 手 術 収 入	350,971,299	105.2	3.6
	検 査 収 入	1,821,937,350	104.0	18.6
	放 射 線 収 入	1,217,672,472	107.3	12.4
	そ の 他	294,524,984	124.8	3.0
	計	9,777,592,324	111.1	100.0

(3) 資本的收入及び支出

(円)

区 分		平成30年度	増 減	平成29年度	増 減	平成28年度	増 減
資本 の 収 入	企 業 債	1,370,400,000	1,332,800,000	37,600,000	△ 5,411,100,000	5,448,700,000	3,386,700,000
	他 会 計 負 担 金	1,257,861,315	283,013,132	974,848,183	28,221,524	946,626,659	30,125,499
	投 資 回 収 金	10,464,000	2,136,000	8,328,000	△ 532,000	8,860,000	6,172,500
	県 補 助 金	－	△ 12,927,000	12,927,000	9,435,000	3,492,000	3,492,000
	固定資産売却代金	－	－	－	－	－	△ 72,736,110
	損益勘定留保資金	2,711,650,362	963,395,647	1,748,254,715	△ 294,299,954	2,042,554,669	696,909,267
	減債積立金取崩額	704,000,000	△ 813,000,000	1,517,000,000	1,517,000,000	－	－
	消費税及び地方消費税 資本の収支調整額	6,451,956	△ 577,739	7,029,695	△ 12,358,613	19,388,308	10,850,187
	計	6,060,827,633	1,754,840,040	4,305,987,593	△ 4,163,634,043	8,469,621,636	4,061,513,343
資本 の 支 出	施 設 改 良 費	1,514,017,631	773,444,182	740,573,449	△ 3,728,469,043	4,469,042,492	2,317,488,892
	資 産 購 入 費	1,651,724,161	△ 361,445,444	2,013,169,605	△ 474,656,824	2,487,826,429	1,691,604,843
	長 期 貸 付 金	36,417,200	1,502,400	34,914,800	△ 1,584,400	36,499,200	6,947,800
	投 資 有 価 証 券	791,242,618	791,242,618	－	－	－	－
	企 業 債 償 還 金	2,067,416,260	550,086,521	1,517,329,739	41,088,531	1,476,241,208	45,459,501
	補 助 金 返 還 金	9,763	9,763	－	△ 12,307	12,307	12,307
	計	6,060,827,633	1,754,840,040	4,305,987,593	△ 4,163,634,043	8,469,621,636	4,061,513,343

(4) 貸借対照表 (平成 31 年 3 月 31 日)

(単位: 円)

資 産 の 部			
1	固 定 資 産		
(1)	有 形 固 定 資 産		
	イ 土 地	6,385,451,623	
	ロ 建 物	19,913,594,073	
	減価償却累計額	<u>△ 8,400,979,742</u>	11,512,614,331
	ハ 附 属 設 備	17,356,866,293	
	減価償却累計額	<u>△ 11,866,678,014</u>	5,490,188,279
	ニ 構 築 物	1,591,874,896	
	減価償却累計額	<u>△ 794,622,347</u>	797,252,549
	ホ 器 械 備 品	10,921,043,307	
	減価償却累計額	<u>△ 6,697,977,047</u>	4,223,066,260
	ヘ 車 両	16,260,211	
	減価償却累計額	<u>△ 13,479,544</u>	2,780,667
	ト 放射線同位元素	12,747,000	
	減価償却累計額	<u>△ 6,883,380</u>	5,863,620
	チ リ ー ス 資 産	1,662,433,809	
	減価償却累計額	<u>△ 469,355,561</u>	1,193,078,248
	リ 建 設 仮 勘 定		11,000,000
	有形固定資産合計		29,621,295,577
(2)	無 形 固 定 資 産		
	イ 電 話 加 入 権	7,041,831	
	ロ ソ フ ト ウ ェ ア	971,211,350	
	ハ その他無形固定資産	<u>10,596,667</u>	
	無形固定資産合計		988,849,848
(3)	投資その他の資産		
	イ 投資有価証券	791,463,583	
	ロ 長 期 貸 付 金	111,007,200	
	貸倒引当金	<u>△ 73,671,600</u>	37,335,600
	ハ 出 資 金		500,000
	ニ 破 産 更 生 債 権 等	85,321,250	
	貸倒引当金	<u>△ 85,321,250</u>	0
	投資その他の資産合計		829,299,183
	固 定 資 産 合 計		31,439,444,608
2	流 動 資 産		
(1)	現 金 預 金		5,170,378,928
(2)	未 収 金	4,660,658,183	
	貸倒引当金	<u>△ 11,865,662</u>	4,648,792,521
(3)	貯 蔵 品		39,317,376
(4)	前 払 金		<u>1,145,730</u>
	流動資産合計		9,859,634,555
	資 産 合 計		<u>41,299,079,163</u>

負 債 の 部

3	固 定 負 債				
(1)	企 業 債				
イ	建設改良費等の財源 に充てるための企業債	<u>16,508,052,623</u>			
	企 業 債 合 計			16,508,052,623	
(2)	リ ー ス 債 務			929,438,872	
(3)	引 当 金				
イ	退職給付引当金	<u>4,555,732,295</u>			
	引 当 金 合 計			<u>4,555,732,295</u>	
	固 定 負 債 合 計				21,993,223,790
4	流 動 負 債				
(1)	企 業 債				
イ	建設改良費等の財源 に充てるための企業債	<u>2,120,726,732</u>			
	企 業 債 合 計			2,120,726,732	
(2)	リ ー ス 債 務			359,085,636	
(3)	引 当 金				
イ	賞与引当金	572,137,269			
ロ	法定福利費引当金	<u>107,028,204</u>			
	引 当 金 合 計			679,165,473	
(4)	未 払 金			2,283,008,608	
(5)	未払消費税及び地方消費税			14,856,000	
(6)	預 り 金			<u>124,390,938</u>	
	流 動 負 債 合 計				5,581,233,387
5	繰 延 収 益				
(1)	長 期 前 受 金				
イ	受贈財産評価額	12,263,075			
	収 益 化 累 計 額	<u>△ 7,995,941</u>	4,267,134		
ロ	補 助 金	1,184,850,249			
	収 益 化 累 計 額	<u>△ 825,008,921</u>	359,841,328		
ハ	負 担 金	14,554,388,509			
	収 益 化 累 計 額	<u>△ 12,616,422,783</u>	<u>1,937,965,726</u>		
	長 期 前 受 金 合 計			<u>2,302,074,188</u>	
	繰 延 収 益 合 計				2,302,074,188
	負 債 合 計				<u>29,876,531,365</u>

資 本 の 部

6 資 本 金			8,490,942,341
7 剰 余 金			
(1) 資 本 剰 余 金			
イ 受 贈 財 産 評 価 額	253,764,805		
ロ 負 担 金	110,467,301		
資 本 剰 余 金 合 計		364,232,106	
(2) 利 益 剰 余 金			
イ 退 職 給 付 引 当 金	242,000,000		
ロ 当 年 度 未 処 分 利 益 剰 余 金	2,325,373,351		
利 益 剰 余 金 合 計		2,567,373,351	
剰 余 金 合 計			2,931,605,457
資 本 合 計			11,422,547,798
負 債 資 本 合 計			41,299,079,163

(5) 主な経営財務分析

区 分	算 式	平成30年度	平成29年度	平成28年度
平均在院日数 1. (施設基準上の算定) (日)	$\frac{\text{在 院 患 者 数}}{1/2(\text{新入院患者数} + \text{退院患者数})}$	11.5	12.5	12.8
病床利用率 2. (一般病床) (%)	$\frac{\text{入 院 患 者 数}}{\text{許 可 病 床 数}} \times 100$	87.9	90.7	88.3
入院患者1人1日 3. 当たり収入額 (円)	$\frac{\text{入 院 収 益 額}}{\text{入 院 患 者 延 数}}$	65,894	63,068	63,025
外来患者1人1日 4. 当たり収入額 (円)	$\frac{\text{外 来 収 益 額}}{\text{外 来 患 者 延 数}}$	20,716	19,081	18,325
剖 検 率 5. (%)	$\frac{\text{解 剖 数}}{\text{院 内 死 亡 患 者 数}} \times 100$	3.0	4.3	3.8
100床当たり職員数 6. (人)	$\frac{\text{職 員 数 (年 度 末)}}{\text{許 可 病 床 数 (年 度 末)}} \times 100$	148.9	147.4	142.3
100床当たり医師数 7. (人)	$\frac{\text{医 師 数 (年 度 末)}}{\text{許 可 病 床 数 (年 度 末)}} \times 100$	23.1	23.0	22.4
100床当たり 8. 看護師数 (人)	$\frac{\text{看 護 師 (年 度 末)}}{\text{許 可 病 床 数 (年 度 末)}} \times 100$	92.1	92.3	89.5
100床当たり器械備品額 9. (年度末) (千円)	$\frac{\text{器 械 備 品 額 (減 価 償 却 累 計 額 控 除 額)}}{\text{許 可 病 床 数}} \times 100$	527,883	507,505	538,416
人 件 費 率 10. (%)	$\frac{\text{給 与 費}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	45.5	46.7	46.8
流 動 比 率 11. (%)	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}} \times 100$	176.7	199.7	264.5
総 資 本 利 益 率 12. (%)	$\frac{\text{当 年 度 純 利 益}}{1/2(\text{期首総資産} + \text{期末総資産})} \times 100$	1.4	0.6	1.7

医師事務作業補助者

1. 概要

医師事務作業補助者は、医師の事務作業軽減を目的として2008年に誕生した職種である。当院では、2009年から採用を開始し、現在46人となった。主な業務内容は以下の3つである。

- ①文書作成補助業務：保険会社の入院証明書・通院証明書、介護保険にともなう主治医意見書、傷病手当一時金等の診断書作成補助を行っている。今年度は、新たに障害年金診断書を開始した。当院は、ドクタークラークと称している。
- ②臨床データ登録業務：診療に関するデータの抽出・整理・登録業務、薬品市販後調査、患者を他院に紹介するための画像CDの作成補助をしている。当院は、ドクタークラークと称している。
- ③外来助手業務：診察室内準備、診療補助、電子カルテへの代行入力を行っている。当院は、外来クラークと称している。

これらの業務は、医師事務作業軽減委員会で管理をしている。また、医師事務作業補助者の活躍が医師に認められ、年々業務依頼が増加しており、当院にとって欠かせない存在となった。

来年度は、さらに医師の要望を取り入れ、医師の事務作業の軽減に努めたい。

(委員長 杉浦 勇)

2. 活動報告

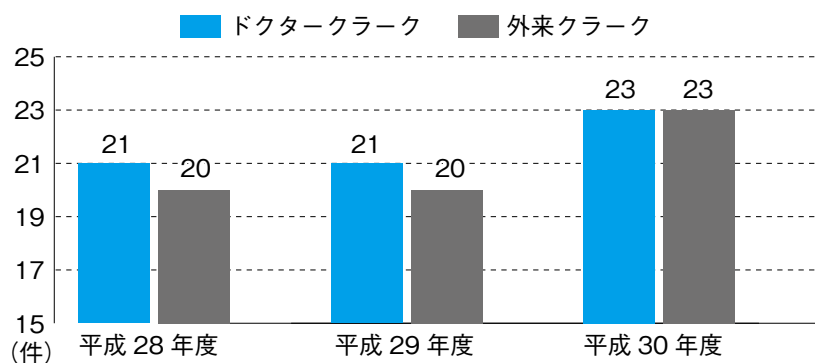
(1) 従事者数

①ドクタークラーク

チーム名(主な業務)	人数(人)
Aチーム (入院証明作成)	6
Bチーム (その他書類作成)	7
Cチーム (データの抽出・整理)	7
Dチーム (市販後調査の補助)	3
計	23

②外来クラーク

診療科	人数(人)
内科	6
外科	3
脳神経外科	3
整形外科・リウマチ科	2
産婦人科	1
産婦人科(生殖医療)	1
放射線科	1
小児科	2
泌尿器科	2
眼科	1
耳鼻いんこう科	1
計	23



(2) ドクタークラーク実績

①入院証明作成補助業務（担当者 5人）

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
入院証明書(患者申込数)	671	740	749	759	783	639	901	795	749	683	768	795	9,032
中止件数	4	6	6	5	7	1	6	11	3	6	3	2	60
入院証明書(実質作成数)	667	734	743	754	776	638	895	784	746	677	765	793	8,972

②その他書類作成補助業務（担当者 7人）

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
指定難病(新規・更新)臨床調査個人票	20	556	569	121	67	48	34	19	13	18	16	21	1,502
介護保険主治医意見書	93	127	129	104	126	125	117	108	111	128	117	116	1,401
自賠責保険診断書	134	158	134	137	123	151	116	174	134	116	143	119	1,639
傷病手当金請求書	148	150	152	154	146	160	150	152	164	169	138	147	1,830
労災休業給付申請書	40	32	35	24	22	23	32	47	38	37	39	43	412
生活保護医療要否意見書	81	67	57	25	104	67	83	74	55	71	60	68	812
B型C型肝炎患者医療給付事業受給者票認定に係わる診断書	7	14	8	3	7	4	15	6	15	18	12	10	119
肝疾患インターフェロン治療効果判定報告書	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	15
出産一時金支給申請書	3	4	1	4	6	2	6	5	4	6	4	2	47
出産手当金支給申請書	4	6	4	6	5	4	6	4	6	2	9	3	59
訪問看護指示書	26	29	28	31	32	27	34	30	39	27	34	34	371
障害認定医師意見書	7	6	7	1	13	4	16	3	6	11	11	9	94
自立支援	12	6	9	4	7	9	1	5	8	9	11	15	96
結核定期病状調査報告書	1	16	4	10	10	3	2	19	15	7	2	1	90
小児慢性特定疾病	7	7	3	8	3	8	6	143	76	25	8	4	298
障害年金診断書	13	14	9	18	11	17	13	14	15	17	11	15	167
身体障害者診断書(神経内科・脳神経外科・整形外科)	2	4	2	2	6	6	3	5	3	5	9	6	53
特別児童扶養手当認定診断書(小児科)								0	0	4	5	1	10
計	598	1,196	1,151	652	703	658	634	808	702	670	629	614	9,015

③他院紹介・学会用CD作成業務（担当者 5人）

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
転院・紹介用(申請書あり)	145	163	179	149	141	146	157	166	157	121	115	141	1,780
学会・研究用(申請書あり)	3	7	12	13	15	3	7	2	6	1	4	10	83
転院・紹介用(Dr作成)	515	571	554	574	633	550	655	609	546	591	584	630	7,012
学会・研究用(Dr作成)	8	4	1	0	3	2	3	11	10	27	12	3	84
計	671	745	746	736	792	701	822	788	719	740	715	784	8,959

④薬品別市販後調査票作成業務（担当者 3人）

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
調査票記入数	25	16	25	23	50	19	31	29	30	20	26	31	325
製薬会社提出数	37	10	15	42	52	19	37	29	30	24	19	35	349
製薬会社説明会	0	1	1	1	1	2	2	1	1	2	0	0	12

診療科	調査数	症例数
呼吸器内科	8	74
消化器内科	4	48
循環器内科	4	28
腎臓内科	3	12
糖尿病・内分泌内科	1	1
神経内科	4	13
血液・腫瘍内科	9	30
一般外科	2	5
整形外科	1	1
リウマチ科	3	45
脳神経外科	4	14
小児科	5	13
耳鼻咽喉科	1	4
皮膚科	5	28
泌尿器科	1	3
計	55	319

⑤症例登録・抽出業務（担当者 8人 ※③・④・⑥担当者兼務）

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
DWHを使用したデータ抽出・作成	14	5	11	9	5	6	4	14	8	6	6	6	94
NCD症例登録(一般外科)	120	165	147	159	154	131	160	131	136	164	147	135	1,749
乳癌初回追跡調査	8	606	131	0	0	0	102	0	28	0	0	0	875
全国原発性肝臓追跡調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54	1	30	85
NCD症例登録(心臓外科・血管外科)	1	4	22	3	13	15	11	2	14	16	4	15	120
NCD症例登録(脳神経外科)	80	151	125	123	237	106	126	142	164	106	133	83	1,576
NCD症例登録(循環器内科)	16	16	10	11	18	9	5	11	15	14	10	15	150
NCD症例登録(移植外科)	0	18	0	0	18	0	3	0	2	5	0	0	46
NCD症例登録(呼吸器外科)	11	14	13	8	10	21	15	17	15	17	6	8	155
NCD症例登録(泌尿器科)	0	24	133	55	42	33	51	37	29	42	73	32	551
血液学会疾患登録(血液・腫瘍内科)	34	39	9	2	4	55	0	60	24	0	0	0	227
血液学会疾患登録(小児科)	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
計	284	1,042	601	370	501	379	477	414	435	424	380	324	5,631

⑥各診療科の患者データベース作成業務（担当者 8人 ※③・④・⑥担当者兼務）

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
肛門外科	188	197	241	202	195	237	213	198	266	164	206	236	2,543
脊椎外科	21	29	22	21	20	10	37	19	26	31	19	30	285
呼吸器外科	2	2	5	3	4	4	10	8	14	9	4	8	73
心臓外科・血管外科	6	5	4	8	9	4	8	6	5	7	3	4	69
歯科口腔外科<外傷>	0	4	0	0	0	0	0	0	150	130	0	0	284
歯科口腔外科<口腔>	50	300	300	325	225	25	0	0	0	0	0	0	1,225
消化器内科	23	18	18	27	39	21	31	35	29	27	22	33	323
産婦人科<助産録分娩件数>	87	124	66	0	151	76	0	80	118	137	83	0	922
リウマチ科	50	103	57	74	32	47	46	49	45	43	45	25	616
放射線科	0	0	0	0	0	0	295	93	0	0	0	0	388
小児科<新生児、小児救急重篤疾患>	3	2	1	3	10	8	3	3	3	4	43	22	105
消化器内科<RFA>	2	4	2	3	4	1	8	2	3	2	1	3	35
整形外科	8	37	50	25	52	23	32	30	39	56	34	44	430
産婦人科<臓器がん登録>	60	193	0	0	13	21	0	67	0	0	27	30	411
小児科<川崎病調査>	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	110	110
計	500	1,018	766	691	754	477	683	590	698	610	487	545	7,819

⑦院外研修実績

がん登録中級者認定試験に1人合格。

医師事務作業補助者コース（日本病院会）に2人受講。

